



ラグビーワールドカップ2019™

神奈川県・横浜市開催記録集

Rugby World Cup 2019™
Memories of the games held in HOST CITY KANAGAWA · YOKOHAMA



ラグビー ワールドカップ 2019™

神奈川県・横浜市開催記録集

Rugby World Cup 2019™
Memories of the games held in
HOST CITY KANAGAWA · YOKOHAMA

TM © Rugby World Cup Limited 1986. All rights reserved.



ラグビー ワールドカップ 2019™

神奈川県・横浜市開催記録集

Rugby World Cup 2019™
Memories of the games held in
HOST CITY KANAGAWA · YOKOHAMA



19世紀のイングランドで、フットボールの試合中に、ウィリアム・ウェブ・エリス少年がボールを持ったまま走った「反則」がラグビーの起源と言われ、その故事にちなみ優勝トロフィーは「ウェブ・エリス・カップ」と呼ばれている。

4年に一度じゃない。
一生に一度だ。

ONCE IN A LIFETIME





2019年11月2日 決勝 横浜国際総合競技場

南アフリカがイングランドを下し、世界の頂点に立った。

王者の証であるウェブ・エリス・カップが、彼らの手で横浜の夜空に高く掲げられた。



決勝の南アフリカ対イングランド。入場者数は今大会最多の70,103人となり、競技場としても2002FIFAワールドカップ™決勝を超え、歴代最多記録を塗り替えた(11月2日)

01

Inside International Stadium Yokohama

横浜国際総合競技場で繰り広げられた数々のドラマに世界中が熱狂した

横浜国際総合競技場では決勝、準決勝2試合を含む6試合を開催。ニュージーランド代表のハカから幕を開け、台風19号による試合中止の危機を乗り越えての日本代表の決勝トーナメント進出、そして南アフリカ代表の優勝。神奈川・横浜で繰り広げられた数々のドラマに世界中が熱狂した。



準決勝、ウェールズ対南アフリカ。わずか3点差の接戦だった(10月27日)

準決勝でイングランドとニュージーランドが激突。ハカに対抗するV字隊列が話題となった(10月26日)



日本中が見守った日本対スコットランド。日本は勝利し、初の決勝トーナメント進出を決めた(10月13日)



イングランド対ニュージーランドの熱戦に会場は興奮の渦に包まれた(10月26日)



決勝トーナメント仕様に装飾された選手入場ゲート



世界トップレベルの試合を真剣に見つめる県内ジュニアラグビー選手たち(9月21日)



選手のロッカールームもラグビーワールドカップ仕様に



世界のトップが激突し、世界中が熱狂した決勝でイングランドに勝利し、3度目の優勝を決めた南アフリカ。ノーサイドの瞬間、南アフリカのサポーターは歓喜し、イングランドサポーターは勝者を称えた(11月2日)



応援するチームのジャージを身にまとい、ワクワクした表情で競技場に向かう人々。応援する気持ちに国籍は関係ない

02 Around International Stadium Yokohama

世界中から集まった ラグビーファンが 期待を胸に競技場へ

世界最高峰のラグビーを観戦するため、
世界中からラグビーファンが横浜国際総合競技場に集まった。
競技場周辺は、試合前から日本人も外国人もお祭り騒ぎだ。



海外メディアも多数訪れ、神奈川・横浜は世界に大きく発信された



競技場入場のため、チケット認証の順番を待つ大勢のラグビーファン



入場ゲートには、オープン前から入場を待ち望むファンの待機列が



世界中から訪れたラグビーファンで、新横浜・小机の街は大賑わい



大会を支える公式ボランティアによるおもてなし。フォトフレームで記念撮影



03 Fanzone Events

神奈川・横浜と世界が 出会うファンゾーン

ラグビーワールドカップ2019™を通じ、
このファンゾーンという空間で、
神奈川・横浜と世界が出会い、大きな感動と興奮を分かち合う。
この出会いは4年に一度じゃない。一生に一度だ。



ステージでは、神輿や
歌舞伎の「連獅子」など、
出場国や日本の文化
パフォーマンスを実施

パブリックビューイング
を楽しむ観戦客。13日
間で25試合を放映





「ラグビーワールドカップ2019™ ファンゾーン in 神奈川・横浜」。全開催都市で最大面積を誇り、13日間で約15万3,700人が来場した



誰でも気軽にラグビーの楽しさを体験できるアクティビティ。子どもにも大人気



ラグビー観戦には欠かせないビールを飲みながら、神奈川・横浜の老舗・名店の味や出場国の料理が楽しめた



退場時には、ボランティアがハイタッチでお見送り



大会期間中は、身長約9mの巨大ラグーマンのモニュメント『Big Try』をはじめ、街灯バナーやフラッグなどの都市装飾でラグビー一色に

04 Snapshots During the Games

神奈川・横浜の魅力を世界へ

大会期間中、国内外から多くの観戦客が神奈川・横浜を訪れた。

この大きなチャンスに神奈川・横浜の魅力を感じていただくため、街の賑わい創出やシティプロモーションに取り組んだ。



ランドマークプラザの中にも懸垂幕を設置。三菱地所株によるラグビーボールの装飾も施され、官民一体で大会を盛り上げた



新横浜エリアで花と緑による華やかさや賑わいを演出



大船駅構内の大型パネル



小田原市の北条早雲像にオーストラリアチームキャンプ受入に向けた装飾が施された



大会期間中、外国人観光客で賑わう鎌倉の鶴岡八幡宮



国内外からの観光客で賑わう横浜・野毛。外国人も日本人も、昭和レトロな野毛の街の魅力を、夜遅くまで楽しんだ

横浜中華街や三溪園など、横浜を代表する観光地も大会期間中、国内外からの観光客で賑わった



決勝1年前を記念して横浜市庁舎前で開幕までの時を刻むカウントダウンボードの除幕式を行った（2018年11月2日）

05 Leading Up to the Games

オール神奈川・横浜で大きく盛り上げた ラグビーワールドカップ2019™

この大会の大きな盛り上がりは、一朝一夕でできたものではない。
開催都市に決定してからオール神奈川・横浜で積み重ねてきた一つひとつの取組が、
実を結んだ結果だった。



神奈川・横浜の関係者が一堂に
会し、大会の成功に向け、決起
集会を行った（2019年7月11日）



大会2年前イベントで行われた「開催都
市特別サポーター（神奈川県・横浜市）
委嘱式」の様子（2017年9月18日）
左から、黒岩神奈川県知事、鈴木彩香氏、
林敏之氏、吉田義人氏、林横浜市長



ツイッターなどのSNSやホームページで
国内外向けにラグビーのルールから
神奈川・横浜の魅力まで情報を発信



決勝100日前イベントで打ち上げられた「ラグビーボール型花火」(2019年7月25日)



開幕100日前イベントでスコットランドの楽器であるバグパイプの演奏パフォーマンス(2019年6月15日)



鎌倉 長谷寺で開催したパブリックビューイング(2019年8月3日)



トライを決める写真が撮れるトライフォトはイベントの人気コンテンツ



鎌倉大仏殿高徳院に展示された優勝トロフィー「ウェブ・エリス・カップ」(2019年8月31日)



海老名駅のカウントダウンボード除幕式(2019年3月3日)

06 Host City Initiatives

安全・円滑な大会運営と 最高のおもてなし

国内外から訪れる大勢の観戦客を安全・円滑に競技場へ送り届けること、そして大会を通じて、神奈川・横浜での体験が最高のものとなるようおもてなしすることが開催都市の使命。

オール神奈川・横浜で全力で取り組み、「世界最高レベル」と評された。



神奈川・横浜で行われる試合当日やファンゾーン開催日には、横浜駅など主要駅に案内デスクを設置



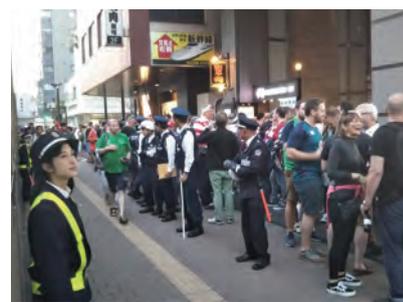
大会の顔である公式ボランティアは、競技場やファンゾーンへの案内誘導などを担い、外国語対応も含めホスピタリティあふれる対応で、高く評価された



外国から訪れた観戦客に笑顔で声掛け



試合当日は、競技場近くの「セブン&アイ・ホールディングス伊藤研修センター」に、競技場外での案内誘導や警備をはじめ開催都市運営を総括する「開催都市大会運営本部」を設置した



競技場周辺の交通誘導を行う警備スタッフの活動



ファンゾーン開催日には、オープン前のミーティングでボランティアとスタッフが円陣を組み気を入れた



試合前の競技場で、県内のマーチングバンドとバトンのチームがパフォーマンスを披露し、国内外からのラグビーファンをおもてなした(9月21日)



試合開催日に新横浜駅北口西広場で開催したおもてなしイベントでは、書道体験などが外国人に人気。出場国・地域のアンセムをみんなで歌うステージイベントも大盛況だった



トロフィーツアーで来日したウェブ・エリス・カップを見つめる小田原ラグビースクールの子どもたち

07 Rugby Experiences for the Next Generation

将来を担う神奈川・横浜の子どもたちへ

ラグビーワールドカップ2019™は、
 多くの人に感動を与え、記憶に残る歴史的な大会となった。
 この大会の成果を一過性のものとすることなく、
 将来を担う神奈川・横浜の子どもたちへの贈り物（レガシー）
 として遺していかななくてはならない。



横浜国際総合競技場で行われる試合でボールパーソンを務めた慶應義塾高校蹴球部の部員たち



スコットランド代表ヘッドコーチによるラグビークリニックに参加した横浜市内の高校生（2019年4月22日）



小田原市のオーストラリア代表
 歓迎セレモニー



日本を含む7カ国・地域の子どもたちによるラグビー交流「どもラグビーワールドフェスティバル2019 supported by 三菱地所グループ」を開催(2019年4月17日～22日)

ラグビーの試合や文化体験などを行い、子どもたちにとって忘れられない体験となった



ラグビー元日本代表選手などの小学校訪問事業でタグラグビーを体験



吉田義人氏による親子ラグビー教室



現役選手も参加して出場国の料理を給食で(2019年9月13日)

ごあいさつ



神奈川県知事
黒岩祐治

アジアで、そしていわゆるラグビー伝統国以外で初めて開催された「ラグビーワールドカップ2019™日本大会」は、日本各地で44日間に渡る熱戦を繰り広げ、南アフリカの3大会ぶり3度目の優勝で、大成功のうちに幕を閉じました。

決勝戦開催の地として、神奈川・横浜がその重責を無事に果たすことができ、ワールドラグビーのビル・ボーマント会長からも「もっとも偉大な大会であった」と最大級の賛辞をいただけたことも、開催地の知事として大変誇りに思います。

これも、神奈川県と横浜市がしっかりとスクラムを組み、長期にわたり準備を進めてきたからこそその成果であり、大会関係者の皆様をはじめ、大会の顔として活躍いただいたボランティアの皆様、そして県民の皆様の力が、まさに「ワンチーム」として結集したからこそこのことと、深く感謝申し上げます。

私たちは、大会を通じて各国代表チームの戦いや振る舞いに触れることで、「多様性の持つ強さ」、「力を合わせることの大切さ」、「他者を尊重する美しさ」などを改めて実感することができました。これは、本県が目指す「ともに生きる社会」のキーワードである「リスペクト」にも通じるものであり、県民の皆様の心にレガシーとして刻まれたことは、本大会の大きな成果と考えています。

また、世界中から訪れた観戦客の皆様との心の通った交流も印象的であり、神奈川・横浜の魅力を多くの方に感じていただけたものと思っています。

ラグビーワールドカップを契機に醸成された、スポーツへの関心や盛り上がり、そして「心のレガシー」を、2020年の「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」、2021年の全国健康福祉祭「ねんりんピックかながわ2021」へと着実に繋げてまいります。

最後になりますが、改めまして本大会の開催に関わっていただいたすべての皆様方に御礼申し上げますとともに、皆様の御健康と御多幸を祈念いたしまして、私の挨拶といたします。



横浜市長
林 文子

アジア初の「ラグビーワールドカップ2019™」は、ボランティアや市民の皆様の御協力のもと、多くのお客様を心温まるおもてなしでお迎えし、記憶に残る素晴らしい大会となりました。また、神奈川県とは、誘致をスタートした当初から一緒に歩みを進め、このたびの大会の成功につながりました。お力添えを賜りました全ての皆様に、深く感謝申し上げます。

開催にあたり、組織委員会の皆様と全12開催都市が着実に準備を進め、44日間の大会を成功裏に終えることができ、日本の魅力を世界中へ大きく発信することができました。開催自治体協議会会長として、厚く御礼申し上げます。

横浜市では、決勝を含む6試合が開催され、闘志溢れるプレーや、互いを尊重し、称えあうノーサイドの精神に、世界中が感動と興奮の渦に包まれました。開催期間中、台風が日本を直撃しましたが、関係者の皆様の懸命の復旧作業により、「日本 対 スコットランド」戦の開催に漕ぎつけました。その結果、ラグビーファンはもとより、日本中の人々の心を震わせた日本代表チームの勝利が、この横浜の地で実現しました。

横浜国際総合競技場には、国内外から延べ401,742人、臨港パークのファンゾーンにも、延べ153,700人ものお客様にお越しいただきました。特に、「イングランド 対 南アフリカ」の決勝の入場者数は、今大会最多の70,103人となり、同競技場の入場者数歴代1位を記録しています。横浜の街は、国内外から訪れる多くのお客様の笑顔で溢れ、大変な賑わいとなりました。

このたびの大会で醸成されたスポーツへの関心や賑わいを、皆様と一緒に「東京2020オリンピック・パラリンピック」に繋げてまいります。

むすびに、本大会に御支援・御協力いただきました皆様の御健勝と益々の御清栄を祈念いたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。

CONTENTS 〈目次〉

カラーグラビア 002

ごあいさつ 018

CHAPTER 1

ラグビーワールドカップ2019™ 神奈川・横浜開催へ 021

大会概要、開催概要 022

神奈川・横浜開催への軌跡 024

開催期間中の神奈川・横浜 030

CHAPTER 2

安全・円滑な 大会運営に向けて 035

開催都市 神奈川・横浜 036

開催都市大会運営本部 042

台風19号への対応 047

交通輸送 049

大会警備 053

ボランティア 058

権利保護 066

医療救護 067

危機管理 068

公衆衛生対策 069

会場整備 071

公認チームキャンプ地 077

CHAPTER 3

神奈川・横浜から 大会を盛り上げよう 081

機運醸成の取組の概要 082

機運醸成イベント 084

広報 094

ブース出展 098

市内18区及び県内市町村との連携 099

ラグビー普及 100

国際交流 102

CHAPTER 4

神奈川・横浜の 魅力を世界へ 105

ファンゾーン 106

シティドレッシング 122

試合開催日のイベント 128

ホストシティパフォーマンス 130

街の賑わいと観光振興 131

「花と緑にあふれる環境先進都市」の取組 138

滞在環境の向上 141

CHAPTER 5

レガシー 神奈川・横浜の未来へ 143

発祥の地から決勝の地、そして未来へ 144

オール神奈川・横浜の
開催能力とおもてなしを後世につなげる 146

神奈川・横浜のラグビーの未来のために 150

ラグビーワールドカップ2019
神奈川・横浜開催を終えて 156

CHAPTER

1

ラグビーワールドカップ[®]2019[™] 神奈川・横浜開催へ

アジアで初めて開催される「ラグビーワールドカップ2019日本大会」の神奈川・横浜開催が決定してから、神奈川県・横浜市や県・市ラグビーフットボール協会、民間企業、関係機関がスクラムを組み、大会開催に向けた準備を進めてきた。開催までの、そして開催期間中の日々を追う。





ラグビーワールドカップ 2019™ 日本大会 大会概要

- 大会名** ラグビーワールドカップ 2019™ 日本大会
- 大会組織委員会** 公益財団法人ラグビーワールドカップ2019組織委員会
- 関係組織** ワールドラグビー、ラグビーワールドカップリミテッド、公益財団法人日本ラグビーフットボール協会
- 大会日程** 2019年9月20日(金)～11月2日(土)
- 参加チーム** 20チーム
- 競技会場** 全国12会場
- 開催都市** 12都市19自治体
- 試合開催数** 45試合
(台風の影響で中止の3試合を除く)
- ファンゾーン会場** 12都市16会場



数字で見る開催実績

(観客動員数)

延べ **170万** 4,443人

(テレビ瞬間最高視聴率)

53.7%
日本対スコットランド
10/13 横浜国際総合競技場

(チケット販売)

約 **184万枚**
販売率99.3% 大会史上過去最多
(中止3試合含む)

(ファンゾーン入場者数)

約 **113万** 7,000人
大会史上過去最多

(海外観戦客数<推計>)

延べ **57万** 8,000人





神奈川・横浜 開催概要

試合会場

横浜国際総合競技場

試合結果



No	日程	試合開始時間	プール	対戦	観客動員数
1	9月21日(土)	18:45	B	ニュージーランド 対 南アフリカ 23 - 13	63,649人
2	9月22日(日)	16:45	A	アイルランド 対 スコットランド 27 - 3	63,731人
-	10月12日(土)	17:15	C	イングランド 対 フランス 台風のため中止	-
3	10月13日(日)	19:45	A	日本 対 スコットランド 28 - 21	67,666人
4	10月26日(土)	17:00	準決勝1	イングランド 対 ニュージーランド 19 - 7	68,843人
5	10月27日(日)	18:00	準決勝2	ウェールズ 対 南アフリカ 16 - 19	67,750人
6	11月2日(土)	18:00	決勝	イングランド 対 南アフリカ 12 - 32	70,103人
合計					401,742人

ファンゾーン会場

臨港パーク
(横浜市西区みなとみらい1丁目)

ファンゾーン開催日数

13日間
(台風の影響で中止の10月12日、13日を除く)

数字 見る開催実績

(観客動員数)

6試合合計で

40万
1,742人

全会場総動員数の約23.5%

(決勝観客動員数)

7万103人

競技場史上最高を記録

※2002FIFAワールドカップ決勝は69,029人

(市民が選ぶ横浜10大ニュース)

2019年

第1位

(メディア露出)

広告価値換算額

359億円

※2019年4～12月 国内のみ

(ファンゾーン来場者数)

15万
3,700人

1日平均で約12,000人
(12開催都市16会場で最多)

(ファンゾーン ケータリング売上)

1億
3,391万円

ビール消費量は
14万6,431本 (350ml換算)

ラグビーワールドカップ2019™ 日本大会 神奈川・横浜開催への軌跡

2009年

7月 ラグビーワールドカップ2019™日本開催決定

2010年

11月 ラグビーワールドカップ2019組織委員会設立

2014年

10月 開催都市の募集開始

12月 神奈川県・横浜市が開催都市に立候補を表明

横浜市は一旦立候補を断念したものの、競技団体や県民・市民の後押しで、神奈川県と共同での立候補を表明し、募集の締め切り後であったが大会組織委員会がこれを受理した。

2015年

3月 神奈川県・横浜市が
開催都市に決定 (3月2日)

アイルランドのダブリンで開催されたラグビーワールドカップリミテッド理事会で承認された。横浜市内「ヨコハマNEWSハーバー」で、パブリックビューイングを開催し、決定の瞬間を大勢の人が見守った。



8月 「ラグビーワールドカップ2019開催基本契約」締結 (大会組織委員会、神奈川県、横浜市)

9月 ラグビーワールドカップ2015™開幕

(9月18日～10月31日)

県・市の視察団が、開催地イングランドで試合会場やファンゾーンを視察

横浜国際総合競技場が決勝会場に決定 (9月28日)

新国立競技場の工期延長に伴い、横浜国際総合競技場が決勝会場に決定した。

2016年

4月 ラグビーワールドカップリミテッド統括責任者が
横浜国際総合競技場を視察

決勝開催に相応しい会場として様々な課題が確認され、以後、会場整備を進めていくことになった。

ラグビーワールドカップ2019

東京2020オリンピック・パラリンピック横浜市推進本部設立 (4月25日)

本大会成功に向け全庁で取組む体制を整えるため、市長を本部長とし副市長、区局長を構成員とする推進組織を設立。さらに、特に重要なテーマについて、実務レベルで区局横断的にスピード感を持って集中的に検討するため、8つの副市長プロジェクトも設立した。

9月

開幕3年前

開幕3年前の節目にジャパンラグビートップリーグの開催にあわせた広報を展開

横浜国際総合競技場で初のラグビー公式戦

(ジャパンラグビートップリーグ) (9月10日)

初めてのラグビー公式戦で、芝の耐久性等の検証とあわせ、2019キックオフイベントin横浜を開催した。



10月

神奈川県がラグビー・オリパラ神奈川応援団を設立 (10月8日)

※正式名称「ラグビーワールドカップ2019及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会神奈川推進会議」

県及び県内市町村、スポーツ団体や公共交通機関、医療機関等関係団体で構成し、本大会成功に向け、オール神奈川で取組む体制を整えた。

11月

小学校訪問事業を開始 (11月14日)

ラグビー元日本代表選手などを講師として招き、講演やタグラグビーの実技指導を行った。以降、毎年度実施事業となる。

横浜市が横浜開催推進委員会を設立、同設立総会を開催 (11月17日)

※正式名称「ラグビーワールドカップ2019・東京2020オリンピック・パラリンピック横浜開催推進委員会」

市及び市会、経済団体、交通関係団体、医療機関、スポーツ関係団体などで構成し、本大会成功に向けオール横浜で取組む体制を整えた。



12月

公認チームキャンプ地選定プロセスに横浜市、神奈川県・藤沢市、厚木市、海老名市が応募

2017年

2月

決勝1000日前

決勝1000日前記念イベント開催 (2月5日)

決勝1000日前の節目にカウントダウンイベントを開催

ラグビーワールドカップ特別仕様ナンバープレート交付開始 (4月3日)

5月

ラグビーワールドカップ2019™ 開催自治体協議会会長に林文子横浜市長が就任 (5月10日)

「ラグビーワールドカップ2019™ プール組分け抽選会」(京都迎賓館) (5月10日)

安倍晋三内閣総理大臣や各界著名人のほか、林文子横浜市長もプレゼンターとして登壇し、抽選を行った。

ラグビーワールドカップリミテッドによるベニュービジット (会場視察) (5月23日)



7月

「ラグビーワールドカップ 2019™ 専門委員会」及び「東京 2020 オリンピック・パラリンピック専門委員会」第1回合同委員会開催 [横浜市] (7月5日)

9月

開幕2年前

開幕2年前の節目にカウントダウンイベントを開催

開催都市特別サポーター【神奈川県・横浜市】委嘱式 (9月18日)

大会2年前イベントにおいて、開催都市特別サポーターを委嘱した。
(開催都市特別サポーター)
林敏之氏 (男子ラグビー元日本代表)
吉田義人氏 (男子ラグビー元日本代表)
鈴木彩香氏 (女子ラグビー日本代表)

ラグビーワールドカップ 2019™
2年前イベント in YOKOHA



ラグビーワールドカップ2019™ラッピングバス (横浜市営) 運行開始 (9月19日)

ラグビーワールドカップリミテッドによるベニュービジット (会場視察) (9月29日)

10月

JR新横浜駅ペDESTリアンデッキにカウントダウンボード設置 (10月20日)

以降、節目にあわせて順次、各所にカウントダウンボードを設置していく。

11月

全試合の試合日程決定 (11月2日)

横浜市内「ヨコハマNEWSハーバー」において、東京で行われた発表会のパブリックビューイングを実施し、多くのファンが見守った。神奈川・横浜会場では、決勝を含む7試合が決定した。(うち、1試合は台風の影響で中止)

横浜国際総合競技場で初のラグビー国際試合 (11月4日)

「リポビタンDチャレンジカップ2017 日本代表対オーストラリア代表」が開催され、本大会へ向けたテストとして大会仕様を満たすためのフィールド拡張を実施した。



©JRFU

親子ラグビー教室事業を開始 (11月19日)

開催都市特別サポーターを務める吉田義人氏による、小学生以上の親子を対象としたラグビー教室を開催。以降、毎年度実施事業となる。

2018年

1月

大会公式マスコット「レンジー」発表 (1月26日)

チケット(セット券)の一般抽選販売開始

(1月27日～2月12日)

3月

開催都市住民向け抽選販売開始 (3月19日～4月12日)

販売開始にあわせて開催都市として初のシティドレッシングを実施

ラグビーワールドカップリミテッドによるベニュービジット (会場視察) (3月23日)

「ラグビーワールドカップ 2019™専門委員会」及び「東京 2020 オリンピック・パラリンピック専門委員会」第2回合同委員会開催【横浜市】(3月26日)

交通輸送基本計画策定

危機管理基本計画策定

横浜国際総合競技場の競技用照明をLED化



レン ジー

白い方は親の「レン」(Ren)、赤い方は子の「ジー」(Gee)。うれしいことがあると髪をぐるぐる回したり、レンジーダンスを踊る

4月 ラグビーワールドカップ2019組織委員会 神奈川・横浜地域支部 (LOC) 設立

横浜市、海老名市が 公認チームキャンプ地に内定 (4月20日)

大会ボランティア「TEAM NO-SIDE」募集開始 (4月23日～7月18日)

第1回医療救護検討部会 [横浜市] (4月24日)

本大会開催中、迅速確実な医療提供等を行うことにより万全を期すため、市内医療機関関係者からご意見をいただき、協議する場として部会 (横浜開催推進委員会の下部組織) を設立した。

特設ホームページ

「横浜ラグビー情報 ～YOKOHAMA・KANAGAWA RUGBY NEWS～」公開

ホームページのほか、SNSも運用開始

5月 開幕500日前

開幕500日前の節目にカウントダウンイベントを開催 (5月6日)



6月 横浜国際総合競技場 芝生フィールド全面 「ハイブリッド芝」張替 (6月26日～30日)

本大会での連日のラグビー競技実施に向け、天然芝と人工芝の補強材を組み合わせ、天然の芝に比べて芝表面の強度や耐久力が向上するハイブリッド芝に張替を行った。



8月 キヤノンラグビーウォールギャラリー掲出開始 (市営地下鉄関内駅) (8月17日)

9月 一般向け第一次チケット抽選販売開始 (9月19日～11月12日)

テロ対策合同訓練 (実働訓練、情報受伝達訓練) (9月12日)

横浜国際総合競技場において、テロ対策合同訓練を実施

開幕1年前

開幕1年前の節目にイベントや広報などの「開幕1年前キャンペーン」を展開。あわせて、「神奈川・横浜 観戦ガイド」も発行

10月 第1回交通輸送検討部会 [横浜市] (10月3日)

安全・円滑な交通輸送の実現のため、交通事業者など関係機関からご意見をいただき、協議する場として部会 (横浜開催推進委員会の下部組織) を設立した。

ラグビーワールドカップリミテッドによる開幕1年前のベニュービジット (会場視察) (10月19日)

横浜国際総合競技場で 「キヤノン ブレディスローカップ2018」 (10月27日)

「ニュージーランド代表対オーストラリア代表」。本大会開催を約1年後に控えたこの日、伝統の一戦が神奈川・横浜で行われた。大会仕様にあわせフィールド拡張を実施したほか、本大会と同じ「セブン&アイ・ホールディングス伊藤研修センター」に大会運営本部を設置し、案内誘導ボランティアの配置や案内デスクの設置など大会運営面のテストを実施した。



©JRFU

11月

決勝1年前

決勝1年前の節目にイベントやシティドレッシングなどを実施

ファンゾーンテストイベント 「みなとみらい RUGBY STADIUM 2018」開催 (11月3日)

ファンゾーン会場となる臨港パークで、「リポビタンDチャレンジカップ2018 日本代表対ニュージーランド代表」のパブリックビューイングのほか、ラグビーアクティビティや神奈川・横浜地元グルメをテーマにしたケータリングなど様々なコンテンツが楽しめるイベントを開催した。



「TEAM NO-SIDE」インタビューロードショー (11月30日～12月2日)

大会ボランティア候補者約1,700人を対象に、インタビュー（面接）を実施。自己紹介やゲームを織り交ぜたグループワークなどを行った。その結果を踏まえ、翌月に約1,500人を採用。



2019年

2月 「TEAM NO-SIDE」研修スタート (2月9日)

2月9日のオリエンテーションを皮切りに、ボランティアに対する各種研修が始まった。

3月 公認チームキャンプ地の 決定発表 (3月11日)

内定していた横浜市（アイルランド、スコットランド）、海老名市（ロシア）に加え、小田原市（オーストラリア）が追加された。

ラグビーワールドカップリミテッドによる
開幕半年前のベニュービジット（会場視察）(3月14日)

交通輸送実施計画策定

警備基本計画策定

危機管理計画策定



4月 「こどもラグビーワールドフェスティバル2019 supported by 三菱地所グループ」開催 (4月17日～22日)

世界7つの国と地域の子どもたちが参加し、ラグビーの試合を行ったほか、横浜市内の学校を訪問しての交流や、茶道・剣道などの日本文化体験も行われた。

5月 横浜国際総合競技場 仮設工事（記者席、実況席、コーチボックス）開始

大会組織委員会から示された仕様に沿って、記者席・実況席・コーチボックスの仮設整備を実施し、決勝に相応しい設備を整えた。

6月 「TEAM NO-SIDE」リーダートレーニング (6月7日、8日)

開幕100日前

開幕100日前の節目にカウントダウンイベントを開催

7月 「TEAM NO-SIDE」ロールトレーニング (7月5日、8日)

大会公式ゲストホスピタリティ施設設営開始 (7月9日)

ファンゾーン開催日を決定、発表 (7月10日)

大会開幕の9月20日から決勝の11月2日まで、臨港パークで毎週土日を中心に15日間開催することを発表した。
※うち2日間が台風の影響で中止となったため、実際の開催は13日間



横浜開催推進委員会と神奈川推進会議の合同総会を開催 (7月11日)

開幕を約2か月後に控えたこの日、横浜開催推進委員会とラグビー・オリバラ神奈川応援団の合同総会を開催し、大会の成功に向け、改めてオール神奈川・横浜の結束を確認した。

決勝100日前

決勝100日前の節目にカウントダウンイベントを開催

危機管理図上訓練実施 (情報受伝達訓練) (7月25日)

8月 シティドレッシング (都市装飾) 開始
(8月20日～11月4日)

大会を盛り上げ、街をラグビー一色に彩るシティドレッシングを開始。桜木町駅周辺、山下公園周辺、関内駅周辺、横浜駅周辺、新横浜駅周辺、小机駅周辺にバナー掲出を行った。

**テロ対策訓練実施 (実働訓練、情報受伝達訓練)** (8月21日)

本大会開催時の横浜国際総合競技場でのテロ発生を想定、実働訓練及び情報受伝達訓練を実施した。また、開催都市運営本部を設置する「セブン&アイ・ホールディングス伊藤研修センター」でも競技場内との情報受伝達訓練を実施し、発災時の対応を確認した。

9月 医療救護計画策定**横浜国際総合競技場
フィールド拡張工事開始** (9月2日)

本大会開催に向けて大会仕様を満たすため、フィールド拡張工事を実施した。



「日本のラグビー発祥地 横浜」の碑建立・除幕式 (9月5日)

警備実施計画策定

大会ボランティア「TEAM NO-SIDE」ユニフォームなど配付 (9月7日～9日)

大会ボランティア「TEAM NO-SIDE」ベニュートレーニング
(ファンゾーン周辺：9月7日～9日、競技場周辺：14日～16日)

ボランティアが実際に活動するエリアを歩きながら現地を確認する研修を開催し、いよいよ開幕が迫る本大会に向け準備を行った。

**横浜国際総合競技場 独占使用期間開始**
(9月11日～11月4日)**「巨大ラガーマン『Big Try』」(独自装飾)
設置** (9月19日～11月2日)

多くの方に写真を撮っていただき、神奈川・横浜での思い出とともに、世界中に神奈川・横浜の魅力を発信していただくため、桜木町駅前に巨大ラガーマンがトライを決めている大迫力のモニュメント「Big try」を設置した。

**ラグビーワールドカップ2019™開幕** (9月20日)**ファンゾーンが始まる** (9月20日)

オープニングイベントを開催し、神奈川・横浜のファンゾーンがいよいよ始まった。

**横浜国際総合競技場
初戦を迎える** (9月21日)

神奈川・横浜会場の初戦「ニュージーランド対南アフリカ」が開催された。



ラグビーワールドカップ 2019™ 日本大会 開催期間中の神奈川・横浜

開催準備は整った

● 都市装飾で街はラグビー一色に

日本で、神奈川・横浜で初めて開催されるラグビーワールドカップ。競技場周辺や横浜都心臨海部をはじめ県内各地に都市装飾が施された。

また、9月15日には新横浜町内会により新横浜駅前東広場に「新横浜ウェルカムモニュメント」が設置されたほか、開幕前日の9月19日には、桜木町駅前に巨大ラグーマンがトライを決めている大型モニュメント『Big Try』を設置し、ラグビーワールドカップ2019™の観戦に国内外から訪れる多くの人々を迎える準備が整った。



● 横浜国際総合競技場も大会仕様に

横浜国際総合競技場は、9月11日から大会組織委員会へ提供された。開幕に向けて状態を整えてきた芝生フィールドや仮設の記者席、実況席、コーチボックス、ホスピタリティ施設などの準備も整い、競技場内の各所は大会仕様に装飾された。あとは、9月21日の神奈川・横浜会場の初戦を待つばかり。



● ファンゾーンも準備万端

9月19日、翌日のオープンに先駆けメディア向けに完成したファンゾーンの中を公開した。元ラグビー日本代表の廣瀬俊朗氏らをゲストに招き全体のコンセプトや各種コンテンツを紹介。その様子は、各メディアで広く取り上げられた。

ラグビーワールドカップ2019™が いよいよ開幕

● 神奈川・横浜はファンゾーンから幕が上がる

9月20日、東京スタジアムで開会式が行われたこの日、『ラグビーワールドカップ2019 ファンゾーンin神奈川・横浜』がオープンした。準備を進めてきたボランティアも、いよいよ始動。

日本ではまだ馴染みが薄かった「ファンゾーン」が、日本で受け入れられるのか、外国人ファンがどれだけ神奈川・横浜ファンゾーンを訪れるのか未知数だったが、初日から予想をはるかに上回る8,800人が来場し、運営スタッフ、ケータリング事業者は嬉しい悲鳴をあげた。



● 横浜国際総合競技場で初戦を迎える

9月21日、神奈川・横浜会場の初戦、「ニュージーランド対南アフリカ」の試合が開催された。ホストシティパフォーマンスとして、神奈川県バトン協会・神奈川県マーチングバンド連盟の合同チームが演技を披露し、観客から温かい拍手が送られた。

ニュージーランドのハカから始まり、強豪チーム同士の激闘に63,649人が熱狂した。

安全・円滑な開催都市運営を全う

● 開催都市の役割

国内外から訪れる観戦客の皆様が安心して楽しんでいただけるよう、「開催都市大会運営本部」を「セブン&アイ・ホールディングス伊藤研修センター」に設置し、交通輸送、警備、医療救護、危機管理について万全の体制を整え、安全・円滑な大会運営を実施した。

● 交通輸送

ボランティアによる歩行者動線や案内デスクでの案内誘導、警備スタッフによる雑踏整理により、大会期間を通じて大きなトラブルもなく、安全・円滑に観戦客を競技場やファンゾーンまで誘導した。

● 大会警備

試合開始6時間前からラストマイル上に警備スタッフを配置し、雑踏整理や巡回警備を実施。入場ゲート前には長蛇の列ができたものの警備スタッフにより秩序が保たれた。

● 医療救護・危機管理

新横浜駅北口西広場に「場外救護所」を設置したほか、開催都市大会運営本部内に「派遣型医療チーム」を設置するなど、観戦客及び大会関係者の安全を確保した。

また、危機事案が発生した場合の被害を最小限にとどめるため、万全の危機管理体制を確立した。

開催期間中の盛り上がり



● 横浜国際総合競技場

神奈川・横浜会場では、台風で中止となった1試合を除き、計6試合が開催された。どの試合も大勢の観客で埋め尽くされ、激闘の数々に競技場は興奮と感動で包まれた。

● ファンゾーン

開催した13日間で約15万3,700人が来場したファンゾーン。予想をはるかに超える大盛況ぶりに、開催4日目からは、一部コンテンツの実施エリアを変更し、より多くの方がファンゾーンを楽しんでいただけるようにした。

また、ステージイベントやラグビーアクティビティ、ケータリング、地元PRブースなど各コンテンツも大変好評だった。



● おもてなしイベント

試合開催日には、新横浜駅北口西広場で「横浜ラグビーフェスタ2019」を開催した。外国人に人気を博した書道体験や出場国・地域のアンセムを歌うステージイベントなどを行い、大変賑わった。また、小机駅周辺では、「こづくえマルシェ」を開催し、国内外の観戦客をおもてなしした。



● ボランティアの活躍

ボランティアは、競技場やファンゾーン会場への案内誘導、ファンゾーンでの運営補助のほかにフォトフレームでの写真撮影などお客様へのおもてなしの役割も担い、大会を盛り上げた。



台風19号直撃と 日本代表の決勝トーナメント進出

● 台風19号の直撃

大会期間中の10月初旬、台風19号が発生し関東に直撃する見込みとなった。これを受け、10月10日、神奈川県・横浜市は、10月12日、13日のファンゾーンや横浜ラグビーフェスタ2019など当日イベントの中止を決定した。

また、同日、大会組織委員会からも10月12日に神奈川・横浜会場で開催予定だった「イングランド対フランス」の中止が発表された。一方、10月13日「日本対スコットランド」の開催可否は台風通過後の当日の朝に下される判断を待つこととなった。



● 台風直撃直後、歴史的瞬間の舞台となる

台風通過後の13日早朝、開催都市大会運営本部では周辺の被害状況の確認に奔走した。情報は競技場内の大会組織委員会に共有し、大会組織委員会は同10時45分、「様々な可能性を慎重に検討した結果、予定通り試合を開催することに決定した」と発表。

決勝トーナメント進出を賭けた「日本対スコットランド」の戦いは、28-21で日本が勝利し、神奈川・横浜はもちろん、日本中に感動の声が溢れ、横浜国際総合競技場は歴史的瞬間の舞台となった。



そして、決勝へ



● 横浜国際総合競技場は 決勝の特別仕様の装飾に

決勝を控えた横浜国際総合競技場は、決勝特別仕様の装飾にお色直しされた。いよいよ、神奈川・横浜で王者がウェブ・エリス・カップを掲げる時が迫っていた。イングランドか南アフリカか。両チームのファンも気合いが入る。

● ファンゾーンも最終日

9月20日のオープン以来、賑わい続けたファンゾーンも11月2日決勝が最後の開催。大会公式マスコットのレンジーも駆けつけ「レンジーと歌舞伎」をステージで披露し最後の1日を盛り上げた。また、東京2020オリンピック・パラリンピックの公式マスコットキャラクターのミライトワとソメイティも訪れ、翌年のオリンピック・パラリンピックへとバトンが繋がれた。



● そして、南アフリカ優勝の瞬間を迎えた



決勝「イングランド対南アフリカ」の戦いに競技場は熱気に包まれた。激闘の末、12-32で南アフリカが3度目の優勝。神奈川・横浜でウェブ・エリス・カップが高らかに掲げられた。その時、南アフリカファンは歓喜で絶叫し、イングランドファンは勝者を称える拍手を送っていた。

この日の入場者数は、本大会最高記録の70,103人。競技場としても2002FIFAワールドカップ決勝を上回る過去最高記録となり、ここ神奈川・横浜に新たな歴史が刻まれた。

世界トップレベルの運営

神奈川県・横浜市は、大会ボランティアや地元経済団体、公共交通機関、医療機関などとスクラムを組み、オール神奈川・横浜で開催に取り組み、安全・円滑な大会運営とホスピタリティあふれるおもてなしは、大会組織委員会から「世界トップレベル」と評価された。また、様々なおもてなしに街は国内外からの観戦客で賑わい、神奈川・横浜の魅力は広く海外へも発信された。この経験と絆をレガシーとして継承していく。



CHAPTER

2

安全・円滑な 大会運営に向けて

神奈川県・横浜市では横浜国際総合競技場とファンゾーンに来場されるお客様の安全を確保し、大会を円滑に開催運営するために、大会組織委員会、警察、消防、交通事業者など、関係各所と緊密に連携しながら、様々な準備を行った。



開催都市 神奈川・横浜

大会主催者及び競技団体

ラグビーワールドカップ™を主催するワールドラグビーは、世界のラグビーを統括する機関で、ラグビーを普及・発展させるために、様々な施策を行っている。

その施策の主な資金源となるものがラグビーワールドカップの収益であり、その収益は各ユニオン（協会）に分配されるほか、いろいろな国際大会を開催するなど、様々な形で活用される。

ワールドラグビーはラグビーワールドカップを運営する専門会社として出資100%の子会社「ラグビーワールドカップリミテッド」を設立。同社に準備・運営を委託している。

一方、日本ラグビーフットボール協会は、2009年にラグビーワールドカップ2019™の日本開催が決定した際、ラグビーワールドカップリミテッドと開催協会合意書を結び、開催協会（ホストユニオン）となった。

また、日本ラグビーフットボール協会は、2010年11月に開催協会合意書に基づき、大会の準備・運営を行う専門機関「ラグビーワールドカップ2019組織委員会」を立ち上げた。同組織委員会は公益財団法人として、大会に向けてラグビーワールドカップリミテッドと密に連携しながら準備を進めた。

ラグビーワールドカップ2019関係組織図



開催都市の役割

2015年3月、神奈川県・横浜市は開催都市に決定し、同年8月、ラグビーワールドカップ2019組織委員会と県・市の3者で「ラグビーワールドカップ2019開催基本契約」を締結した。

同契約に定める開催都市の役割としては、次のとおり。

- (1) 交通、警備などの公共機能の提供
- (2) マーケティング活動の支援
- (3) シティドレッシング
- (4) 関連イベントの支援
- (5) 環境と共生に配慮した大会開催への協力
- (6) ボランティア・プログラムの支援
- (7) レガシープログラムの支援
- (8) 試合開催会場の提供
- (9) 練習会場の確保
- (10) 前各号のほか組織委員会及び開催自治体が別途協議の上合意する事項

開催都市として求められるものは、(1) 交通、警備などの公共機能の提供、(6) ボランティア・プログラムの支援、(8) 試合開催会場の提供などの「開催準備」と、(2) マーケティング活動の支援、(3) シティドレッシング、(4) 関連イベントの支援などの「県域・市域の機運醸成」に大別される。



開催都市発表のパブリックビューイング（2015年3月2日）

推進体制

〈神奈川県・横浜市の推進体制〉

県と市は、2015年8月に締結した「ラグビーワールドカップ2019の横浜開催に係る費用分担及び職員派遣に関する協定書」に基づき、開催都市の役割である開催準備・機運醸成について役割分担を行った。

市が単独で実施する会場整備のほか、共同で実施する大会運営や市内の機運醸成に係る業務については市を実施主体とし、県から市に必要な職員を派遣することとした。一方、市外県域の機運醸成に係る業務については、県が単独で実施することとした。

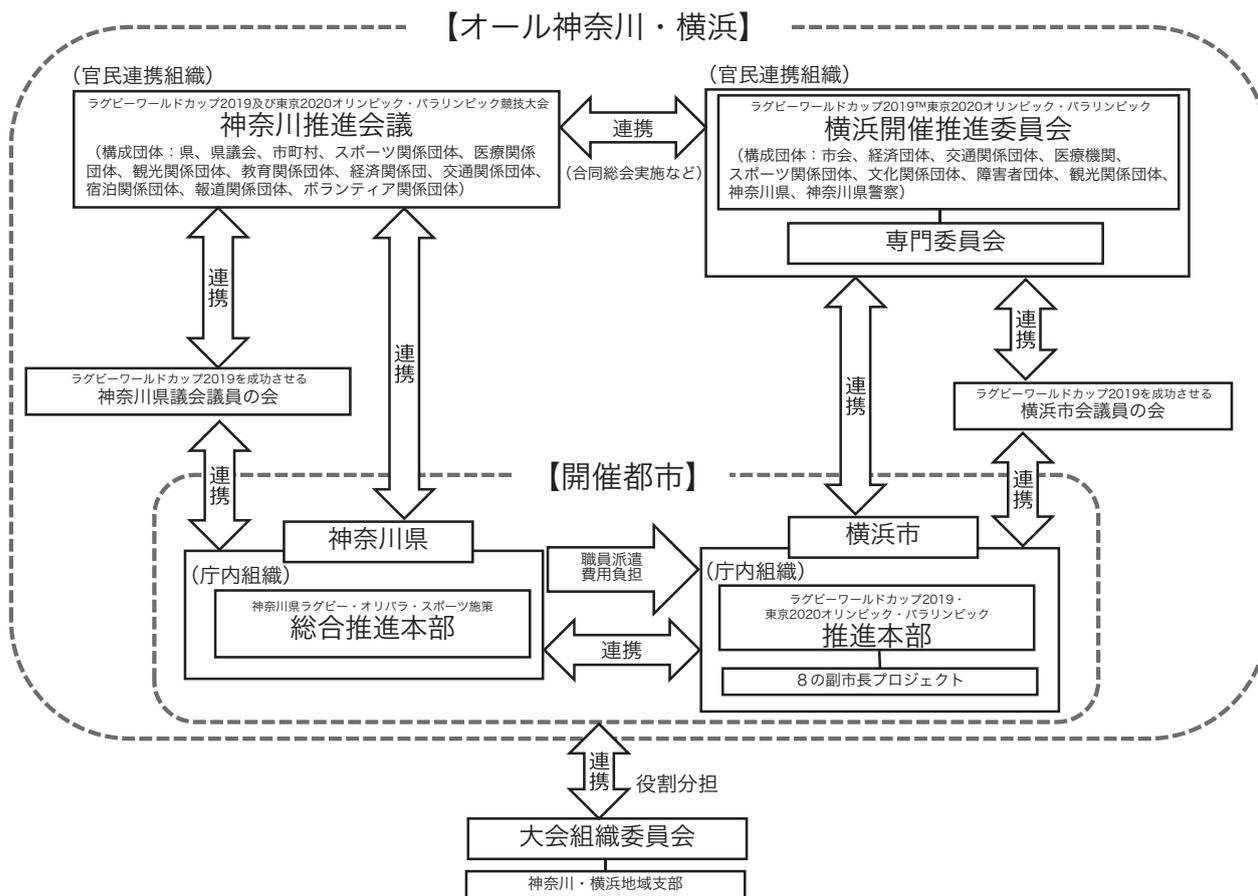
なお、事業費についても同様の考え方で、県と市がそれぞれ応分の負担をすることとした。

開催都市マーク



開催都市が使用するために作られた公式マーク

推進組織相関図



〈開催準備・市域の機運醸成の体制(横浜市)〉

2014年度、市民局スポーツ振興課に開催準備・市域の機運醸成の業務を進める担当が設置され、前述の協定に基づき、市職員と県からの派遣職員で構成された。

2015年度までは、課長1名、係長1名、職員1名の3名体制で、2016年度は課長2名、係長3名、職員3名の8名体制になった。

2017年度にはラグビーワールドカップ・オリンピック・パラリンピック推進課が発足し、ラグビーワールドカップ2019の担当は部長1名、課長3名、係長10名、職員7名の21名体制となり、総括班(庶務、会場整備等)、大会運営班(交通輸送、警備、ボランティア)、機運醸成班(イベント、広報等)の3班体制となった。

さらに2018年度には、ラグビーワールドカップ2019推進部(課)が発足し、部長2名、課長6名、係長15名、職員11名の34名体制となり、2019年度にはさらに係長1名、職員2名が増員され、37名体制となった。

組織規模が大きくなり、業務も多岐にわたったが、本大会の成功に向けて、連携と情報共有を密に行う必要があることから、毎月末にスポーツ統括室長及び部全員が参加して会議を行い、事業進捗を確認した。また、部課長会、係長会などを毎週開催し、縦割りではなく、横断的な組織運営を行った。



ラグビーワールドカップ2019推進部の定例会議

〈県域の機運醸成の体制(神奈川県)〉

2014年度の立候補時から2015年度においては、県政策局総務室内に担当課長1名、職員1名の体制で始まり、2016年度にスポーツ局が新たに設置された後は業務が移管され、スポーツ課内に担当課長1名、職員1名、2017年度から担当課長1名、職員2名の体制となった。

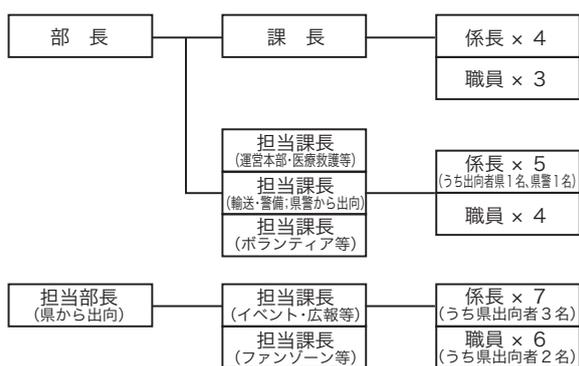
2018年度からは担当課長1名、主幹1名、職員3名の体制となり、2019年度も引き続き同体制で職務に当たった。

〈ラグビーワールドカップ2019組織委員会への派遣〉

2015年度から大会組織委員会への職員派遣を行った。2015年度、2016年度は市から1名(係長)、2017年度は市から3名(課長1名、係長2名)、2018年度は、新たに地域支部が設立されたことから、大幅な追加派遣を行い、市から7名(課長2名、係長5名)、県から3名(担当職員)を派遣した。(うち、地域支部への派遣は、市から5名、県から1名)

2019年度にもさらに2名追加派遣し、合計で市から9名(課長2名、係長7名)、県から3名(担当職員)を派遣した。(うち、地域支部への派遣は、市から6名、県から1名)

横浜市ラグビーワールドカップ2019推進部組織図(2019年9月時点)



〈市の庁内推進組織〉

◆ラグビーワールドカップ2019™・東京2020オリンピック・パラリンピック
横浜市推進本部

2016年4月にラグビーワールドカップ2019™・東京2020オリンピック・パラリンピック両大会に向けた推進組織として、市長を本部長、副市長及び全区局統括本部長を構成員とする横浜市推進本部会議を設立し、全庁で推進していく体制を整えた。

さらに、区局横断で専門的な課題について検討を行うため、8の副市長プロジェクトを設立した。

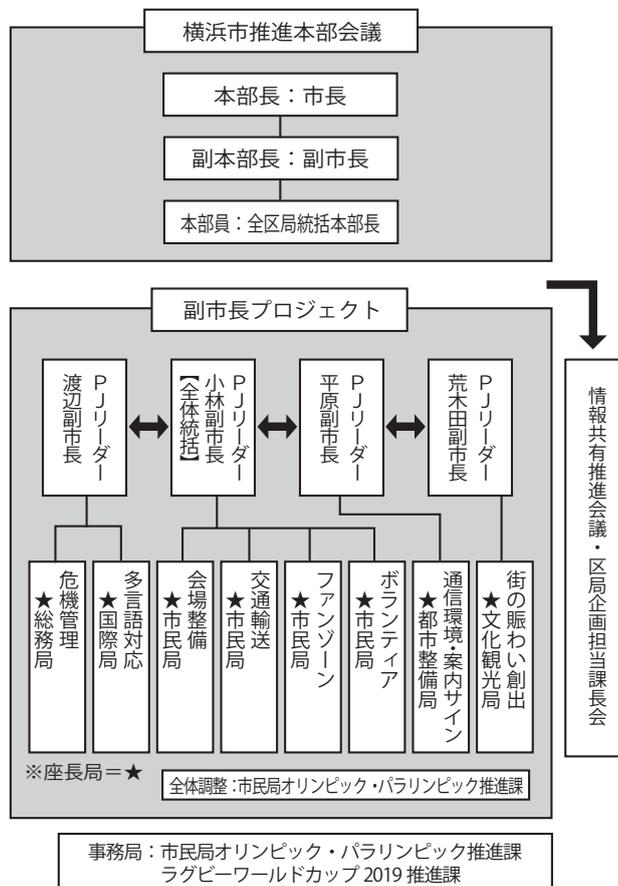
推進本部会議では、両大会を契機に横浜の魅力・活力を世界に発信していくための横浜市の「基本姿勢」や「取組の柱」、「取組から生まれるレガシー」などを取りまとめた「ラグビーワールドカップ2019™東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた横浜ビジョン（以下、横浜ビジョン）」案を作成した。

また、そのビジョンに基づく「ラグビーワールドカップ2019™東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた横浜市の取組」を策定し、これに基づき各区局が事業を推進した。

副市長プロジェクト所轄事務
(2019年4月時点)

プロジェクト名	所掌事務
会場整備	・会場施設整備基本計画の策定、組織委員会との役割分担に関すること ・その他、両大会に係る会場整備に関すること
通信環境・案内サイン	・通信環境の整備、案内サインの多言語化に関すること ・その他、両大会に係る通信環境、案内サインに関すること
交通輸送	・両大会開催時等における交通・輸送対策の検討、計画の策定等に関すること ・その他両大会に係る交通、輸送に関すること
危機管理	・各種災害対策、救急医療体制、開催期間中の警戒体制等に関すること ・その他、両大会に係る危機管理に関すること
ボランティア	・ボランティアの活用方針や配置計画の策定等に関すること ・その他、両大会に係るボランティアに関すること
ファンゾーン	・ラグビーワールドカップのファンゾーン運営計画書策定等に関すること ・その他、ファンゾーン運営に関すること
多言語対応	・案内サイン、飲食・宿泊等の観光サービス、通訳等ボランティアなど、様々な取組の横断的かつ統一感のある多言語化の推進に関すること
街の賑わい創出	・両大会開催期間中の賑わい創出・経済活性化に関すること ・その他、市内の賑わい創出・経済活性化策に関すること

推進本部組織図 (2019年4月時点)



〈市の官民連携組織〉

◆ラグビーワールドカップ2019™

東京2020オリンピック・パラリンピック

横浜開催推進委員会

ラグビーワールドカップ2019及び東京2020オリンピック・パラリンピックの横浜開催の成功には、行政だけでなく、市内の経済団体や公共交通機関をはじめ、関係機関の協力が不可欠であり、オール横浜でスクラムを組み、取り組んでいく必要があった。

そこで、2016年11月に市長を会長、横浜市会議長、横浜商工会議所会頭、(公財)横浜市体育協会会長を副会長とする、ラグビーワールドカップ2019™東京2020オリンピック・パラリンピック横浜開催推進委員会(以下、横浜開催推進委員会)が官民連携組織として発足した。

この横浜開催推進委員会の設立総会において、「横浜ビジョン」が採決された。

その後、各大会におけるより具体的な検討事項や共有事項を協議するため、2017年7月にラグビーワールドカップ2019™専門委員会及び東京2020オリンピック・パラリンピック専門委員会を創設した。

さらに専門部会として、2018年4月に医療救護検討部会、同年10月に交通輸送検討部会を設立した。

大会を直前に控えた2019年7月には、後述する神奈川県官民連携組織、「ラグビーワールドカップ2019及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会神奈川推進会議」と合同で総会を開催し、大会の成功とオール神奈川・横浜の結束を確認した。

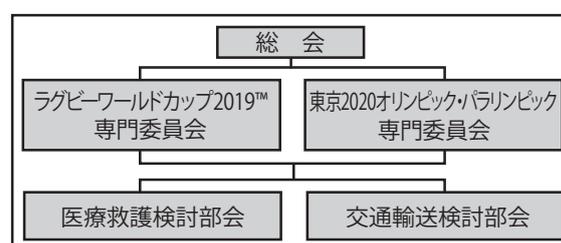


横浜開催推進委員会、ラグビー・オリパラ神奈川応援団合同総会(2019年7月11日)

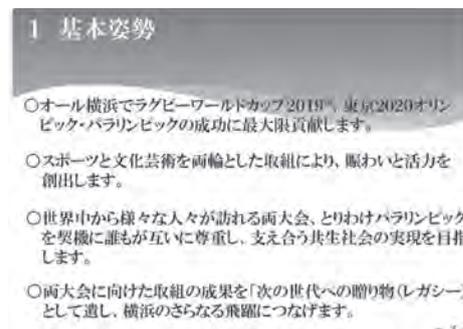
横浜開催推進委員会・構成員

- (1) 会長 横浜市長
- (2) 副会長 横浜市会議長、横浜商工会議所会頭、(公財)横浜市体育協会会長
- (3) 委員 市会、経済団体、交通関係団体、医療機関、スポーツ関係団体、文化関係団体、障害者団体、観光関係団体、神奈川県、神奈川県警察など87団体(2019年7月4日時点)

横浜開催推進委員会構成図



横浜ビジョン(抜粋)



- 2016年11月 開催推進委員会設立総会 開催
横浜ビジョン策定
- 2017年 7月 「ラグビーワールドカップ2019™
専門委員会」及び「東京2020
オリンピック・パラリンピック
専門委員会」第1回合同委員会
(以下、合同委員会)
- 2018年 3月 第2回合同委員会 開催
医療救護検討部会・交通輸送検討部会
の設置
- 2018年 8月 第3回合同委員会 開催
- 2019年 3月 第4回合同委員会 開催
- 2019年 7月 第2回総会 開催
(ラグビー・オリパラ神奈川応援団と合同開催)

〈 県の庁内推進組織 〉

◆神奈川県ラグビー・オリパラ・スポーツ施策 総合推進本部

ラグビーワールドカップ2019及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会(以下、ラグビー・オリパラ)に向けて、2016年5月13日から、各局局長級を本部員とする「神奈川県ラグビー・オリパラ・スポーツ施策総合推進本部」を庁内に設置し、各種取組の情報共有を図った。

◆ラグビーワールドカップ2019™及び東京 2020オリンピック・パラリンピック競技大会 推進かながわアクションプログラム

県は、ラグビー・オリパラの成功に向け、県の取組を計画的に推進するため、大会を迎えるに際しての必要な具体的施策・事業を明らかにする「ラグビーワールドカップ2019及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会推進かながわアクションプログラム」を2016年10月に作成し、毎年見直しを行いながら県全体で事業に取り組んだ。

〈 県の官民連携組織 〉

◆ラグビーワールドカップ2019及び 東京2020オリンピック・パラリンピック競技 大会神奈川推進会議

ラグビー・オリパラの成功に向け、オール神奈川で取り組んでいくため、県及び県内市町村、そしてスポーツ団体や公共交通機関、医療機関等関係団体で構成されるラグビーワールドカップ2019及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会神奈川推進会議(通称:ラグビーオリパラ神奈川応援団)を2016年10月8日に設立した。

〈 ラグビーワールドカップ2019を成功させる 横浜市議員、神奈川県議会議員による応援組織 〉

大会の成功を目指して、大規模スポーツの大会運営に関する調査・研究や議会・市民・行政が一丸となった大会機運を盛り上げるための取組推進を目的として、横浜市では2015年9月25日に「ラグビーワールドカップ2019を成功させる横浜市議員の会」が、神奈川県では2016年3月24日に「ラグビーワールドカップ2019を成功させる神奈川県議会議員の会」がそれぞれ発足した。

開催都市大会運営本部

概要

本大会においては、競技場内を大会組織委員会が、競技場外を開催都市が担当したが、神奈川・横浜会場での試合開催日に、開催都市が担当する競技場外の交通輸送、警備、医療救護などの業務を、現場近くで迅速に対応することや、業務全体を総括・指揮することを目的に、競技場に程近い「セブン&アイ・ホールディングス伊藤研修センター」に「開催都市大会運営本部（以下、運営本部）」を設置した。

運営本部では、開催都市の各業務を担う班が、現場で活動するスタッフの指揮をとるとともに、関係機関や競技場内の大会組織委員会との調整を行い、業務を進めた。

また、各班活動状況の定時報告、本部会議の開催など情報共有体制を構築したほか、無線やラインワークス（ビジネスチャットツール）の活用により、総括責任者等が開催都市の業務全体をタイムリーに把握するとともに、班同士が緊密に連携することができた。

さらに、「市大会警戒本部」、「医療救護本部」及び「県情報連絡室」と連携し、危機事案の発生に備える体制を構築した。

スケジュール

2018年 7月 運営本部設置場所決定
（セブン&アイ・ホールディングス伊藤研修センター）

2018年10月 「キャノン プレディスローカップ2018」での実施検証

2019年 7月 情報受伝達訓練（図上訓練）実施

2019年 8月 テロ対策合同訓練（実動訓練）実施



セブン&アイ・ホールディングス伊藤研修センター外観



運営本部から見た競技場

内容

運営本部は、総務班、交通輸送警備班、ボランティア班、イベント班、ファンゾーン運営本部、医療救護班、危機管理班の7班から構成された。（ファンゾーン運営本部は臨港パークに設置。）また、大会組織委員会の連絡員が運営本部に常駐するとともに、競技場内にも開催都市の連絡員を置き、競技場内外が連携できる体制とした。

運営本部においては、県・市職員、ボランティア、警備員、医師、看護師など様々な人たちが活動し、従事者は800人強（1日あたり）であった。これに加え、市大会警戒本部、消防特別警備本部、医療救護本部などでも職員などが従事し、開催都市全体では約2,000人（1日あたり）が活動した。

運営本部では、各班内での活動現場との連絡、班を越えた情報伝達手段として、IP無線や携帯電話の通話に加え、携帯電話（スマートフォン）やパソコンで確認できるラインワークスを活用した。

即時の情報共有や急を要する連絡はIP無線、文字情報や写真の共有はラインワークスというかたちで、状況に合わせてうまく活用することで、現場状況をリアルタイムで広く共有することができた。

また、ラストマイル上に複数設置した警備カメラ等の映像を視聴するモニターを本部内に設置し、総括責任者をはじめ全班がリアルタイムに現場の映像を把握することができた。



ラインワークスの画面



運営本部の様子（警備カメラのモニターなど）

IP無線やラインワークスでの情報共有に加え、各班は本部運営開始から1時間半ごとに主な活動状況をまとめ、総務班を通じて、総括責任者などに報告を行う（定時報告）とともに、必要に応じて臨時的報告を行った（臨時報告）。

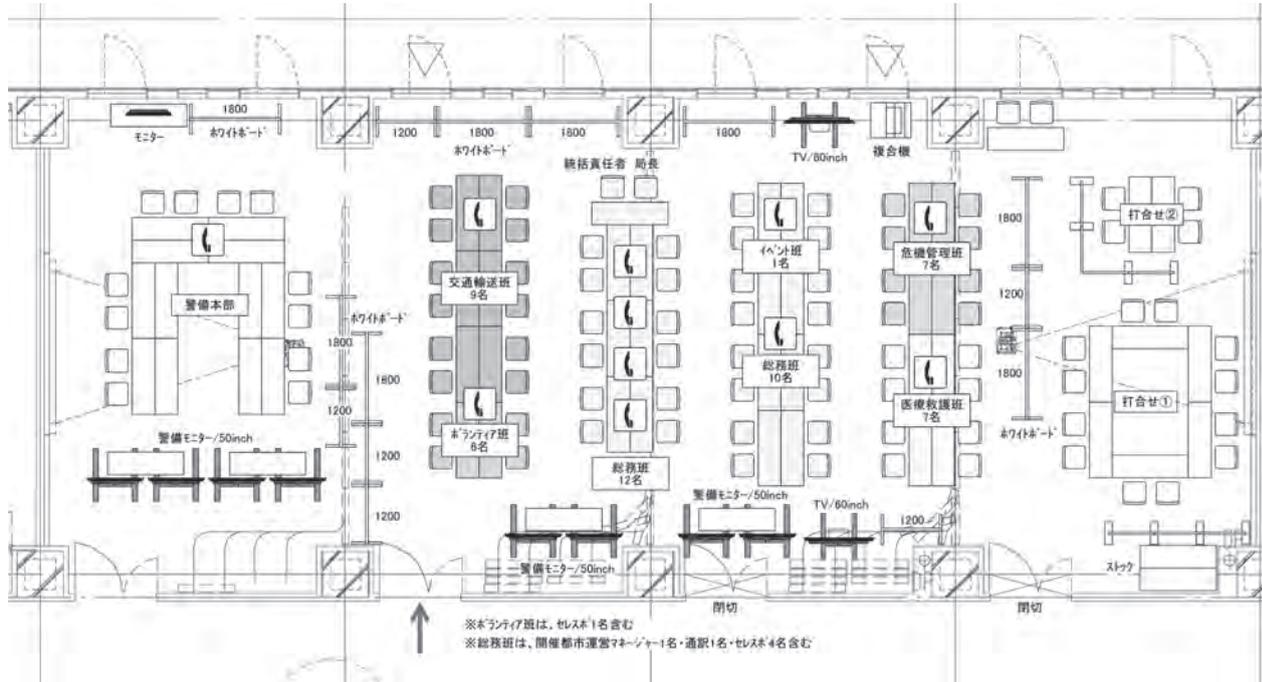
試合日別の開催都市取組結果

試合開催日	9月21日	9月22日	10月12日	10月13日	10月26日	10月27日	11月2日
試合時間	18:45~20:34	16:47~18:47	17:15開始予定	19:47~21:42	17:03~18:59	18:03~19:51	18:02~19:54
対戦国	ニュージーランド対南アフリカ	アイルランド対スコットランド	イングランド対フランス	日本対スコットランド	イングランド対ニュージーランド	ウェールズ対南アフリカ	イングランド対南アフリカ
試合結果	23-13	27-3		28-21	19-7	16-19	12-32
入場者数	63,649人	63,731人		67,666人	68,843人	67,750人	70,103人
運営体制							
職員	1,210人 (うち開催都市大会 運営本部95人)	1,167人 (うち開催都市大会 運営本部84人)		1,058人 (うち開催都市大会 運営本部66人)	1,184人 (うち開催都市大会 運営本部86人)	1,181人 (うち開催都市大会 運営本部85人)	1,237人 (うち開催都市大会 運営本部85人)
ボランティア							
競技場周辺	155人	171人		135人	166人	155人	191人
ファンゾーン	214人	199人		-(台風で中止)	184人	197人	209人
警備スタッフ (警備員、スチュワード)							
競技場周辺	201人 (うち警備員123人)	201人 (うち警備員123人)		201人 (うち警備員123人)	201人 (うち警備員123人)	201人 (うち警備員123人)	201人 (うち警備員123人)
ファンゾーン	60人 (うち警備員50人)	60人 (うち警備員50人)		警備員10人 (台風中止対応)	60人 (うち警備員50人)	60人 (うち警備員50人)	60人 (うち警備員50人)
医療スタッフ (医師、看護師、病院事務員)	7人	7人		7人	7人	7人	7人
その他 (横浜ラグビーフェスタ市大ボ ランティア、消防団、清掃ボラ)	184人 (うち消防団14人、 清掃ボラ170人)	16人 (うち消防団16人)		17人 (うち消防団17人)	23人 (うち市大ボラ7人、 清掃ボラ16人)	20人 (うち市大ボラ4人、 清掃ボラ16人)	57人 (うち市大ボラ5人、 清掃ボラ52人)
ツイッターでの広報	57件	65件		30件	48件	50件	42件
ごみの回収量	59.8kg	389kg	123.4kg	144.5kg	188kg	169kg	228.5kg
仮設トイレの使用量	200L	300L		-	500L		400L
臨時タクシー乗降所							
降車	152人	86人		79人	154人	148人	211人
乗車	48人	76人		146人	165人	154人	261人
退場時待機列	待機列最大約120人	待機列最大約30人		待機列最大約100人	待機列最大約100人	待機列最大約60人	待機列最大約80人
OTAシャトルバス							
利用者数(往路)	1,636人	1,511人		1,024人	4,384人	2,895人	2,660人
運行本数(往路)	53本	51本		33本	122本	110本	108本
利用者数(復路)	1,511人	1,479人		994人	4,116人	2,772人	2,629人
運行本数(復路)	45本	50本		30本	119本	79本	84本
交通規制の実施							
浜島橋交差点(車両通行不可)	15:45~18:45	13:38~16:33		16:25~19:25	13:45~16:40	14:50~17:45	14:30~17:40
小机地域(車両通行不可)往路	15:45~18:45	13:59~16:47		17:10~19:33	14:10~16:45	15:25~17:45	15:30~17:40
小机地域(車両通行不可)復路	20:10~21:50	17:53~20:03		21:40~23:00	19:00~20:20	19:50~21:10	20:00~21:35
第一駐車場入口付近(駐停車禁止)	15:53~22:20	12:20~20:19		14:35~23:40	11:55~20:25	13:20~21:40	12:30~22:10
案内デスク利用件数							
新横浜	80件	60件		35件	50件	35件	42件
小机	32件	21件		15件	16件	28件	23件
手荷物預かり所利用件数							
新横浜	161件	293件		台風の影響で設置なし	228件	228件	171件
小机	55件	65件		台風の影響で設置なし	14件	17件	12件
救護所等利用件数							
場内	11件	14件		15件	13件	10件	9件
場外	0件	0件		台風の影響で設置なし	0件	0件	0件
派遣型医療チーム	0件	0件		0件	0件	0件	0件
救急搬送件数							
場内	1件	0件		2件	1件	1件	4件
場外	0件	1件		0件	0件	1件	2件
周辺イベント来場者数							
横浜ラグビーフェスタ (新横浜駅北口西広場)	約8,000人	約7,500人		台風のため中止	約2万人	約2万人	約2万人
小机マルシェ	約900人	約800人		台風のため中止	約1,000人	約1,200人	実施なし

※案内デスクは、新横浜駅、小机駅のみ記載。そのほか、ファンゾーン最寄り駅である横浜駅、桜木町駅、みなとみらい駅で実施。

※OTA：Official Travel Agency（公式旅行代理店）

運営本部のレイアウト



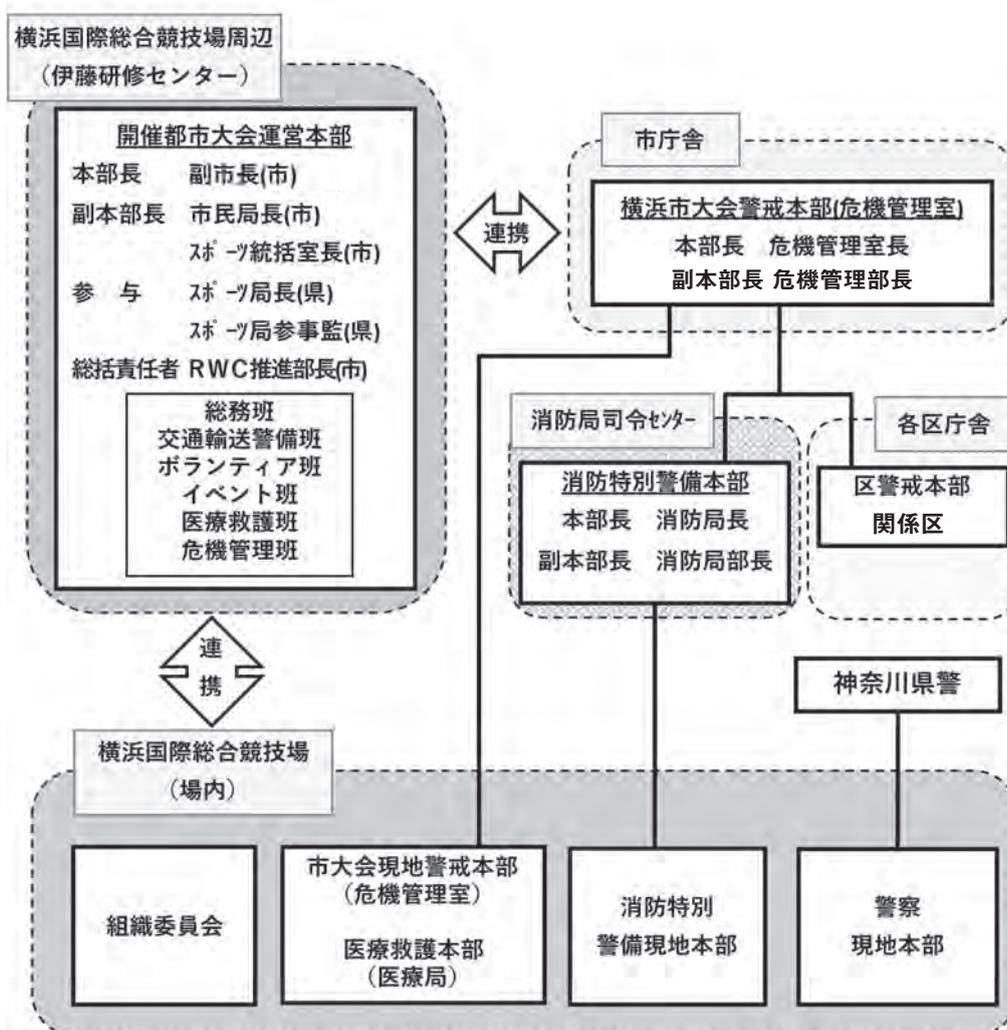
試合開催日の運営スケジュール

時間	主な動き	報告、本部会議
KO-6時間	開催都市大会運営本部運営開始 競技場内プレマッチブリーフィング	定時報告 第1報
KO-5時間30分		本部会議
KO-5時間	ボランティア集合	
KO-4時間30分		定時報告 第2報
KO-3時間30分	ボランティア入場時配置 案内デスク(新横浜、小机)運営開始 手荷物預かり所運営開始	
KO-3時間	ゲートオープン 場外救護所運営開始	定時報告 第3報
KO-1時間30分		定時報告 第4報
試合開始 (KO)		定時報告 第5報
KO+15分	場外救護所運営終了	
KO+30分	案内デスク(新横浜、小机)運営終了	本部会議
FW-30分	ボランティア退場時配置	
FW-15分		定時報告 第6報
試合終了 (FW) ※KO+1時間45分で計画		
FW+1時間15分	ボランティア活動終了	定時報告 第7報
FW+1時間30分	ゲートクローズ 手荷物預かり所運営終了	
FW+2時間30分	本部運営終了	

※実際の時間は、試合開催日により前後した。
 ※総括責任者が運営本部で総括・指揮する時間を本部運営時間としたが、班によっては、本部運営時間前後にも活動を行っていた。
 ※KO:キックオフ(試合開始) FW:ファイナルホイッスル(試合終了)

開催都市組織体制の全体イメージ図（試合開催日）

※危機事案発生時には、危機管理体制へ移行する。



大会を振り返って

綿密な準備と訓練を通して、本部内外の全員が高い意識をもって連携しながら業務にあたった結果、開催都市として想定通りの働きをすることができた。ラインワークスや無線などによる情報が運営本部内の全員に共有され、それを元にした定時報告や随時報告によって、常に的確な判断ができたことも成果のひとつである。

台風通過により試合開催可否が検討されていた10月13日朝も、会場周辺の安全確認、鉄道の運行状況などを調査し、組織委員会に情報提供を行うなど、アクシデントに対しても冷静な判断や行動ができた。



決勝戦終了後の大会運営本部の様子

開催都市組織体制図



【 台風19号への対応 】

10月10日 —台風19号の接近—

日本代表は9月20日の開幕戦から3連勝と、快進撃を続けており、10月13日のプール戦最後のスコットランド戦に向けて日本中が大きく盛り上がっていた。

一方、非常に強い台風19号が日本列島に接近しており、10月12日から13日にかけて日本に上陸、通過することが予測されており、試合の開催が危ぶまれていた。

10月10日、大会組織委員会は10月12日に開催される、神奈川・横浜会場のイングランド対フランスを含む2試合について、開催中止を決定。また、10月13日の試合については、台風通過後の安全性を調査の上、試合開催可否を判断し、試合開始6時間前までに観戦客へ案内することが決まった。神奈川県・横浜市も、10月12日、13日のファンゾーン及びおもてなしイベント(横浜ラグビーフェスタ2019、こづくえマルシェ)の中止を発表した。



共同通信社提供

10月11日 —撤収作業を進める—

県・市は、ファンゾーンの仮施設の撤去を進め、大型モニターや大型テントも、想定を超える強風に備え、撤去することとした。

さらに、県内・市内の大型モニュメント『Big Try』やバナーフラッグ、横断幕などの都市装飾、公認チームキャンプ地の仮施設等についても撤去を進め、11日までに対応を完了した。並行して、ホームページ及びSNSなどでも、開催中止等の情報発信を行った。



ファンゾーンの撤収作業進む

10月12日 —台風上陸—

10月13日の試合については大会組織委員会で他会場での開催も含め、様々な検討がされており、試合6時間前までに試合開催可否の判断をすることとなった。

10月12日、県・市は、翌日の試合開催に向け、開催都市大会運営本部に前日から職員12名が待機、さらに試合会場の施設・設備の復旧のため、市環境創造局職員4名及び指定管理者である横浜市体育協会職員20名が競技場内に待機し、翌日の対応に備えた。

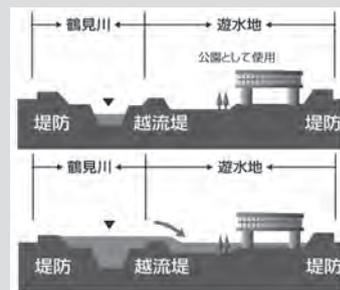
試合会場である横浜国際総合競技場のある新横浜公園は、多目的遊水地としての機能を持っており、鶴見川の水位が上昇した場合に競技場下部を含む公園内に水が流入し、氾濫を防ぐ役割がある。

台風19号による大雨のため、8時50分には公園内への流入が開始、16時55分には競技場下部の駐車場にも水が流入した。これにより、流域の安全が保たれた。

そして18時ごろ、台風19号は本州に上陸、神奈川県も暴風域に入り、横浜では10月としては過去最大となる最大瞬間風速43.8メートルを記録した。21時ごろ、台風は神奈川県を通過した。



新横浜駅のサイネージで試合中止を表示



新横浜公園は鶴見川の遊水地としての機能を持つ



台風上陸、横浜も暴風域に

10月13日 —試合開催決定までの動き—

●開催都市運営本部の動き

夜が明けて、朝6時、開催都市運営本部に詰めていた職員は試合会場周辺を巡回して被害状況を確認、特段被害は見られなかった。さらに、公共交通機関や県内・市内の被害状況を確認、大会組織委員会と情報共有を行った。

そのほか、台風対策のため一時撤去していた資機材等（監視カメラ、案内サインなど）の再設置を行い、開催に向けた準備を実施した。

●競技場内の動き

早朝から、競技場内においては、市環境創造局及び横浜市体育協会は関係事業者と連携し、施設・設備の点検、復旧作業を実施した。

さらに、競技場下部の駐車場については、利用不可を想定し、周辺の駐車場を利用する可能性も検討していたが、想定よりも水が早く引いたことから、利用可能と判断、清掃・消毒作業を行った。

●試合開催決定

10時45分、大会組織委員会は、一部仮設施設の破損は見られるものの、試合開催が可能であると判断、予定通り試合を開催することを決定した。

なお、公共交通機関の乱れに伴うスタッフ不足や、設備の破損等により一部売店が休業となる可能性があったため、この試合に限り、飲料の持ち込みを許可した。

大会組織委員会及び県、市は日本中が注目する日本対スコットランド戦に向けて、準備を進めることとなった。

10月13日 —日本対スコットランド戦開催、決勝トーナメント進出へ—

試合も、日本中が見守る中、日本がスコットランドに28-21で勝利し、初の決勝トーナメント進出を決めた。大会運営についても、試合会場には68,843人が来場し、事故もなく、安全・円滑に行われた。

日本各地で甚大な被害が発生する中で、日本代表の懸念に戦う姿、そしてこの大きな勝利は、被災者をはじめ多くの国民に元気や勇気を与えた、と報じられた。



早朝の新横浜駅周辺の状況



鶴見川の水が流入した新横浜公園



競技場下部の清掃作業進む



28-21、日本代表が死闘を制す

交通輸送

概要

観客並びにチームをはじめとする大会関係者を試合会場まで安全かつ円滑に輸送する業務が交通輸送であり、本大会においては、大会関係者の輸送及び競技場内の観客の案内誘導を大会組織委員会、競技場外の観客の案内誘導を開催都市が担当した。

神奈川県・横浜市は、安全・円滑な観客輸送を行うために、関係機関と議論を重ね、公共交通機関（鉄道等）を中心とする輸送体制の構築、歩行者動線の選定、案内デスクの設置、交通広報などの交通輸送計画を策定した。この計画に基づき、交通関係機関との連携体制の構築やボランティアによる案内誘導、早期来場の呼びかけや交通総量の抑制の広報などを実施した。

スケジュール

2017年12月 大会組織委員会が交通輸送

ガイドライン提示

2018年 3月 交通輸送基本計画策定

2018年10月 交通輸送検討部会設置

交通輸送実施計画素案作成

「キヤノン プレディスローカップ

2018」での実施・検証

2019年 3月 交通輸送実施計画策定

2019年 8月 交通広報開始

基本計画の策定

12開催都市の試合会場はそれぞれ交通環境が異なる一方で、一定のサービスレベルを確保する必要がある。そこで大会組織委員会は、各開催都市における交通計画の検討の基礎として、安心・安全を第一とした輸送や各開催都市のサービス水準の確保を目的とした「交通輸送ガイドライン」を12開催都市に提示した。

ガイドラインは、大会組織委員会と開催都市の役割分担や輸送計画策定の手順、計画に含むべき事項の方針をまとめたものとなっており、このガイドラインに基づいて交通輸送基本計画の策定に着手した。

基本方針の設定

横浜国際総合競技場の周辺は、3線5駅の鉄道路線と3系統1停留所のバス路線が整備されており、最寄り駅から会場まで徒歩でのアクセスが可能な公共交通の利便性に優れた立地環境にある。

交通輸送基本計画の策定にあたっては、公共交通機関を利用して観客を円滑に輸送できるかを確認するため、過去の大規模スポーツイベントの実績調査や会場周辺道路及び会場最寄り駅の基本情報整理を行った。

また、2017年11月に同競技場で行われた「リポビタンDチャレンジカップ2017日本代表対オーストラリア代表」などのイベント開催時に実態調査などの基礎調査を実施し、調査結果に本大会の行程や来場者属性を反映させて来場者推計を行った。

これらに基づき、以下の3点を基本方針とした。

(1) 安全かつ円滑な輸送・誘導の実現

適切な徒歩ルートの設定や安全確保のための交通規制の検討と、事前広報を徹底する。

(2) 公共交通機関(鉄道等)を中心とする輸送体制の構築

観客の輸送については、競技場周辺の5駅を中心とした公共交通機関での輸送を基本とする。

(3) 大会関係者輸送との整合

大会関係者の輸送を担う大会組織委員会と緊密に連携し、大会組織委員会作成の大会関係者輸送計画との整合を図る。

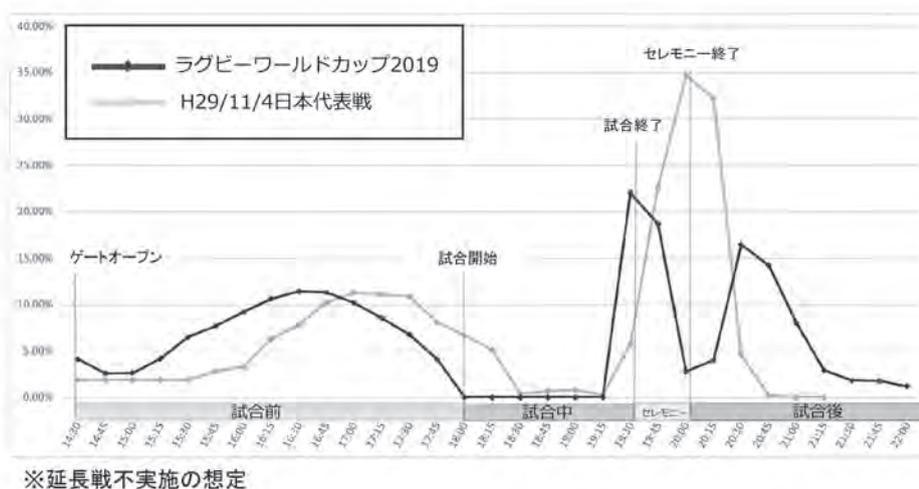
この基本方針のもと、輸送手段別対策、観客誘導・交通広報等の対策を行った。

輸送手段別分担率予想、時間帯ごとの入退場者数予想（決勝トーナメント）

■決勝トーナメント（観客編成：日本人84% 訪日外国人16%）

	往路			復路	
	アクセス手段	分担率	人数	分担率	人数
徒歩・鉄道利用者	徒歩移動者	0.97%	681	0.98%	684
	新幹線（新横浜駅）	12.38%	8,666	10.88%	7,614
	横浜線（新横浜駅）	34.35%	24,043	35.44%	24,808
	横浜線（小机駅）	27.34%	19,139	28.09%	19,663
	市営地下鉄（新横浜駅）	9.98%	6,987	10.03%	7,019
	市営地下鉄（北新横浜駅）	0.48%	333	0.48%	335
バス等	タクシー利用者	1.80%	1,260	1.55%	1,085
	路線バス利用者	0.96%	675	0.82%	576
	二輪車利用者	0.99%	690	0.99%	690
ツアーバス	OTAツアーバス利用者	6.47%	4,527	6.47%	4,527
	STHツアー参加者 （4,500名／台数未定）	4.29%	3,000	4.29%	3,000
	計	100%	70,000	100.0%	70,000

	国籍内訳		
	往路	復路	
徒歩・鉄道利用者	日本人	54,929	55,203
	訪日外国人	4,919	4,919
バス等	日本人	1,001	826
	訪日外国人	259	259
	日本人	1,365	1,266
ツアーバス	訪日外国人	3,622	3,622
	日本人	905	905
	訪日外国人	2,400	2,400
	日本人	600	600
	計	70,000	70,000



輸送手段別対策

鉄道輸送については、基礎調査の結果やほかのイベントにおける増便実績を踏まえ、同競技場におけるイベント時と同程度の増便を各鉄道会社に依頼する一方、いずれの試合開催日も試合終了時刻から終電時刻までに主要駅までの移動が可能であることから、終電延長は実施しないこととした。

路線バスの増便、終車延長についても鉄道と同様の対応とした。

大会組織委員会が実施する国内外の公式旅行代理

店（OTA）による貸切ツアーバス利用客の対応については、決勝トーナメントでは最大6,000人の利用が想定され、これらのバスを競技場周辺で一度に収容することは困難であることから、みなとみらい地区の耐震バス・山内埠頭でシャトルバスに乗り換えてもらい、競技場周辺へ輸送することとした。

このシャトルバス延べ200台の競技場周辺での乗降場所を、臨時の交通規制を実施して新横浜元石川線第1通行帯に設定したほか、待機列の整理方法などの検討を行った。

このほか、競技場周辺にタクシー乗降場所を設定し、関連事業者に配車の増強を依頼した。

徒歩移動

徒歩移動について、観戦客を約7万人と想定し、徒歩または公共交通機関利用者がその約85%、そのうち新横浜駅からの来場者が約70%、小机駅と北新横浜駅からの来場者が約30%と想定し、他のイベントにおける歩行者動線やゲート位置を踏まえ、来場・退場の動線の選定を行った。

この動線に沿って円滑に観客を輸送するため、警備員を交差点や混雑予想が所などに配置して雑踏整理を行うとともに、ボランティアを最寄り駅周辺や主要交差点、各ゲートへの分岐点等の歩行者動線上に配置し、プラカードなどのサイン（日本語、英語の2か国語標記）による案内・誘導を実施することとした。

さらに、駅構内の案内については、各鉄道会社による案内に加え、最寄り駅や主要駅5駅6か所に、案内デスクを設置し、ボランティアによる案内やチラシの配布などを行うこととした。

2018年10月に開催された「キャノン ブレディス ローカップ2018」においては、ボランティアによる案内・誘導、案内デスクの設置・運営を試行実施して検証を行い、大会本番に向けてボランティア配置や案内デスクの体制等の見直しを図った。

大会開幕後は、計画に則り案内誘導を実施する一方で、混雑が生じた場合には観客の流動に合わせて警備本部と連動した迂回動線への案内を行った。また、試合開催日ごとに検証を行い、その結果をボランティアに随時共有するとともに、臨機応変な配置変更を行い、安全・円滑な誘導に加え、おもてなしとしての案内・誘導を実施した。

入場時のボランティアの配置場所



警備員やボランティアは各エリアに分かれて案内・誘導を行った



競技場へ向かう観客（新横浜駅前）



競技場へ向かう観客（横浜労災病院前）

案内デスクの設置状況

設置駅	設置場所	期間	運営体制	業務内容
JR新横浜駅	交通広場2階	試合開催日	ディレクター:1人 ボランティア:6人	<ul style="list-style-type: none"> ・大会会場までの交通経路の案内 ・駅構内の案内誘導 ・大会PR (パンフレット配布、イベント開催状況等) ・観光案内 ・上記についての英語での案内
JR小机駅	駅舎改札外		ディレクター:1人 ボランティア:4人	
JR横浜駅	中央通路	試合開催日 (ファンゾーン 開催日)	ディレクター:1人 ボランティア:8人	<ul style="list-style-type: none"> ・大会会場、ファンゾーンまでの交通経路の案内 ・駅構内の案内誘導 ・大会PR (パンフレット配布、イベント開催状況等) ・観光案内 ・上記についての英語での案内
	そごう前		ディレクター:1人 ボランティア:4人	
JR桜木町駅	西口駅前広場		ディレクター:1人 ボランティア:4人	
みなとみらい線 みなとみらい駅	駅舎改札外		ディレクター:1人 ボランティア:4人	



横浜駅そごう前



桜木町駅西口駅前広場



みなとみらい駅改札外

広報活動

ラグビーワールドカップ2019は、国際的に注目の集まる大会であることから、多くの関係者車両の来場が予想され、競技場周辺の交通需要の増大が見込まれた。そのため、試合開催日の競技場周辺の交通渋滞緩和のために、2019年9月上旬から、事業者や市民に対して競技場周辺での交通規制や迂回への理解と協力、不要不急の自動車利用の抑制を呼びかけた。

その広報活動は、地域の公共施設や鉄道駅などに、ポスターの掲出(約1,000枚)、チラシの配布(約25,000枚)を行うとともに、競技場へ通じる主要交差点など10か所への横断幕の掲出、県警情報板、道路管理者、首都高速道路、NEXCO東日本管内の有料道路の情報板の活用、ホームページ(横浜ラグビー情報)やSNS(ツイッター)、そして市の保有媒体や、庁外関係団体が参加する会議や地元町内会への情報提供など、様々な方法で行った。

また、試合当日には、ホームページやツイッターなどを通じて、早期来場の呼びかけや、入場ゲート付近の混雑を防ぐために持ち込み禁止物の注意喚起などを行った。

緊急対策

天候や事故などにより、交通機関に乱れが生じた場

合などに備えて、交通輸送における緊急対策は、大会組織委員会、開催都市運営本部危機管理班、警備指揮所と連携して行うこととし、具体的な対応フローを検討した。

緊急時には現場スタッフ及び関係機関などから情報を収集し、交通輸送警備班へ集約するとともに、あらかじめ構築した連絡体制のもとで、鉄道会社や道路管理者など関係機関と調整の上、観客の案内・誘導に対応することとした。

大会を振り返って

周辺の交通事業者をはじめとする関係機関と事前調整を重ね緊密な関係が築けていたことで、スムーズな観客輸送が実現できた。台風通過により試合開催可否が検討されていた10月13日朝も、鉄道の運行状況や道路の復旧状況などの情報を、いち早く提供いただき、無事に試合が開催された。

案内・誘導においては、ボランティアにモチベーション高く活動いただけたことにより、観客を安全に競技場まで輸送することができたほか、笑顔溢れるおもてなしにより、大会をより一層盛り上げることができた。

準備段階からご協力をいただいた交通関係機関、取組にご理解をいただいた周辺住民や施設、現場で活躍するボランティアなど、各関係者が連携し、ともに作り上げた良い大会となった。

大会警備

概要

ラグビーワールドカップ2019はアジア初、かつ、ラグビー伝統国以外が-host国を務める初めての大会であったことから、世界的注目度も高く、海外からのインバウンドをはじめ、多くの要人の来訪など、様々なリスク要因が予想された。

そのため、前年に行われたテストイベントの結果を踏まえた警備計画を策定し、警備スタッフ・ボランティアの適切な配置による警備を実施した。

スケジュール

2018年 4月 大会組織委員会が警備基本方針・警備ガイドライン等提示

2018年 7月 警備計画策定開始

2018年10月 「キャノン ブレディスローカップ2018」での検証

2019年 3月 警備基本計画策定

2019年 9月 警備実施計画策定

計画策定

本大会は、競技場の収容人数や周辺の交通環境など、前提条件の異なる全国12開催都市で開催された。そのため大会組織委員会は、各開催都市における警備

計画の指針・基準となる「警備基本方針」及び「警備ガイドライン」、会場への持込禁止物や禁止行為などを定めた「大会運営管理規程」を策定し、大会警備全体の方向性を確定した。

これら各種方針や計画の策定に当たっては、大会組織委員会、開催都市及び警察など関係機関が一堂に会する警備会議を開催都市ごとに開催し、計画段階から緊密な連携を図った。

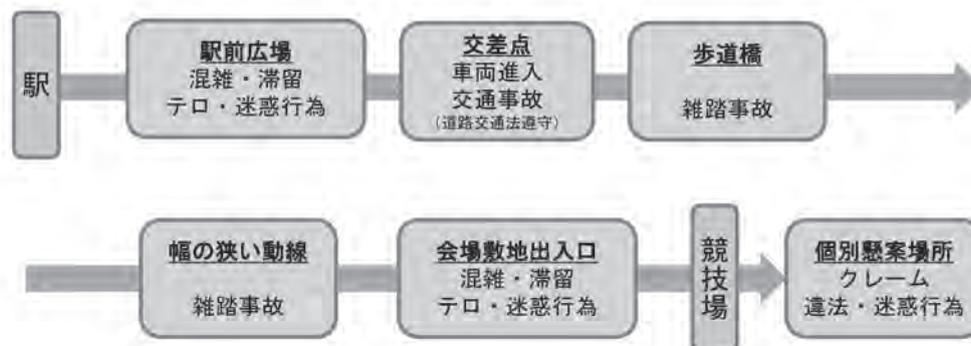
主にラストマイル（最寄りの駅などの交通拠点から競技場までの観客動線）を担当する神奈川県・横浜市

- の警備計画は、
- (1) 観客の安全かつ円滑な誘導
 - (2) 各種事件事故の未然防止
 - (3) 違法駐車・露天商の抑止
 - (4) 関係機関との連携

を警備対策の軸とし、2018年の年度当初から競技場周辺の現場実査及び指針に基づく警備計画の策定を開始した。警察など関係機関との協議を重ね、2019年3月に基本計画（最終稿）、9月に実施計画（最終稿）をまとめた。

また、2018年10月に開催された「キャノン ブレディスローカップ2018」をテストイベントとして位置付け、警備実施状況や無線・カメラ映像の送受信確認を行ったほか、ラストマイル上での分散誘導の必要性などを確認した。

ラストマイル上の主な警備要点



体制

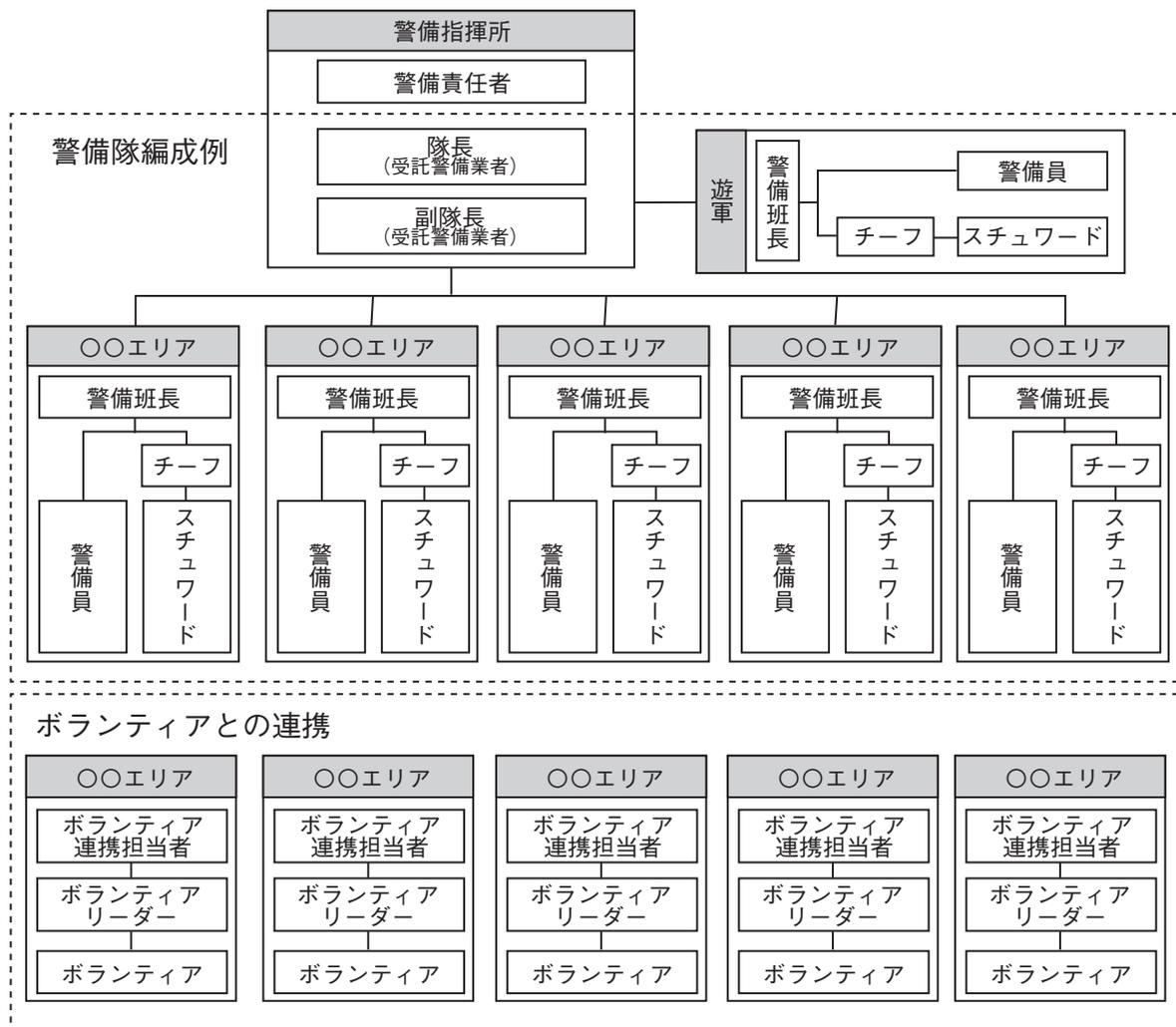
試合開催日は、開催都市大会運営本部内の交通輸送警備班内に警備指揮所を設置し、指揮体制及び警察など関係機関との連絡体制を確立した。また、危機事案をはじめとする突発事案発生時に緊密な連携を図るため、競技場内の大会組織委員会警備指揮所に連絡員（リエゾン）を派遣し、大会運営に関する各種調整及び情報共有を行った。

ラストマイル上には、観客の来場が見込まれる試合開始6時間前から、警備スタッフ（制服警備員約120人、スチュワード約80人）を配置して案内誘導・巡回警備などを実施し、観客等の安全確保を行った。



運営本部 警備指揮所

警備体制図



警備対策

神奈川県・横浜市が実施した主な警備対策は次のとおりである。

〈事前対策〉

試合開催日の早期来場の促進や持込禁止物、交通規制情報などを周知するため、広報担当及び交通輸送担当と連携し、ホームページ（横浜ラグビー情報）、SNS（ツイッター）、ポスター掲出、地元町内会への情報提供などあらゆる機会、媒体を通じて事前広報を行った。

〈当日対策〉

◆アクセスコントロール

競技場の各入場口（関係者入口、チーム入口、観客入場ゲートなど）では、大会組織委員会の警備員による入場資格の厳格な確認が行われた。一方、県・市では、関係車両入口において車両通行駐車許可証（VAPP）の確認を行い、車両に対するアクセスコントロールを実施した。



入場ゲートでのアクセスコントロール

◆案内誘導、雑踏整理

ラストマイル及び競技場アクセスコントロールエリア外に警備スタッフを配置して観客の案内誘導や車両誘導、入場ゲート前の待機列整理などを行い、担当エリアの秩序維持に努めた。



警備員による案内誘導

◆巡回、監視

遊軍警備隊による巡回を強化して不審者・不審物の発見に努めたほか、周辺施設の屋上及び街灯に設置した監視カメラや警備員のウェアラブルカメラのライブ映像を運営本部 警備指揮所に集約し、混雑状況などを監視した。ライブ映像は競技場内の大会組織委員会 警備指揮所にも共有し、各種事案に対する迅速な対応を行った。



警備員による巡回

◆違法駐車、露天商対策

警察と連携し、試合開催日の送迎車両や各種露天商への声掛け・排除などを行い、周辺道路における円滑な交通の確保及びアンブッシュマーケティングの抑止に努めた。



露天商へ声掛けする警察官

◆広報活動

大会運営管理規程で定められた持込禁止物や禁止行為、セキュリティチェックの実施などについて、サイン看板の設置と警備スタッフの現場広報により観客に対する周知を行った。



サイン看板

◆各種資機材の設置

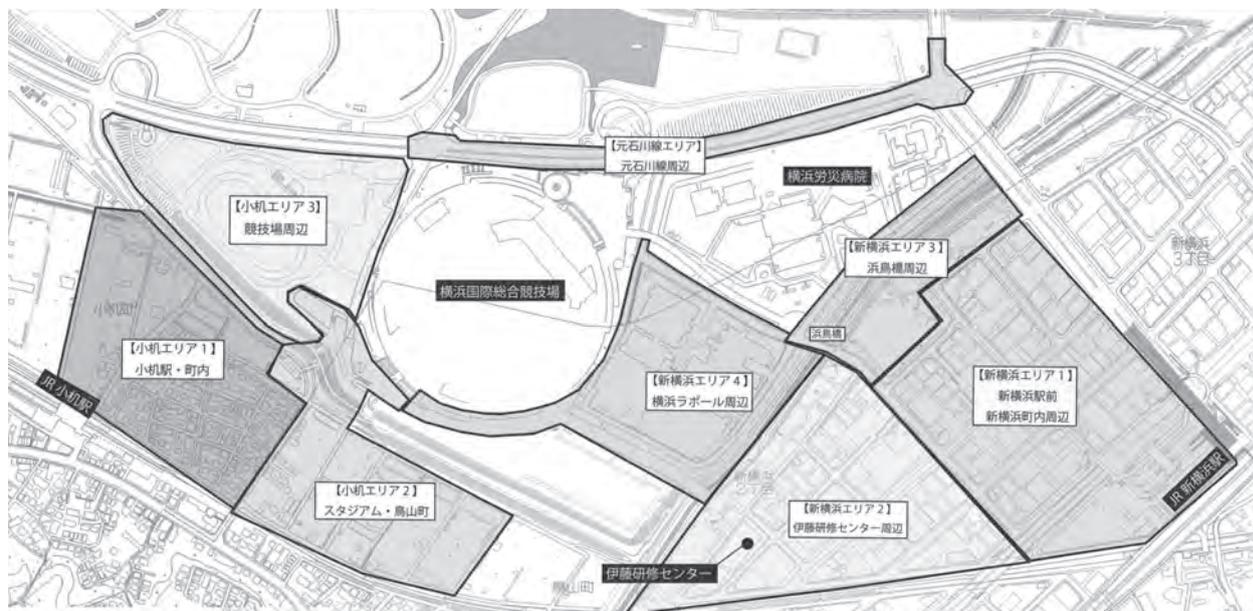
監視カメラのほか、観客滞留場所におけるテロ防止のための車両突入防止柵や、乱横断・違法駐車などの防止のための簡易柵を設置し、観客に対する安全対策や生活動線の確保を行った。

また、観客動線上の暗がりのある場所には仮設照明を設置して適度な明るさを確保した。



車両突入防止柵

警備巡回エリア



実 施

横浜国際総合競技場では、決勝・準決勝を含む6試合が開催され、延べ1,200名の警備スタッフがラストマイルの自主警備に従事した。

競技場周辺では観客の入退場に伴う一時的な混雑や交通渋滞などがあったが、遊軍警備を効果的に運用するとともに、大会組織委員会及び警察と連携して、開場時間の前倒しや混雑の解消を行うなど、迅速・的確に対応した。

また、観客に対する動線案内や注意喚起、各種問合せ対応については、訪日外国人にも配慮し、日本語、英語の2か国語表記やピクトグラム（絵文字・絵言葉）を活用したサイン看板を設置したほか、ボランティアと連携した現場広報を行った。



ボランティアと連携した広報



観客に対する動線誘導

大会を振り返って

本大会の自主警備は大会組織委員会及び開催都市が、会場アクセスコントロールエリア内外で役割を分担して行われた。そのため、オペレーションに関する情報共有や現場レベルでの連携が重要とされたが、計画策定段階から協議を重ねてきたほか、試合開催日には各機関から連絡員（リエゾン）を派遣したことで、大会組織委員会や警察など関係機関と連携した一体的な警備を行うことができた。

また、観客の案内誘導を行う上で重要となるボランティアとの連携については、警備スタッフ（スチュワード）をボランティア連携担当者としたことでオペレーションの変更などがスムーズとなり、安全かつ円滑な誘導につながった。

全試合を通じ、大会に影響を及ぼすような大きなトラブルはなく大会運営を終えることができたが、これは、セキュリティチェックや競技場周辺の交通規制、各種資機材の設置など、観客をはじめ周辺施設、地域住民の理解と協力にも支えられた結果であった。



警察による広報



横断歩道渡し

ボランティア

概要

スポーツボランティアは、大規模スポーツイベントの顔であり、運営を支える重要な存在である。

県・市においては、2002FIFAワールドカップに参加したボランティアが自主的なグループを設立するなど、ボランティア文化が根付いており、横浜マラソンにおいても毎年多くのボランティアが活躍している。

ラグビーワールドカップにおける大会公式ボランティアは、観客を温かいホスピタリティで迎え、ラグビーの価値と開催国の魅力を伝える大会の顔として、各大会で活躍してきた。

ラグビーワールドカップ2019では、日本ラグビーが育んだ「ノーサイドの精神」から、プログラム名を「TEAM NO-SIDE」とし、過去の大会で最大となる全国で約1万3,000人のボランティアが活動した。

県・市としては、本大会の神奈川県・横浜市開催を契機に、ボランティアの育成やボランティア文化の醸成・定着を促進し、翌年開催の東京2020オリンピック・パラリンピックやそのほかのスポーツ大会におけるボランティアの活躍につなげることを目的に、本業務に取り組んだ。

ボランティア業務としては、①募集②採用③研修④運営の順で行い、大会組織委員会と合同で行った。

競技場内の活動を大会組織委員会、競技場外を開催都市が分担し、開催都市が運営するボランティアは主にラストマイルでの案内誘導やファンゾーンでの運営補助の活動を行った。

スケジュール

- 2018年 4月 ボランティア募集開始
- 2018年11月 インタビューロードショー開催
(12月初旬まで)
- 2019年 1月 インタビュー結果通知
ロールオフ
- 2019年 2月 オリエンテーション
- 2019年 2月 eラーニング開始 (同年6月まで)
- 2019年 6月 リーダートレーニング
- 2019年 7月 ロールトレーニング
- 2019年 9月 ベニュートレーニング



ファンゾーンから帰る来場者をハイタッチで見送るボランティア

ボランティア運営の役割分担

	大会組織委員会	開催都市 (神奈川県・横浜市)
運営主体	大会組織委員会と開催都市が合同で一体運営	
活動場所	競技場内、大会関係施設	<ul style="list-style-type: none"> ・競技場周辺 ・最寄駅周辺 ・最寄駅～競技場ルート ・ファンゾーンほか
業務内容	競技運営サポートなど	<ul style="list-style-type: none"> ・案内誘導、観光案内 ・美化推進 ・ファンゾーン運営補助

募 集

ボランティアの募集は大会組織委員会と合同で行われた。

県・市では、広報よこはまをはじめとした各種広報媒体による情報発信や、シティドレッシングの実施、県内でボランティア活動をする団体への呼びかけなど、主に県内における募集広報を行った。

そして、2018年4月から7月まで、大会組織委員会の公式ボランティアサイトでの募集が行われ、神奈川・横浜会場では、募集予定人数約1,500人に対して6,000人を超える応募があった。

〈 ボランティアの募集概要 〉

- 募集期間 2018年4月23日から7月18日
- 応募要件 国籍、性別、居住地についての制限はなく、年齢は2019年4月1日現在18歳以上であること。応募は居住地にとらわれず、ボランティア活動可能なエリアへの応募可。神奈川・横浜会場では5日以上活動が可能であることが条件。
- 応募方法 大会公式ウェブサイトから応募。オンラインでのみ受付。

募集の結果、応募人数が採用予定者を大幅に超えたため、2018年7月下旬に大会組織委員会により抽選が行われ、採用候補者を約1,700人に絞り込んだ。

採 用

2018年11月、12月にこの約1,700人の採用候補者を対象とし、採否を決定する「インタビューロードショー（面接）」を横浜文化体育館にて開催した。

インタビューでは、自己紹介やゲームを織り交ぜたグループワークを通じ、ボランティア活動に必要なコミュニケーション力や大会期間中ともに活動するチームへの順応力について確認を行った。

その後、2019年1月、インタビューロードショーの結果が通知され、約1,500人が大会公式ボランティアとして正式に採用された。

〈 インタビューロードショー 〉

- 日 程 2018年11月30日、12月1日、12月2日
- 場 所 横浜文化体育館
- 内 容 ①オリエンテーション
ラグビーワールドカップ2019大会概要、ボランティア活動内容の紹介など
- ②グループワーク
10人程度に分かれて行うゲーム
- ③スペシャルコンテンツ
ラグビー体験、記念写真撮影、折り鶴制作
- ④ユニフォームサイズチェック、AD用写真撮影、個別質問

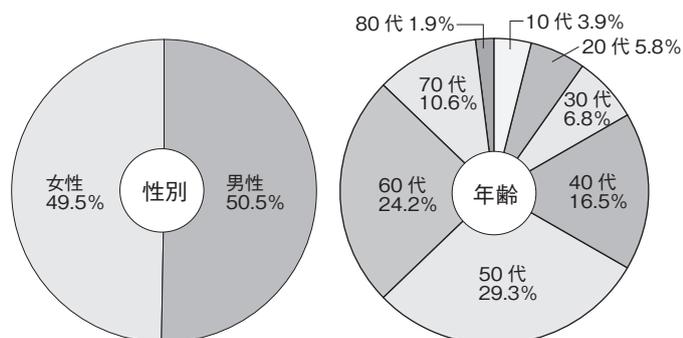


グループワークの様子（インタビューロードショー）

〈 ボランティア構成比 〉

ボランティアの男女比は半々、年齢層は50代が最多の29.3%、次いで60代の24.2%で、10代から80代まで幅広い年代にわたった。

また、ボランティアのうち、約8割は英会話力があると回答していた。



トレーニング(研修)

大会公式ボランティアに必要な知識と、大会の顔としてふさわしいホスピタリティを習得していただくとともに、大会成功への思いを高めていただけるよう、各種トレーニングを実施した。

〈 e-learning 〉

ラグビーワールドカップ2019の概要、大会におけるボランティアの役割、ラグビーの基本的なルールなどを大会組織委員会の公式ボランティアサイトで各自受講。

日 程 2019年2月～6月

〈 オリエンテーション(任意) 〉

ラグビーワールドカップ2019の概要、大会におけるボランティアの役割を確認し、大会成功への思いを高める決起集会。

日 程 2019年2月9日

場 所 関内ホール

参加者 912名



〈 リーダートレーニング 〉

グループリーダー候補者向けに行われる、リーダーとしての考え方や役割などを身につけるための研修。

日 程 2019年6月7日、8日

場 所 神奈川県トラック総合会館



ボランティアリーダーの役割を学ぶ座学(リーダートレーニング)

リーダートレーニングに参加したボランティアさんの声

2019年6月8日取材



長谷川俊一さん

知らない人と話をすることが好きで、横浜国際総合競技場でボランティアとして活動しています。今回のような国際的なスポーツ大会に参加できることは大きな喜びです。開催日が近づいてくるとともにだんだん気持ちが高まって上がってきました。



小松原佳子さん

これまでも横浜で開催された大きなスポーツ大会でボランティアを経験しています。ラグビーの観客は敵味方関係なく、みんなで試合を楽しむと聞いているので私もその雰囲気と一緒に楽しみたいと思っています。

〈 ロールトレーニング 〉

それぞれ割り当てられた役割（ロール）に応じた活動内容についての講義を受け、活動に必要な知識を身につける役割別研修。

日 程 2019年7月5日～8日
場 所 セブン&アイ・ホールディングス伊藤研修センター



活動するエリアや役割を学ぶ（ロールトレーニング）



初対面の人と会話をする練習（ロールトレーニング）

〈 ベニユートレーニング（実地研修） 〉

実際に活動する場所（ベニユール）を歩き、大会当日の活動をイメージする研修。

◆横浜駅・桜木町駅・みなとみらい駅・ファンゾーン周辺エリア

日 程 2019年9月7日～9日
※9月8日は、台風の影響で中止

◆新横浜駅・小机駅・競技場周辺エリア

日 程 2019年9月14日～16日



活動場所を歩いて確認する（ベニユートレーニング）

ロールトレーニングに参加したボランティアさんの声

2019年7月7日取材



安藤岳彦さん

障害者施設に勤務していてパラリンピックに関わる予定なので、大会の運営や雰囲気を知りたいと思って参加しました。以前はラグビーに関心はなかったのですが、最近ラグビーという言葉や文字にすぐに反応してしまいます。



岸 優佳さん

アメリカに住んでいた中学生の時、英語がわからない私を友達が助けてくれました。この経験から日本語がわからなくて困っている外国人の助けになりたいと思って応募しました。ボランティアは初めてですが、研修を通して活動内容が徐々にわかってきて今はとても楽しみです。



柿鶴真子さん

ボランティアの経験はありますが、スポーツ大会での本格的なボランティアは初めてです。いろいろな人と話するのが好きなので一人で参加しました。外国の方とも話をしたいので今、ラジオで英会話講座を聴くなど、英会話の勉強をしています。ファンゾーンで活動したいですね。

〈エンゲージメント(任意)〉

採用から大会開催までの長期間、大会に向けた思いを高めていただく取組(エンゲージメント)として、大会組織委員会と共同で、IAAF世界リレー2019横浜大会の観戦や、横浜国際総合競技場の観戦ツアーを行った。



IAAF世界リレー2019横浜大会を観戦(エンゲージメント)



見学ツアーで競技場内について説明を受ける(エンゲージメント)

大会公式ユニフォーム

2019年3月に大会組織委員会は、大会公式ユニフォームを公開した。

デザインのコンセプトを「一体感、笑顔、思い出」として、大会の基本カラーである、濃いブルー、サックスブルー、イエローの3色で構成し、ポロシャツにはキービジュアルのグラフィックが施された。

〈ボランティアへの支給品など〉

◆ユニフォーム一式

- ・内容 長袖と半袖のポロシャツやパンツ、ジャケット、キャップ、バックパック、ボトル、ボトルホルダー
- ・ルール 定められたルールに従って着用、保管

◆保険 大会組織委員会によるスポーツ保険に加入

◆食事 活動日に1食分の弁当を支給され、それぞれ活動場所近くの休憩スペースで受け取り

〈ユニフォーム配付(神奈川・横浜会場)〉

神奈川・横浜会場では以下の日程でユニフォームの配付が行われた。

日程 2019年9月7日～9日

場所 国際協力機構 横浜センター (JICA 横浜) 体育館

大会公式ユニフォーム



当日の活動

開催都市のボランティアは、競技場周辺やファンゾーン会場への案内誘導、ファンゾーンでの運営補助が主な役割となる。

〈 競技場周辺での活動 〉

競技場周辺での活動は、ラストマイルの案内誘導と、新横浜駅、小机駅に設置した案内デスクでの案内業務の2つである。

ラストマイルでの案内誘導は、警備員と連携し、プラカードや声掛けによる案内を実施したほか、フォトフレームを持っての写真撮影など、国内外からのお客様へのおもてなしを行った。

ボランティア活動人数実績 (11月2日)

活動エリア	実績人数
新横浜駅周辺	119人
小机駅周辺	32人
競技場周辺	40人
ファンゾーン	209人
計	400人



当日朝のミーティング



案内デスク



ラストマイル上でプラカードを持つての案内誘導



フォトフレームを使った写真撮影は大人気



試合が始まると休憩所で食事



試合終了後のお見送りはハイタッチで

〈 ファンゾーンでの活動 〉

ファンゾーンでの活動は、最寄り駅からファンゾーン会場までの案内誘導と、会場内でのインフォメーションや案内誘導、ブース等の待機列整理などの運営補助、フォトフレームでの写真撮影などのおもてなしを行った。



活動当日のミーティング風景（ファンゾーン）



アンセムの歌詞カードを配る（ファンゾーン）

〈 活動の成果 〉

約8割のボランティアが日常会話レベル以上の英語対応が可能であったことから、外国人に対する英語対応を着実に行うことができた。

神奈川・横浜会場のボランティアによるホスピタリティ溢れる対応は、報道でも非常に高く評価され、大会開幕前に行ったトレーニングの成果や、県・市に根付くボランティア文化のレベルの高さが証明された。

サンキューパーティー

2019年12月21日、大会運営のサポートや観戦客のおもてなしなどで活躍したボランティアに対する感謝を伝えるために、サンキューパーティーを開催した。

サンキューパーティーでは、ラグビー日本代表選手からのメッセージムービーの上映や、感謝状の贈呈、ボランティアの記念撮影などを行い、大会を振り返るとともに、ボランティア同士の交流を深めた。

日 程 2019年12月21日

場 所 新都市ホール

参加者 1,021人

内 容 ムービー視聴、感謝状贈呈、写真撮影



感謝状の贈呈



サンキューパーティーに参加したボランティア全員で記念撮影

大会を振り返って

ボランティアによる大会運営のサポートや観戦客へのおもてなしは、大会が成功したといわれる大きな要因となった。ボランティア活動中の高いモチベーションは、大会開幕前に実施したエンゲージメントの取組のほか、多数の外国人の来場やシティドレッシングなどの国際大会の特別感によって醸成されていた。

本大会において神奈川・横浜会場で活動するボランティアは、案内誘導や笑顔溢れるおもてなしで国内外から訪れた観戦客から高く評価を受けたと報道された。

この成果を大会後のレガシーとして、翌年開催の東京2020オリンピック・パラリンピック、そして、さらなる県・市のボランティア文化の醸成につなげていく。



フォトフレームを使った写真撮影はどこでも大人気だった



ボランティア自身も楽しみながらお見送りのハイタッチ



案内時には英語力を発揮

サンキューパーティーに出席したボランティアさんの声

2019年12月21日取材



山田明子さん

初めてボランティアに参加しましたが、同じチームの方たちがリードしてくださったので、楽しく活動できました。街なかボランティアとしてルート案内が主な仕事で、英語で声掛けをしましたが、外国の方々は片言英語でもきちんと聞いてくれるので、英語に対するハードルが低くなりました。とても良い経験だったので、ボランティア活動を続けます。



田中純子さん

サッカーJリーグの試合でのボランティア経験はありますが、国際大会は初めての体験です。ファンゾーンのゲート付近でパンフレットやアンセムシートを配布したり、桜木町駅周辺でルート案内などをしました。外国の方はとてもフレンドリーで、素晴らしい体験ができました。これから国際大会でのボランティア活動のためにもっと英語を勉強します。



山崎 滋さん

ボランティア歴は2年ほどですが、国際大会に参加したいと応募しました。ファンゾーンを担当しましたが、とても楽しい日々を過ごすことができました。最初は盛り上がるのか心配でしたが、いざ始めると外国人も日本人も一緒に盛り上がり、私も外国人と一緒に写真を撮ったり、片言で話したり。今後もボランティアは続けていきます。

権利保護

概要

ラグビーワールドカップのブランド価値と、開催を支える公式スポンサーの権利を守る権利保護は、大会運営において重要かつ不可欠な要件で、開催都市の協力が開催基本契約によって義務付けられていた。

内容

権利保護は、クリーンと呼ばれる商業的表示のマスクング（遮蔽）とアンブッシュマーケティング（便乗商法）の防止の2つを実施した。

〈クリーン〉

競技場内および競技場周辺500m以内に公式スポンサーの категорияに抵触する広告宣伝物や商業的表示が出ていない状態にすることをいう（看板や道路標識などはクリーンの対象外）。対象エリアにある該当物の調査、大会組織委員会との協議を経て対応を実施。また、市景観調整課と共に路上違反広告物撤去指導も実施した。

クリーン対象外のもの

- ・既存店舗看板（自動販売機、ATMを含む）
- ・大会スポンサーカテゴリーと重複しない広告物
- ・アンブッシュマーケティングの恐れのない広告物
- ・道路標識・駅表示、バス停表示・消火栓
- ・電柱看板・地域の案内地図に表示される企業名

〈アンブッシュマーケティング〉

ダフ屋や偽造商品の販売、公園や路上などでの無許可販売など、観客動線上での大会に便乗した営利活動などを防止することである。

これらを防止するため、事前に周辺の店舗に対して自粛を求めたほか、路上販売禁止サインを掲示するなどの抑制を図った。試合開催日は、大会組織委員会だけでなく、警察や保健所など関係機関と連携してアンブッシュの防止に向けた巡視指導を行った。

また、アンブッシュマーケティング防止の考えに基づき、開催都市が実施するおもてなしイベントについても、一定の制限が設けられた。

アンブッシュマーケティングの典型例

- ・看板、横断幕による広告
- ・サンプル品、雨具などの配布
- ・チラシ、パンフレットの配布
- ・路上での販売行為
- ・車体広告付き車両
- ・ドローンやアドバルーンを使った空中広告
- ・ダフ屋行為・非スポンサーによるイベント

開催都市が実施（主催）するおもてなしイベントの実施基準

	商業活動がないイベント	商業活動があるイベント
500mクリーン内	大会組織委員会が承認すれば実施可	全ての商業活動が実施不可
500mクリーン外かつ動線上	大会組織委員会が承認すれば実施可	大会組織委員会が承認すれば実施可
その他	大会運営上支障がなければ実施可	大会と関連付けない、かつ大会運営上支障はないこと



無許可販売に警告を与える

大会を振り返って

クリーンは、事前のマスクングや掲出自粛要請が効果を発揮したが、アンブッシュマーケティングは、違法販売グループが少人数に分かれて次々に出没したため、大会組織委員会をはじめとするスタッフがチームとなり警察とも連携しながら防止活動を続けた。

警告をしても場所を変えて繰り返されたが、違法販売一つ一つに対して排除や警告、検挙を続けることは、違法販売グループに対する抑制や、今後の国際的スポーツ大会での違法販売の減少に向けて大事なことだと考えられる。

医療救護

概要

ケガや急病、そのほかの医療救護事案発生時に、迅速かつ的確に対処し命を守ることが医療救護の業務である。

そこで、全ての人々の命を守り、安全で円滑な大会運営のために迅速に情報収集と初動対応を行ったうえで、統括的な指揮ができる医療救護体制を構築した。

スケジュール

2018年 4月 医療救護検討部会を設置

2019年 9月 横浜市医療救護計画制定

医療救護体制

〈医療救護本部〉

設置場所 競技場内 317会議室

スタッフ 医師2名、医療局職員2名、業務調整員1名

〈場外救護所〉

設置場所 新横浜駅北口西広場

スタッフ 医師1名、看護師1名

〈派遣型医療チーム〉

待機場所 開催都市大会運営本部

スタッフ 医師1名、看護師1名

〈医療救護班〉

設置場所 開催都市大会運営本部

スタッフ 医療局職員2名



待機中の派遣型医療チーム

内容

ラグビーワールドカップ2019における医療救護業務は、エリアによって役割が分担された。選手及び大会関係者、競技場内の観客については大会組織委員会、ラストマイルや大会関連施設（おもてなしイベント、ファンゾーンなど）に訪れる観客などについては開催都市がそれぞれ担当した。

競技場内には救護室を4か所設置したほか、多数傷病者発生などの危機事案発生時に大会組織委員会や市大会現地警戒本部などと連携し、迅速に対応することを目的として医療救護本部を設置した。

一方、競技場外では新横浜駅北口西広場に場外救護所を設置した。また、横浜市では初めての試みとして、ラストマイルなどで観戦客が負傷または急病などを発症した際に出動し、現場での初期対応などにあたる派遣型医療チームを開催都市大会運営本部内（場外救護所も含む）に配置した。

医療救護検討部会構成メンバー

関係医療機関等
横浜市医師会、横浜市病院協会、横浜市立大学、横浜市立市民病院、済生会横浜市東部病院、けいゆう病院、聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院、昭和大学藤が丘病院、横浜市立みなと赤十字病院、横浜医療センター、横浜南共済病院、横浜労災病院
組織委員会
ラグビーワールドカップ2019組織委員会、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
横浜市
市民局、総務局、健康福祉局、医療局、医療局病院経営本部、消防局
オブザーバー
神奈川県、神奈川県警察

危機管理

概要

ラグビーワールドカップ2019が横浜市内で開催されるにあたり、想定される危機事案に対する事前対策を推進した。危機事案が発生した場合の被害を最小限にとどめ、安全・安心な大会運営ができるように、開催都市としての責務を果たすため、危機管理体制を確立した。

スケジュール

- 2017年 8月 危機管理プロジェクト設立
- 2018年 3月 危機管理基本計画策定
- 2018年 9月 テロ対策合同訓練
(実働訓練、情報受伝達訓練)
- 2019年 3月 危機管理計画策定
- 2019年 7月 情報受伝達訓練(図上訓練)実施
- 2019年 8月 テロ対策合同訓練
(実働訓練、情報受伝達訓練)実施

体制

試合開催日には、市庁舎危機管理センターに市大会警戒本部を、県くらし安全防災局内に情報連絡室を設置するとともに、競技場内には、市大会現地警戒本部を設置し、消防特別警備現地本部及び医療救護本部と連携した危機管理体制を確立した。また、開催都市大会運営本部に危機管理班を設置し、市大会警戒本部と開催都市大会運営本部との連携を図った。



横浜国際総合競技場317会議室

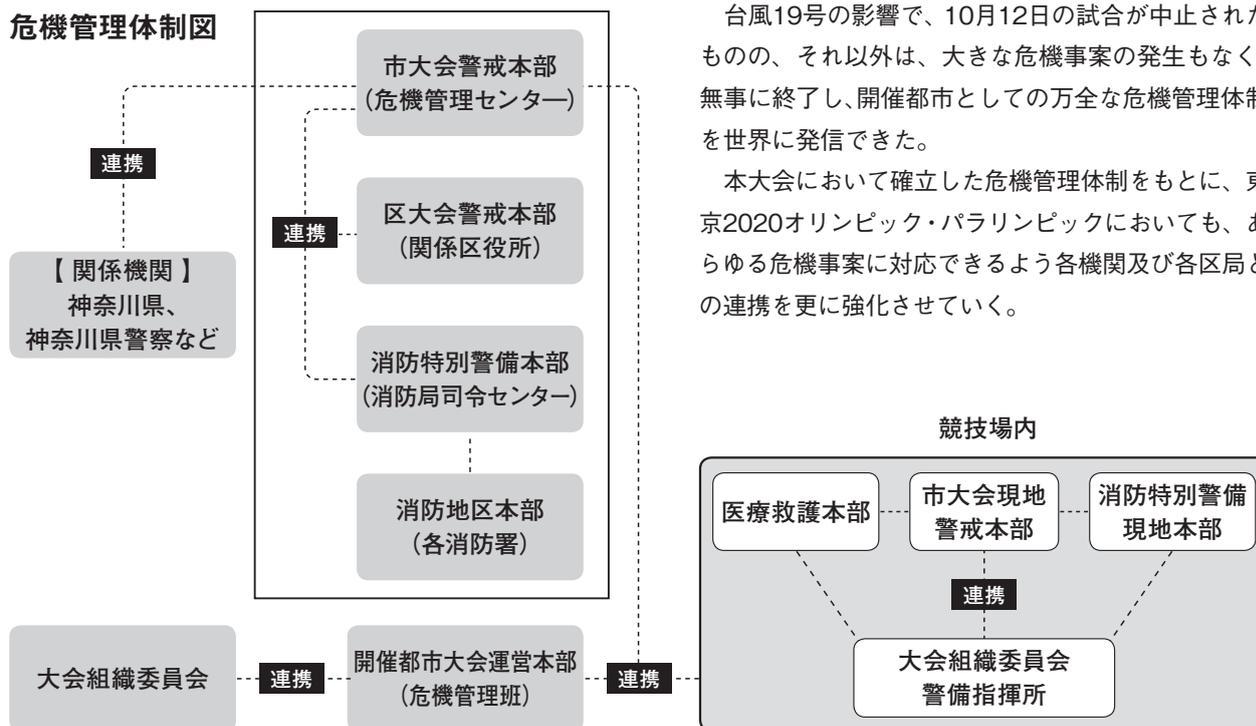
大会を振り返って

危機管理プロジェクトにおいて、ラグビーワールドカップ2019に向けた事前対策や危機管理体制について検討を重ね、万全な体制を確立することができた。

台風19号の影響で、10月12日の試合が中止されたものの、それ以外は、大きな危機事案の発生もなく、無事に終了し、開催都市としての万全な危機管理体制を世界に発信できた。

本大会において確立した危機管理体制をもとに、東京2020オリンピック・パラリンピックにおいても、あらゆる危機事案に対応できるよう各機関及び各区局との連携を更に強化させていく。

危機管理体制図



公衆衛生対策

食品衛生対策

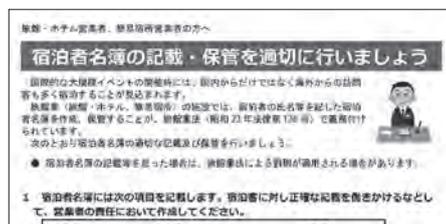
ラグビーワールドカップ2019の開催にあたり、横浜市内の宿泊施設などに多くの観光客が訪れることが予想され、飲食物を原因とする健康被害が発生すると大きな影響を及ぼすことから、事故発生がないよう万全を期す必要があった。そのため、事前対策では区福祉保健センター生活衛生課と市健康福祉局食品衛生課が連携し、2019年4月から8月までを重点期間として、宿泊施設や商業施設内にある食品取扱施設の立入検査を1,713件実施し、食中毒予防対策を推進した。

また、試合開催日には、区福祉保健センター生活衛生課と市健康福祉局食品衛生課で競技場内の売店やケータリング施設、キッチンカーなど食品取扱施設の立入検査を実施したほか、新横浜駅周辺の食品取扱施設の巡回指導を合計266件実施した。さらに、ファンゾーン開催日には、ファンゾーン内の食品取扱施設の立入検査を240件実施することにより、食の安全の確保に努めた。

環境衛生対策

国内外から多くの観戦客が横浜市を訪れることから、競技場やファンゾーンなどのイベント会場、宿泊施設、商業施設の衛生を確保するため、市健康福祉局生活衛生課及び区福祉保健センター生活衛生課で立入検査を312件実施した(2019年4月～9月)。立入検査時には、施設の清掃の衛生管理が適正に行われているか確認するとともに、特に宿泊施設に対しては、旅館業法に基づく宿泊者名簿の作成・保管、外国人宿泊客の旅券(パスポート)の確認・写しの保管を適法に行うよう重点的に指導した。

また、人の持ち物などに付着して持ち込まれるおそれがあるトコジラミの対策について、立入検査時に啓発した。



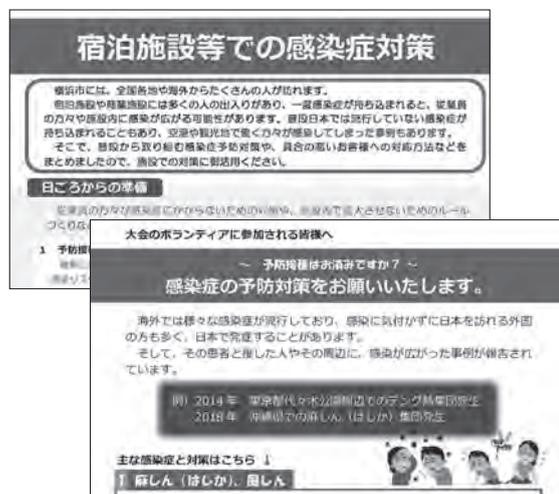
宿泊施設(旅館業)向けチラシ(一部抜粋)

感染症・食中毒対策

市健康福祉局健康安全課では、訪日外国人の増加や観客の集積(マスコギャザリング)による輸入感染症の増加や集団感染事例発生リスクに備え、市民・訪日外国人への注意喚起を行うとともに、大会に関係する宿泊施設などの従事者やボランティアなどに対しワクチン接種などの予防対策に関する啓発を実施した。

また、医療救護体制と連携し、有症状者の早期把握のためデイリーレポートや緊急連絡網などの情報伝達体制を構築した。

さらにデング熱などの蚊媒介感染症対策として市健康福祉局生活衛生課、区福祉保健センター生活衛生課及び衛生研究所と連携し、競技場やファンゾーン及びその周辺において昆虫成長阻害剤による幼虫駆除(2019年6月～9月)を行うとともに、モニタリング地点を増やして蚊の生息状況及びウイルス保有状況調査(2019年5月～10月)を実施した。



感染症予防対策に関するチラシ(一部抜粋)



昆虫成長阻害剤による幼虫駆除

街の美化

国内外から神奈川・横浜を訪れる方々をきれいな街でお迎えし、気持ちよく滞在していただくことを目的に、美化活動に取り組んだ。

神奈川・横浜会場初戦が行われる9月21日には、市資源循環局が清掃ボランティア170人とともにラストマイル（最寄り駅から競技場までの道のり）を清掃するクリーンアップイベントを実施した。

さらに、ラストマイルで活動する大会ボランティアが配置場所への移動時にごみ拾いを行うとともに、試合開催日及び翌日の朝（6時から12時）には、委託事業者による競技場周辺の一斉清掃を実施した。

しかし、試合開始前のラストマイル上の自動販売機付近などには、観戦客が飲食店やコンビニなどの店舗前で飲食したごみが放置されていた。そのため、急遽、試合開始直後から運営本部に従事する職員が放置されたごみを拾い集め、動線上影響がない場所で待機し、市資源循環局港北事務所がごみ回収を行った。

清掃ボランティアによる清掃活動の様子



運営本部従事職員による競技場周辺のごみ拾い



トイレ対策

本大会では、観戦客のビール需要が非常に高いと予想されたため、新横浜駅前公園に仮設トイレを5基設置し、資源循環局北部事務所が定期的なくみ取りを行った。

また、競技場周辺の新横浜駅北口公衆トイレなどの清掃回数を増やしたほか、トイレ内に外国人向け利用マナーの掲示も行った。



設置された仮設トイレ



トイレ利用マナー掲示

会場整備

概要

大会にふさわしい試合開催会場を提供するための会場整備は、県・市の役割分担において、試合会場である横浜国際総合競技場の施設設置者である横浜市が本設・仮設整備を行った。

神奈川・横浜会場である当該競技場は、決勝・準決勝が行われることから、大会組織委員会から特に高度な水準が求められた。

大会組織委員会と締結している開催基本契約では、大会開催の12か月前までに開催都市の費用負担において、会場運営計画及びガイドラインに定める条件を満たした状態に整備することが定められていた。世界3大スポーツイベントの1つとされるラグビーワールドカップが初めてアジアで開催され、世界が注目する大会の決勝を行う会場にふさわしい整備が期待され準備が進められた。

今回の大規模改修では、会場を通常運営しながら短期間で工事を効率的に行うため、建築、電気、機械、造園、土木など技術職が集められ、2017年4月に市環境創造局会場整備課が設置された。

改修は、施設利用に伴う施設管理者との調整、大会のための仮設整備に伴う大会組織委員会との事前調整及び整備時の安全点検など、会場整備課が中心となり緊密なコミュニケーションをとり行われた。

競技場の実績

横浜国際総合競技場は1997年10月に竣工し、2018年に開場20年を迎えた、国内最大規模の収容人数を誇る競技場だ。横浜F・マリノスのホームとして、Jリーグをはじめ、各種スポーツ大会で使用されているが、ラグビーの試合も可能な設計がされており、グラウンドにはゴールポスト用の基礎が用意されている。

2002FIFAワールドカップでは決勝戦の会場となり、今回のラグビーワールドカップ2019でも、決勝を含む6試合（1試合は台風のため中止）が行われた。

同競技場は開場から20年経過していることから、ラグビーワールドカップ2019の試合開催に支障をきたさないために、本大会開催を契機に、大規模な改修が行われた。

業務分担

同競技場内で整備が必要な設備には、恒久的な設備として実施すべきもの（本設工事）、仮設的な設備として設置すれば足りるものの2パターンがあった。

このうち、本設工事については、環境創造局会場整備課が分担し、仮設設備に関しては市民局ラグビーワールドカップ2019推進課が分担した。

なお、仮設設備であっても工事を要するものについては、ラグビーワールドカップ2019推進課が予算を支出し、会場整備課が契約事務などを含め実施した。

また、本設工事については、2020年に同会場で行われる東京2020オリンピックのサッカー競技を見据えて実施した。

整備方針

整備は大会組織委員会が設けた「開催都市ガイドライン」に従って行われた。「開催都市ガイドライン」の中には、横浜国際総合競技場の既存設備でその基準を満たしているもののほか、競技場の寸法（ピッチの大きさ）など整備が必要なものが含まれている。

そのほか、翌年に開催のオリンピックも見据え、施設管理者の立場として安全への配慮や競技場としての価値向上を目指した設備整備も実施した。



開場20年を迎えた横浜国際総合競技場

本設工事

横浜国際総合競技場の恒久的な設備として実施すべきものが本設工事である。その内容は、ハイブリッド芝への張り替え、競技場用照明LED化、音響、スタンド観客席の更新、トイレ施設の更新などがある。



競技用照明LED化工事

〈ハイブリッド芝への張り替え〉

横浜国際総合競技場で開場時から使用しているティフトン芝は、サッカーの試合には問題なく使用できるが、ラグビー競技においてはスクラムなどにより芝に対して大きな踏圧力もかかる上に、大会期間中は短期間で連戦が行われることから芝への負担が懸念され、大会組織委員会からも要望があったことから、強度のあるハイブリッド芝を導入した。

張り替え作業は、2018年6月から1か月間で行われた。

埼玉県東松山市で育てた芝をロール状にして運び、細心の注意を払って張り替えた。ロール状の芝は重量があることから、敷いた後すぐに試合ができる利点があり、運ばれた芝は特殊な機械を用いて設置した。

芝の開発と育成を行う委託事業者選定にあたっては、事業者の創意工夫による提案を受けるため、公募型プロポーザル方式を採用した。事業者からは、大会期間中の連戦にも耐え、これまでの管理作業が継続できる新たな芝の提案を受け、これを採用した。

ラグビーワールドカップ2019の6試合では、最高峰の舞台上で活躍する選手にふさわしい最高のコンディションの芝を提供することができた。



ハイブリッド芝敷設工事

ハイブリッド芝の構造イメージ図



〈 競技用照明LED化 〉

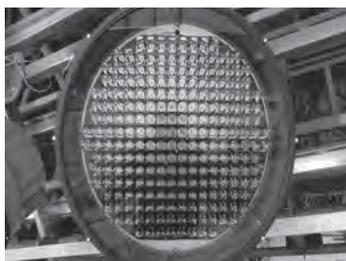
2016年度に設計、2017年度、2018年度の2年間で工事を行った。

競技用照明については、開幕と決勝会場は他会場に比べ、より明るさが求められた。ピッチ上は均一で水平面だけでなく、テレビカメラから見た鉛直面も明るく、まぶしくなく、スローカメラで撮影してもらわず、太陽光に近い見え方などが求められた。

一方、観客席を暗くすることが求められたことから、これらの要求を全て満足でき、大規模な国際大会が開催されているスポーツ施設で実績のあるメーカーのLED照明器具を採用した。

また、1灯ごとに点灯、消灯、調光をプログラムすることが可能で、フィールドを照らす照明としての機能だけでなく、音楽に合わせた演出も可能になり、コンサートなどで舞台と一体になった演出が可能になった。

工事は、競技場を使用しながら行うために観客に影響がないように既存の屋根から鎖で足場を吊る工法を採用した。



LED照明器具



競技用照明のLED化でピッチは明るくなった

〈 音響 〉

音響設備については、事前に観客席やフィールドにおける聞こえ方をシミュレーションし、最適になるようにスピーカーを配置した。

今後、様々な国際大会開催に向けて、競技場としての価値を向上していくことも考慮したうえでの改修となった。

〈 スタンド観客席の更新 〉

スタンド観客席は経年劣化していることもあり、約7万席を更新した。

新しい座席は、前面の通路が確保できるように跳ね上げ式とし、移動もスムーズになった。また、スタンドの2層目は1層目と比べ傾斜が急なので、観戦時に前のめりになっても安全な状態とするように前方座席の背もたれを7cm高くしている。

座席の更新は2017年度から3年かけて行われたが、照明設備の更新と同様に、競技場の運営事業を優先した使用状況に合わせて施工計画し、エリアごとに改修工事が行われた。

また、視野障害となっていたスタンド2層目最前列の柵手すりを改良し、観戦しづらかった約1,000席を解消した。

〈 トイレ施設の更新 〉

これまで、和便器の洋式化を部分的に行ってきたが、今回の工事で、競技場内の観客用、バックヤードのスタッフ用、および東西広場の公衆トイレの全てを洋式化した。

競技場内の多機能トイレでは、男女トイレそれぞれの室内に車いす用のトイレがあるが、今回、異性による介助や性的マイノリティ（LGBT）に配慮し、コンコースから直接入ることができる男女共用のトイレを10室増設した。

外国人をはじめ誰にでも使いやすい、おもてなしのトイレ整備ではほかにも、扉に使用状況がわかるサインを設置し、化粧スペースと動線エリアを分けるなど様々な工夫を行い、混雑緩和を図った。

仮設工事

記者席、実況席、コーチボックス席などは机のサイズ、奥行きや幅は12開催会場共通で、場所と数量は大会組織委員会の要望に合わせて現場で製作し、仮設席として整備を行った。

また、既設記者席（スタンド1層目）は大会ゲスト席に近接しており、観戦しやすい場所であることから仮設の一般席に交換した。ゲスト席の一部には試合で使用するコーチボックス席も設置した。

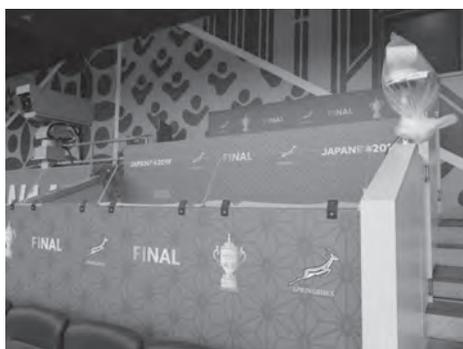
これらのことから、2層目のメインスタンドの一般席1,580席のエリア部分に実況席138席、記者席352席を新しく設けた。

実況席についてはエリアの前段に3人掛けでラジオ用と合わせて計46セットを設置し、机付きの記者席は後段に325席を設けた。記者席が増えた決勝では、記者席・実況席とも満席となった。

また、横浜国際総合競技場のピッチはサッカーの試合を想定したサイズ（107m×72m）だったが、大会仕様は130m×80mのサイズが必要であったため、その仕様を満たすために、フィールドの周辺区域に天然芝による拡張を行った。



仮設記者席



コーチボックス



天然芝敷設工事



拡張されたフィールド全景

ホスピタリティ施設

国賓や、大会公式スポンサーの招待者などを歓待するスペースとして、ホスピタリティ施設を大会組織委員会と連携して仮設設置した。

海外のスポーツスタジアムにはホスピタリティ施設を多数備えている施設が多い。横浜国際総合競技場にも既存のホスピタリティ施設があるが、決勝を行う会場においては主催者の求める水準も高く、12

開催都市の中で特に大規模な施設整備が行われた。

本大会では、①大会オフィシャルゲストラウンジ、②一般用 公式ホスピタリティラウンジ、③商業ホスピタリティラウンジ（大会公式スポンサー）、と3種類のホスピタリティラウンジが、競技場の内外に設置された。

今回のホスピタリティ施設の設置は、こうしたスポーツホスピタリティ文化を日本に広めることにも繋がるものと期待される。



〈大会オフィシャルゲストラウンジ〉

大会主催者が招待する国賓や大会公式スポンサーなどの皆様をおもてなしするためのスペースであり、決勝戦をはじめとする重要な試合が組まれた横浜国際総合競技場には、最大600名程度のゲストに対応するためのスペースが必要とされた。

そのため、既存のVIP用ラウンジを拡張する形で、4階西ゲート前に1,000㎡を超える大型 TENT を仮設設置した。決勝では、さらに招待客が増加することにあわせ、競技場内の室内走路にもラウンジが設けられた。



日本文化を感じる展示品でおもてなし



大会オフィシャルゲストラウンジ内観



決勝のみ設けられた室内走路のラウンジ

〈一般用 公式ホスピタリティラウンジ〉

欧米では既に定着している、試合前後に特別な料理やイベントを用意するなどしておもてなしする観戦スタイル「スポーツホスピタリティ」が今大会で本格的に提供されることとなった。公式プロバイダーであるSTH JAPAN株式会社が販売する公式ホスピタリティプログラムの特設会場として、最大1,500名程度にもなるゲストに対応するため、競技場から徒歩圏内の新横浜駅前公園少年野球場に大型テントが仮設置され、720席程度のイベントスペースと、20名から100名までの人数規模に応じた個室が設けられた。



一般用公式ホスピタリティラウンジ内観



一般用公式ホスピタリティラウンジ外観

〈商業ホスピタリティラウンジ〉

大会公式スポンサーがそれぞれの顧客やその他関係者をご招待するための専用ラウンジであり、最大1,600人程度にもなるゲストに対応するため、競技場内5階西側コンコースを閉鎖する形で、ほぼ全面にラウンジが仮設置された。仮設置ラウンジは、外から中が見えないようしっかり囲われ、コンコースとは思えない重厚な空間となっていた。ラウンジの中にはスポンサー各社がそれぞれに装飾を施した。



商業ホスピタリティラウンジ内観

大会関係者駐車場の確保

本大会において、大会関係者の駐車場の確保については開催都市、運営については大会組織委員会が役割分担し実施した。

最大2,000台を超える大会関係者車両の来場が予想され、競技場付帯の駐車場では不足すること、競技場のある新横浜公園が鶴見川氾濫時の遊水地とさ

れており豪雨などによる遊水地への流入時には、駐車場所の多くを占める競技場1階の人工地盤下駐車場は使用できなくなることが課題であった。

そのため、会場外の周辺駐車場を借り上げたほか、流入時の代替駐車場の確保を進めた。

大会前から期間中にかけて、常時、天候をモニタリングし、遊水地への流入が懸念される場合には、大会組織委員会と連携し、代替駐車場の利用調整を行うなど、万全な体制の確保に努めた。

公認チームキャンプ地

概要

公認チームキャンプ地は、大会期間中にチームが練習及び調整を行うために滞在する場所で、トレーニング施設と宿泊施設で構成される。

大会組織委員会は、選定プロセスに応募した自治体について審査を行い、チームによる実施視察を経て、公認チームキャンプ地を決定した。

公認チームキャンプ地に決定した自治体は、大会組織委員会が定める条件を満たすようトレーニング施設を整備・維持管理しなければならない。

神奈川県内では、横浜市（アイルランド代表、スコットランド代表）、海老名市（ロシア代表）及び小田原市（オーストラリア代表）が公認チームキャンプ地に決定し、チームの受入れや、チームと市民との地域交流を行った。



スケジュール

2016年12月 大会組織委員会の選定プロセスに応募
(応募数：90自治体、76か所)

※神奈川県内では横浜市、神奈川県・藤沢市、厚木市、海老名市が応募

2018年4月 大会組織委員会 公認チームキャンプ地の内定発表（横浜市及び海老名市）

2019年3月 大会組織委員会 公認チームキャンプ地決定発表（61自治体、55か所）

※オーストラリア代表の事前キャンプ地に決定していた小田原市は、公認チームキャンプ期間もキャンプを実施することとなり追加された



各チームの公認キャンプ地の場所と滞在期間

	滞在チーム	滞在期間	場所
横浜市	アイルランド代表	9月18日～23日	関東学院大学金沢文庫キャンパスサブグラウンド (練習グラウンド・ジム(仮設))
	スコットランド代表	10月11日～14日	横浜市立大学総合体育館(屋内練習場・プール)
海老名市	ロシア代表	9月25日～10月1日	海老名運動公園(練習グラウンド・ジムその他)
小田原市	オーストラリア代表	9月10日～18日、 10月12日～16日	城山陸上競技場(練習グラウンド)、 ヒルトン小田原リゾート&スパ(ジムその他)

関連プログラム

〈横浜市〉

◆アイルランド代表と

関東学院大学ラグビー部との交流（9月21日）

チームの練習グラウンドがある関東学院大学のラグビー部の学生など約80人が、激励メッセージを寄せ書きしたバナーなどをチームに贈呈。一流選手とのコミュニケーションや一流のプレーを見学する機会が生まれた。

また、チームからは選手全員のサインが入ったジャージや、滞在を証する記念盾の返礼品を贈呈された。2018年ワールドラグビー最優秀選手であるSO ジョナサン・セクストン選手も訪れ、キックを間近で披露した。



アイルランドチームからジャージを受け取る関東学院大学ラグビー部キャプテン



チームから贈呈された記念盾



アイルランド代表と関東学院大学ラグビー部との記念写真

◆金沢区役所・公会堂でパブリックビューイング

プール戦「アイルランド対スコットランド」（9月22日）

プール戦「日本対アイルランド」（9月28日）

プール戦「日本対スコットランド」（10月13日）



◆ラグビークリニック（4月22日）

スコットランド代表ヘッドコーチのグレガー・タウンゼント氏による、横浜市内高校ラグビー部生徒徒約20人を対象としたクリニックを横浜カントリー&アスレティッククラブで実施した。



〈海老名市〉

ロシア代表チームのおもてなしをはじめとして、市民・企業・関係団体と連携し、ALL海老名で盛り上げを図るため「えびなラグビーサポーター」を募集、総勢395名の応募があり、5月26日に結団式を実施。

◆ロシア代表歓迎給食の実施（市内全小学校） ロシアの代表料理（ボルシチとピロシキ）を 提供（6月11日、12日）



写真提供／海老名市

◆海老名駅前芝生広場で パブリックビューイング プール戦「日本対ロシア」（9月20日）



◆海老名運動公園で

ロシア代表地域交流イベント（9月28日）

地域の小中学生、ラグビーサポーターなど約200名参加。海老名ラグビースクール生がロシア国歌を披露、市内全小中学校が各校1旗ずつ応援フラッグを作成し選手に手渡した。またスクール生や中学校ラグビー部生徒を対象にラグビークリニックを実施した。



◆ロシア代表対スコットランド代表戦 観戦バスツアー（10月9日）

小笠山総合公園エコパスタジアムに300人が参加し、ロシア代表を応援した。



〈小田原市〉

- ◆オーストラリア代表1年前キャンプ
歓迎セレモニー（2018年10月29日）
場所：小田原城址公園本丸広場



◆ワラビーズ応援イベントの実施

市内の子どもたちが参加して応援フラッグを作成するワークショップを実施したり（2018年9月30日）、市のごみ収集車をワラビーズカラーにペイントするなど、応援イベントが実施された（6月1日）。ペイントされた車は市内を走り、フラッグは市内や練習場に展示。



◆オーストラリア代表歓迎セレモニー（9月11日）

城山陸上競技場で実施し、市民やラグビーファンら約1,500人が参加。あわせて公開練習を行った。大会優勝を祈願した木製メダルが市内保育園の園児から選手へ渡され、マイケル・フーパー主将からは市長に記念品が贈呈された。



オーストラリア代表歓迎セレモニー

- ◆小田原地下街「ハルネ小田原」で
パブリックビューイング
プール戦「オーストラリア対フィジー」
（9月21日）
プール戦「オーストラリア対ウェールズ」
（9月29日）
準々決勝「オーストラリア対イングランド」
（10月19日）



◆オーストラリアと小田原市内の小学生が交流 （9月30日）

オーストラリアで最も歴史のあるシドニーの私立男子校「キングス・スクール」のラグビー部とサッカー部の小学生26人（12歳）が国際交流プログラムの一貫として小田原を訪れ、市内の小学生たちと文化交流や交流試合を実施した。



◆オーストラリア代表対ジョージア代表戦 観戦バスツアー（10月11日）

小笠山総合公園エコパスタジアムに47人が参加し、オーストラリア代表を応援した。

CHAPTER

3

神奈川・横浜から 大会を盛り上げよう

ラグビーワールドカップ2019™の大きな盛り上げに向けて、そして一人でも多くの方にラグビー競技やその精神を知っていただくために、オール神奈川・横浜でスクラムを組み、機運醸成に取り組んだ。



機運醸成の取組の概要

はじめに

ラグビーワールドカップ2019は、日本のみならず世界を熱狂させ、歴史に残る成功を収めた。しかし大会開催に至るまでは、日本におけるラグビーの認知度はあまり高くない状況が続いた。

神奈川県・横浜市としては、大会の開催地からラグビーを盛り上げていこうと、立候補以来、競技団体や民間企業などとも連携し、オール神奈川・横浜で機運醸成に取り組んできた。

機運醸成の考え方 や重要施策

横浜市域における機運醸成は横浜市が、市外県域は神奈川県が実施主体となり、連携して事業を行った。

機運醸成の目的は、大会について知ってもらうことにより、ラグビーを観てみたい、ラグビーをやりたいという関心を高め、スポーツ振興につなげていくことであり、子どもたちをはじめラグビーに関心があまり高くない“ライト層”をターゲットに取組を展開した。

また、ラグビーの迫力や楽しさだけでなく、ラグビー憲章に掲げられたコアバリュー（品位、尊重、規律、情熱、結束）についての理解を広げるため、機運醸成イベント・広報・国際交流など様々な場面で意識的に取り組んだ。

〈 2015年～ 2016年度 〉

2015年度は、ラグビーワールドカップ2015™イングランド大会の開催にあわせ、日本代表の試合のパブリックビューイング等を行った。

2016年度からは、小学校でラグビー元日本代表選手



小学校訪問事業

等が特別授業を行う「小学校訪問事業」を開始したほか、横浜国際総合競技場で初のジャパンラグビートップリーグの試合にあわせ、イベント等を実施しPRを行った。こうしたPR手法はその後継続して実施した。

〈 2017年度 〉

大会2年前となる2017年度は、ラグビーワールドカップ2019開催都市特別サポーターを、林敏之氏、吉田義人氏、鈴木彩香氏に委嘱した。

また、横浜国際総合競技場で初めて開催されたラグビー国際試合「リポビタンDチャレンジカップ2017 日本代表対オーストラリア代表」にあわせ、プロモーションのためのスタンプラリー展開やバナーフラッグの掲出などのシティドレッシング、試合当日のおもてなしイベント、優勝トロフィー「ウェブ・エリス・カップ」の展示などを行った。

そのほか、横浜マラソン2017などの集客の多いイベントにブースを出展し大会のPRを行った。

2018年1月からは大会のチケット販売が始まり、3月には開催都市住民向けの先行販売も行われたため、チケット販売に関する情報を広く周知する活動を行った。



優勝トロフィー「ウェブ・エリス・カップ」と記念撮影



イベントでのラグビー PRブース出展

〈 2018年～ 2019年度 〉

2018年4月から県内のラグビーに関する情報を発信する特設ホームページ「横浜ラグビー情報」を開設。あわせてSNS (Twitter、Facebook、Instagram) も開設し、タイムリーに情報発信を行った。また、SNSのフォロワーを増やすための取組も実施。



特設ホームページ「横浜ラグビー情報」

イベントは、メディアへの露出も狙い、開幕までの100日ごとのカウントダウンの日にあわせて実施した。特に2018年9月から11月までの大会1年前の期間を「重点プロモーション期間」と位置づけ、開幕1年前イベント、パブリックビューイングなどのイベントを行ったほか、「キャノンブレディスローカップ2018」の前後に、大会本番の期間を想定したシティドレッシングや広報など、様々な手法を用いてプロモーションを大規模に展開した。また、決勝の開催都市として、決勝へのカウントダウンも意識した取組も実施した。



開幕500日前イベントで行われた出場チームのジャージなどの展示

イベントでは大会のPRに加え、キックやスローイングなど、ボールに触れる体験型のコンテンツを充実させ、ラグビーの魅力を体感していただける工夫を行った。あわせて、スポンサー企業をはじめとする地元企業等と連携し、ラグビーに関心のない方にも楽しんでもらえるよう、ショッピングモールでのPR実施、工事壁を活用した大型写真の掲出、大会ライセンス商品の販売など、より広

くより効果的にラグビーの魅力を伝えていく取組を広げていった。さらに、地元で活動するラグビーチーム（女子ラグビーチームを含む）と連携し、イベントで選手と交流できる企画等を数多く行い、地元のラグビーに関心を持ってもらう活動を展開した。

大会が近づくと、海外からの観戦客などをおもてなしするとともに、出場チームへの理解を深めるため、イベントで出場国・地域の国歌やアンセムを歌う取組（スクラムユニゾン）を実施。地元小学校での取組にも波及して、メディアでも取り上げられた。さらに、大会期間中には会場周辺で歌詞カードを配布し、両チームのアンセムを歌っておもてなしする文化を広げた。

また、世界7カ国・地域（日本を含む）の子どもたちが参加する『こどもラグビーワールドフェスティバル2019 supported by三菱地所グループ』が横浜国際総合競技場で開催されるなど、大会に向けた国際交流も加速していった。

©JRFU



キャノンブレディスローカップ2018
(2018年10月27日)



鎌倉 長谷寺でのパブリックビューイング
(2019年8月3日)



こどもラグビーワールドフェスティバル2019
supported by 三菱地所グループ
(2019年4月17日～ 22日)

機運醸成イベント

大会を神奈川・横浜から盛り上げていくため、大会の節目に行うカウントダウンイベントや、カウントダウンボードの設置、横浜国際総合競技場で開催される試合にあわせたPR、日本代表戦等のパブリックビューイングなど、県内・市内企業などと連携しながら、機運醸成に取り組んだ

2015年

▶3月2日

開催都市発表会 パブリックビューイング

ラグビーワールドカップリミテッド理事会での開催都市の承認後、全世界に対して開催都市が発表された。これに合わせてパブリックビューイングを実施し、神奈川県知事や横浜市長ら関係者が出席した。

会場：ヨコハマNEWSハーバー
来場者数：約200人

▶10月3日

ラグビーワールドカップ 2015 「サモア代表対日本代表」 パブリックビューイング

ラグビーワールドカップ2015の開催にあわせ、観戦機会を提供し、機運醸成につなげるため、パブリックビューイングを実施した。

会場：ヨコハマNEWSハーバー
来場者数：約200人



2016年

▶9月10日

ジャパンラグビー トップリーグ 「東芝ブレイブルーパス対 キャノンイーグルス」

横浜国際総合競技場で初のラグビー公式戦が開催された。試合開催とあわせて「2019キックオフイベントin横浜」を開催し、ピッチ見学ツアーやラグビー元日本代表選手などのトークショーなどを実施。観客動員数は、トップリーグの単独試合では同シーズン最多を記録した。

会場：横浜国際総合競技場
入場者数：11,223人



2017年

▶2月5日

決勝戦 1000日前イベント

決勝戦1000日前イベントを開催。吉田義人氏、鈴木彩香氏、リーチマイケル氏によるトークショーやラグビー体験を実施した。

会場：マークイズみなとみらい
来場者数：約1,000人



▶4月3日

ラグビーワールドカップ特別仕様
ナンバープレート交付開始
セレモニー

ラグビーワールドカップ特別仕様ナンバープレートの交付が始まること
にあわせ、交付開始セレモニーを開催した。

会 場：横浜港大さん橋 駐車場

主 催：関東運輸局

共 催：神奈川県・横浜市

▶5月10日

ラグビーワールドカップ2019™
プール組分け抽選会
パブリックビューイング

京都迎賓館にて行われた『ラグビーワールドカップ2019™プール組分け
抽選会』のパブリックビューイングを開催した。

会 場：新都市プラザ

来場者数：約1,200人

▶5月20日

スーパーラグビー
「サンウルブズ対シャークス」
パブリックビューイング

会 場：ヨコハマNEWSハーバー

来場者数：約200人

▶5月28日・29日

リッチー・マコウ記念イベント
in 横浜

ニュージーランド代表の主将として
大会連覇に貢献したリッチー・マコウ
氏を横浜に迎え、ラグビークリニック
やトークセッションなど各種イベント
を開催した。

会 場：横浜カントリー・アンド・
アスレティック・クラブ

(ラグビークリニック (5月28日))

横浜国際総合競技場

(トークセッション (5月29日))



会 場：クイーンズスクエア横浜

来場者数：約500人

▶6月10日

リポビタンDチャレンジカップ2017
「日本代表対ルーマニア代表」
パブリックビューイング

▶9月18日 (祝・月)

大会2年前
イベント
in YOKOHAMA

マークイズ みなとみらい1階 グランドギャラリー、グランモール公園に
て、開催都市特別サポーター（林敏之氏、吉田義人氏、鈴木彩香氏）の委
嘱式とトークイベントなどを行った。

トークイベントには大会ドリームサポーターの中嶋悟氏、松木安太郎氏、
ヨーコ ゼッターランド氏、日本代表ヘッドコーチのジェイミー・ジョセフ氏、前
回2015大会で活躍したラグビー選手の立川理道氏が出席。開催都市特別サ
ポーターと共にラグビーワールドカップやラグビー競技の魅力について語った。



▶10月20日

開幕700日前 カウントダウンボード 除幕式

▶10月28日

ジャパンラグビーチャレンジマッチ
2017
「日本代表対世界選抜(world XV)」
パブリックビューイング

▶11月2日

「ラグビーワールドカップ2019™
日本大会 試合日程発表会」
パブリックビューイング

▶11月4日

リポビタンD チャレンジ カップ2017 「日本代表対 オーストラリア 代表」

開幕の700日前を記念し、新横浜駅ペDESTロリアンデッキにカウントダウンボードを設置。設置にあわせ、除幕式を実施した。



会場：赤レンガパーク

来場者数：約50人

会場：ヨコハマNEWSハーバー

来場者数：約150人

横浜国際総合競技場で初のラグビーの国際試合が開催され、この大会に向けてシティドレッシングやマリインタワーのライトアップ、優勝トロフィー「ウェブ・エリス・カップ」の展示、各種広報を展開した。

観客動員数は、国内代表戦では過去最多（当時）を記録した。

会場：横浜国際総合競技場

入場者数：43,621人



©JRFU

この試合とあわせて「横浜ラグビーカーニバル」を開催し、トークショーやラグビーワールドカップ優勝トロフィー「ウェブ・エリス・カップ」の展示などを実施した。イベントで販売された「崎陽軒」のメガシウマイ弁当や「ありあけ」のラグビーハーバーなどは大人気で長蛇の列ができた。



▶11月3日、4日

日豪少年少女ラグビー交流フェスティバル

ラグビー日本代表戦にあわせて、日本とオーストラリアの子どもたちの親善試合をはじめラグビーを通じた交流を行う「日豪少年少女ラグビー交流フェスティバル」を開催し、横浜市内の多くの企業にも協力いただいた。

また、試合を盛り上げるために新横浜駅や競技場周辺にシティドレッシングを施した。



2018年

▶1月28日

開幕600日前
カウントダウンボード 除幕式

開幕600日前イベントとして野毛山動物園で、開催都市特別サポーターの鈴木彩香氏が出席し、関係者とともにカウントダウンボードの除幕式を実施した。



▶3月25日

大会チケット開催都市住民向け
先行抽選販売 開始記念
プロモーションイベント

3月19日から開催都市住民向けにチケット先行抽選販売が開始されたことにあわせ、ラグビー選手 山田章仁氏によるキッズラグビー体験教室、大会ドリームサポーターの松木安太郎氏らによるトークイベントを実施したほか、市庁舎・県庁舎の装飾などを実施した。



▶5月6日

開幕500日前イベント
in YOKOHAMA

ゴールデンウィーク最終日に、みなとみらいのランドマークプラザ1階ガーデンスクエアにて、「開幕500日前イベントinYOKOHAMA」を開催。トークショーやライフフォト、ラグビーワールドカップ2019で横浜国際総合競技場で試合をする国・地域に関連したステージ（アイルランド音楽、ハカ）やユニフォーム展示などを行った。



▶5月23日

開幕500日前イベント& かながわラグビーフェスタ in川崎

川崎でも500日前イベントが開催され、ラグビー元日本代表の廣瀬俊朗氏と大野均氏、DJ KOO from TRF、東芝ブレイブルーパスの選手が出演して、ステージイベントやトークショーが行われた。



▶6月9日

リポビタミンDチャレンジカップ2018 「日本代表対イタリア代表」 パブリックビューイング

これまで、横浜都心臨海部を中心にパブリックビューイングを実施してきたが、対象を市域全体や県域全体に拡大して実施した。

6月9日は八景島シーパラダイスでパブリックビューイングを実施し、これまでラグビーを観戦したことのない人にも、多く楽しんでいただいた。

会 場：横浜・八景島シーパラダイス
来場者数：約1,000人



▶6月16日

リポビタミンDチャレンジカップ2018 「日本代表対イタリア代表」 パブリックビューイング

会 場：三井ショッピングパークららぽーと海老名
来場者数：約300人

▶6月28日

リポビタミンDチャレンジカップ2018 「日本代表対ジョージア代表」 パブリックビューイング

会 場：イオンシネマ港北ニュータウン
来場者数：約1,230人

▶7月7日

スーパーラグビー 「サンウルブズ対ワラタース」 パブリックビューイング

会 場：ヨコハマNEWSハーバー
来場者数：約200人



▶8月16日

横浜駅、中区役所 カウントダウンボード除幕式

9月～11月

開幕1年前 キャンペーン

▶9月20日

ランドマークプラザ
カウントダウンボード除幕式

▶9月20日～11月25日

シティドレッシング

▶9月22日

トップリーグの試合にあわせたPR

▶10月19日～11月2日

横浜マリントワー特別ライティング

▶10月26日

ジャパンラグビーチャレンジマッチ
2018
「日本代表対世界選抜(world XV)」
パブリックビューイング

開幕1年前を迎え、9月20日から決勝1年前の11月2日までの期間において、「キャノン ブレディスローカップ2018」にあわせた大会PRを中心に、『ラグビーワールドカップ2019日本大会1年前キャンペーン』を展開した。



横浜駅・みなとみらい地区・新横浜駅・関内駅周辺で、街灯バナー フラッグを掲出するほか、桜木町のクロスゲート、横浜駅の横浜高島屋に、大型の懸垂幕を掲出した。



(左) 新横浜駅構内のフラッグ (右) 競技場周辺のフラッグ

試合会場のニッパツ三ツ沢球技場をはじめ横浜市内7カ所の人が多く集まる場所において、オリジナルグッズ2019個を配布した。

横浜マリントワーの特別ライトアップとして、大会公式マスコットのレンジー（赤と白）、大会の5つのコアバリューを青（規律）、緑（品位）、紫（尊重）、赤（情熱）、黄色（結束）の5色で表現した。

会場：ラゾーナ川崎
来場者数：約800人



開幕1年前PRのため配布したオリジナルビニールバッグ

▶10月27日

**キャノン
ブレディスローカップ
2018
「ニュージーランド対オーストラリア」**

ニュージーランド代表とオーストラリア代表の間で定期的に行われているテストマッチ「ブレディスローカップ」をラグビーワールドカップ決勝の地である横浜で初めて開催した。当時、史上最多(※)となる観客が観戦に訪れ、ラグビーワールドカップ2019開催への機運も高まった。

会場：横浜国際総合競技場

入場者数：46,143人

※現在の集計方法を取り始めた2004年以降、公益財団法人日本ラグビーフットボール協会主催試合として最多入場記録



©JRFU

【当日の関連イベント】

横浜ラグビーフェスタ

試合にあわせ、新横浜駅周辺及び競技場周辺で、ステージやラグビー体験などのイベントを実施した。



**オージービーフで元気！
日新豪少年少女ラグビー交流
フェスティバル**

ニュージーランド、オーストラリア両国から12歳以下の子どもたちを招き、県内及び市内のラグビースクールの子どものたちとの交流試合などを実施した。



▶11月1日～

**特製年賀はがき
(広告付き年賀はがき)**

神奈川・横浜の特製年賀はがきを作成。

販売枚数：34万枚



▶11月2日

**JR関内駅南口前（横浜市庁舎前）
カウントダウンボード除幕式**

▶11月2日～11月4日
みなとみらい
RUGBY TOWN

決戦1年前にあわせ、大会組織委員会が行う、過去のラグビーワールドカップのメダルやバッジ、優勝トロフィー「ウェブ・エリス・カップ」を展示する巡回型ミュージアム「ポップアップミュージアム」と連動させた街めぐりのイベント「みなとみらいRugby Town」を、ラグビーワールドカップ2019™ オフィシャルスポンサーの三菱地所（株）とともに開催した。イベントでは、高さ15mのラグビーポール設置やタックルマシンの体験などを実施し、約10,000人が来場した。



▶11月3日
みなとみらい
RUGBY STADIUM
2018
「日本代表 対
ニュージーランド代表」
パブリックビューイング；
ファンゾーンテストイベント

ファンゾーンのテストイベントとして、ファンゾーンの会場である「臨港パーク」において、「日本代表対ニュージーランド代表」のパブリックビューイングやステージイベント、ラグビーアクティビティ、神奈川・横浜の地元グルメをテーマにしたケータリングなど、1年後を想定したコンテンツを実施した。

会場：臨港パーク（横浜市西区みなとみらい1）

来場者数：約5,000人



▶11月24日
横浜国際総合競技場ライトアップ

イングランドで開催された「リポビタンDツアー 2018日本代表対ロシア代表」にあわせ、日本代表を応援するため、試合当日、横浜国際総合競技場において、赤と白の照明パターンのライトアップを実施した。

▶11月24日～2019年3月1日
巡回PR（開幕300日前）

横浜市内イトーヨーカドー8店舗の協力により、開幕300日前にあたる、11月24日から、各店舗での巡回PRを実施した。

2019年

▶2月16日

スーパーラグビー
「サンウルブズ対シャークス」
パブリックビューイング

▶3月

開幕200日前イベント in 海老名、横浜、相模原

会場：ヨコハマNEWSハーバー

来場者数：約150人

開幕200日前を記念し、海老名、横浜、相模原でイベントを開催した。

3月3日 海老名

三井ショッピングパークららぽーと海老名で開催。

3月4日 横浜

「女性のためのラグビー講座」を開催。

3月10日 相模原

小田急相模大野駅南北自由通路アトリウム広場で開催。



3月10日 相模原

▶6月

開幕100日前イベント in 東京、横浜、川崎

開幕100日前を記念して、大会組織委員会や横浜市、川崎市がそれぞれイベントを開催した。

6月12日 東京・丸の内

(大会組織委員会)

多数の大会関係者が出席し、開催自治体協議会会長として林市長も出席した。



6月15日 横浜



6月18日 川崎

▶7月25日

決勝100日前イベント

決勝の地である新横浜公園で神奈川県知事、横浜市副市長、開催都市特別サポーターの林敏之氏、吉田義人氏、鈴木彩香氏、大会公式マスコット「レンジー」が出席してカウントダウンイベントを開催し、お祝いのラグビーボール型花火を打ち上げた。



▶8月3日
 パシフィックネーションズカップ2019
 「日本代表対トンガ代表」
 パブリックビューイング

会 場：金沢公会堂 来場者数：約250人
 会 場：鎌倉・長谷寺 来場者数：約360人

▶8月20日
開幕1か月前イベント

新横浜駅にて記念イベントを開催した。元ラグビー日本代表の伊藤剛臣氏が「1日駅長」に就任したほか、JR東海、JR東日本、横浜市営地下鉄それぞれの新横浜駅長が出席して大会をPRした。

▶8月31日
トロフィーツアー

開幕を1か月前に控え、最後の機運醸成の取組として、優勝トロフィー「ウェブ・エリス・カップ」を展示する「トロフィーツアー」が実施され、鎌倉大仏殿高德院、そして横浜開港資料館にて公開された。



▶9月6日(金)
 リポビタンDチャレンジカップ2019
 「日本代表対南アフリカ代表」
 パブリックビューイング

会 場：戸塚区民文化ホール 来場者数：約300人
 会 場：あつぎのえいがかんkiki 来場者数：約150人

カウントダウンボード設置一覧

節目	設置場所	除幕式
開幕700日前	新横浜駅ペDESTリアンデッキ	2017年10月20日
開幕600日前	野毛山動物園	2018年1月28日
開幕500日前※	横浜国際国際総合競技場 屋外大型ビジョン	2018年5月8日
開幕400日前	中区役所本館	2018年8月16日
	横浜駅みなみ西口 相鉄口交番前	
開幕365日前	ランドマークプラザ2階 風の灯台前	2018年9月20日
決勝戦1年前	関内駅南口前(市庁舎前)	2018年11月2日
開幕200日前	海老名駅構内	2019年4月21日

※ このほか、横浜市18区の区庁舎・スポーツセンターに卓上カウントダウンボードを設置



広報

概要

広報には、二つの役割があった。まず一つは、ラグビーワールドカップ2019の神奈川・横浜開催及びラグビー競技の魅力を広く県民・市民に伝えることであり、開催に向けて様々な媒体を活用して機運醸成に取り組んだ。さらにラグビー憲章に掲げられたコアバリュー「品位」、「尊重」、「規律」、「情熱」、「結束」についても知っていただけるよう具体例を挙げて広報に取り組んだ。

もう一つが、国内外から試合観戦に訪れる方に向けて競技場へのアクセスなど大会に関する情報や、ファンゾーン及び県内周遊を促進する観光情報を発信することであり、ホームページやSNSを活用してタイムリーな情報発信を行った。

紙媒体

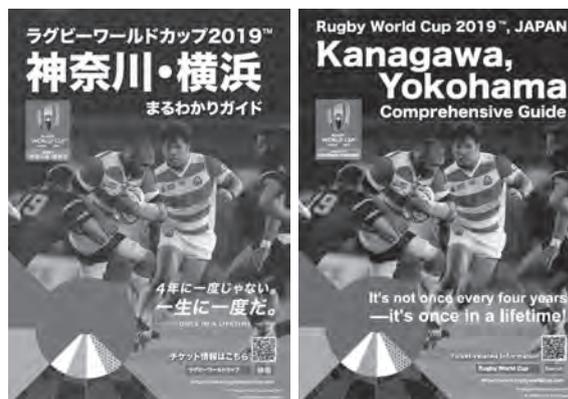
大会前から県・市広報紙に連載を掲載したほか、港北ニュータウンやみなとみらいで配布されているフリーペーパーや情報紙と連携して、大会に関する情報のほか、ファンゾーンや観光情報を掲載した。

また、「ラグビーワールドカップ2019™神奈川・横浜まるわかりガイド」を日本語版と英語版で発行した。

〈主な掲載先〉

広報よこはま（2018年4月から隔月でコラム掲載）、県のたより、SPORTSよこはま（3号連続で特集）、横浜ラグビー Walker（6～9月号で1ページ特集）、こどもタウンニュース、英国ラグビー雑誌「Rugby World」付録誌、Garden秋号（港北ニュータウンで発行されるフリーペーパー）、Mirea（みなとみらいで配付されるフリーペーパー）、ヨコハマよみうり（2018年から毎号でコラム掲載）、ぱど・ハマカラ・リビング新聞等の情報紙、JAPAN TIMES、TIME OUT TOKYO等

ラグビーワールドカップ2019™ 神奈川・横浜まるわかりガイド(日本語版、英語版)



神奈川・横浜で行われる試合解説、ラグビーのルール説明、ファンゾーンのPR、観光情報、神奈川・横浜とラグビーの歴史等を掲載。約11万部発行

広報よこはま



県のたより



こどもタウンニュース



横浜市内の小学校に配布している「こどもタウンニュース」と連携してラグビーワールドカップ2019の情報を掲載した号を作成し、配布した

SPORTS よこはま



スポーツに関心のある人に向けてラグビーの魅力や見どころ、ラグビースクールの紹介などを特集で掲載

横浜ラグビー Walker



横浜市と(株)KADOKAWAで締結している連携協定の取組の一環として発行した特集号で、ラグビーのルール、横浜観光、フォトスポットの情報など、ラグビーを通して横浜を紹介。3万部発行

英国ラグビー雑誌
「Rugby World」付録誌



英国のラグビー雑誌9月号の付録に横浜観光情報を掲載し、ホームページでも同じ情報を展開した。国内で配布されるそのほかの観光案内媒体にも横浜PRを掲載



交通媒体

多くの人々が利用する駅・電車などの交通機関に広告を掲出した。特に新横浜駅、みなとみらい駅、桜木町駅を中心に大型広告を掲出し、大会の盛り上げを図った。

〈横浜市営地下鉄、JR、横浜高速鉄道〉

アドトレイン



車両全ての広告スペースを使った「広告ジャック」

ホームドア広告・規定看板



みなとみらい駅



横浜駅 グランボード広告



関内駅

キャノンラグビーウォールギャラリー



〈市営バス〉

フルラッピングバス 2017年9月～2019年12月 横浜市内1台



パートラッピングバス 2019年9月～2019年11月 横浜市内6台



〈横浜シーサイドライン〉



横浜シーサイドラインの7駅に横浜で



プール戦を行う7チームの写真を掲載
横浜シーサイドライン
新杉田駅の大型
バナー

〈湘南モノレール〉



駅名表示板とモノレールのヘッドマークに大会マ
スコットのレンジーを使用



大船駅構内の大型
広告

■ ホームページ、SNSの活用

ホームページやSNSを活用することで国内外向け
てタイムリーな情報発信を行った。

また、魅力的なイベントや光景がSNSで拡散されるこ
とで神奈川・横浜の魅力発信につながった。

〈ホームページ〉

特設ホームページ「横浜ラグビー情報」を2018年
4月に立ち上げ、大会前にはラグビーのルールに関する
コラムや県内のラグビー情報、横浜でプール戦を行う
チーム紹介などの情報を掲載した。

大会期間中は、ラグビーワールドカップ2019やファン

ゾーンの情報を掲載した。また、海外から訪れる観戦客
のために英語ページを制作したほか、県や市の観光情
報へのリンクを張ることで、県内・市内の観光地への周
遊の促進に取り組んだ。

当該ホームページの当初の目標は、ページ閲覧数を表
すPV（ページビュー）について、25万PVを達成するこ
とであったが、大会期間中は、1日平均3万PV、累計で
265万PVに達し、多くの方に閲覧していただいた。特に
台風やそれに伴う大会イベントの開催状況については、
タイムリーな情報発信で、円滑な大会運営に寄与した。

大会開催情報やファンゾーン情報のほかに、ラグビー
のルールや出場するチーム紹介などラグビー全般につ
いての記事へのアクセスが多く、ラグビー競技の普及に
貢献した。

「横浜ラグビー情報」



ファンゾーンページ



〈 SNS 〉

大会前から県内のラグビーに関する様々な情報を発信。大会期間中は、街の盛り上がりの様子のほか、競技場へのアクセスや早期入場のお願いなどの情報を日本語と英語の2か国語で発信した。大会前は1,400人だったフォロワーが期間中には2,400人になり、多くの人に情報を届けることができた。

ツイッター (2018年4月開設)



フェイスブック (2018年6月開設)



インスタグラム (2018年7月開設)



■ PR動画

2015年イングランド大会の映像を中心としたPR動画を制作し、県内市内の商業施設サイネージなどで放映した。You Tubeでも公開し、多くの人に視聴いただいた。



大会PR動画



毎週日曜18時から放映の「カナフルTV」(tvk)に黒岩知事が出演し、ラグビーの魅力を語った。(2019年10月)

■ PRグッズ・記念品

大会をPRするため、オリジナルグッズを作成し、各種イベント来場者や関係者などに配布した。



折り紙(左)、卓上カレンダー(右上)、キーリング(右下) うちわ



クリアファイル3種類 ネクタイ、スカーフ、ラグビー発祥記念絵皿、バッジ

ブース出展

目的

ラグビーワールドカップ2019に向けた機運醸成を図るとともに、ラグビーへの関心が少ない県民・市民の方にも本大会やラグビー競技への興味を持ってもらうために、県内・市内で開催される各種イベントにブース出展を行った。

内容

ブース出展では、チケット購入ガイドや観戦ガイド等のパンフレット、ラグビーイベントのチラシを配布するとともに、大会や出場国・地域に関するパネル展示を行った。出展内容のなかでも、トライフォトやちびっこキッカーなどの体験コーナーは、家族連れに特に人気が高く、ラグビーを知って楽しんでもらう良い機会となった。

「秋じゃないけど収穫祭」(2018年5月26日、27日)



「ベトナムフェスタ」(2018年9月8日)



「救急フェア」(2018年9月9日)



「元町アイランド応援デー」
(2018年9月14日)



「スポーツレクリエーションフェスティバル」
(2018年10月8日)



市内18区及び県内市町村との連携

概要

神奈川県内市町村や横浜市内18区では、地域に根差した大会への盛り上げやラグビー普及への取組を実施した。



大会PR展示一式

内容

横浜市内各区に対して市ラグビーワールドカップ2019推進課から予算配付を行い、各区でもラグビー教室などのイベント実施や啓発物品制作などの機運醸成に取り組んだ。各区がイベントを実施する際は、パネルや出場国・地域のジャージなど大会PR展示品の貸出を行った。

さらに、開幕500日前を契機に、各区役所及びスポーツセンターへ卓上カウントダウンボードを設置したほか、開幕100日前からは各区での巡回展示も実施した。このほか、希望する区では、大会期間中にパブリックビューイングを開催した。

また、県内市町村でも、庁舎などでの展示実施に加え、ラグビー体験やステージイベントを行うラグビーフェスタなど、節目ごとのカウントダウンイベント、パブリックビューイングを実施し、機運醸成に取り組んだ。



パブリックビューイングの様子(金沢区)



親子ラグビー体験教室(港南区)



ラグビー体験コーナー(瀬谷区)



ラゾーナ川崎での展示の様子(川崎市)



吉田義人氏 講演会(金沢区)



開幕200日前イベント in 相模原(相模原市)



ラグビーパーク in 横須賀(横須賀市)



ラグビーフェスタ in FUJISAWA(藤沢市)

ラグビー普及

内 容

大会に向けた盛り上げだけではなく、競技の普及、ひいてはスポーツ振興につなげるため、ラグビー元日本代表選手等の小学校訪問事業や親子ラグビー教室などの取組を実施した。

〈小学校訪問事業〉

神奈川県・横浜市では、ラグビーワールドカップ2019開催を契機に、さらなるラグビー競技の振興と大会前、大会後の機運醸成に向けた取組として、横浜市立小学校にラグビー元日本代表選手などを招き、ラグビーを通じて直接子どもたちと触れ合う事業を神奈川県ラグビーフットボール協会協力のもと、2016年度から実施してきた。現在まで毎年度、市内各区1校計18校を対象に実施している。

訪問事業では、ラグビー元日本代表選手の講演と、元選手と県協会スタッフによるタグラグビーの実技指導を行った。これまでに協力していただいた講師には今泉清氏、川合レオ氏、北川俊澄氏、齊藤祐也市、相馬朋和氏、廣瀬俊朗氏、三宅敬氏、吉田義人氏らがいる。



タグラグビー授業の様子

■タグラグビーとは、タックルの代わりに「タグ」を取ることで防御する、身体的接触が少ない誰でも安全に楽しむことができるボールゲーム。

■ミニラグビーとは、小学生を対象につくられた競技で、グラウンドの大きさ、プレーヤーの人数、ボールのサイズ等が年齢別に段階的に制定されているボールゲーム。

〈親子ラグビー教室〉

ラグビーワールドカップ2019に向けて大会の盛り上げを図るため、「ラグビーワールドカップ2019開催都市特別サポーター（神奈川・横浜）」に就任していただいたラグビー元日本代表選手 吉田義人氏とともに「親子ラグビー教室」を2017年から年5回実施してきた。

対象は小学生以下の子どもと保護者で1回50組が参加し、横浜国際総合競技場に隣接するしんよこフットボールパークでラグビーを楽しんだ。



指導をする吉田義人氏

〈タグラグビー指導者講習会〉

小学校の体育の授業でタグラグビーを実施する場合に必要なのは指導者である。そこでタグラグビー指導に興味のある横浜市内の小学校教諭を対象にした指導講習会を2019年7月～8月に実施した。



タグラグビー指導者講習会の様子

〈リポビタン ヒーローズカップ 決勝大会〉

小学生の全国規模のミニラグビー大会「第11回 リポビタン ヒーローズカップ決勝大会」が初めて横浜で開催された。

日時：2019年2月23日、24日

場所：横浜国際総合競技場

主催：NPO 法人ヒーローズ

試合形式：地区大会で約250チームから勝ち上がってきた小学校5、6年生（U-12）の16の強豪チーム（約500名）で優勝を争う。県内からは横浜ラグビースクール、相模原ラグビースクールが出場した。



全国から勝ち上がった小学生が大人顔負けの激闘を繰り広げた

〈三菱地所(株)ラグビーボール寄贈 AIG 損害保険(株)よりタグラグビーキット寄贈〉

2019年4月、三菱地所(株)から横浜市に本大会の公式レプリカボール1,100個が寄贈され、全ての横浜市立小学校342校に各校3個ずつ配布された。

また、AIG 損害保険(株)から神奈川県に対してタグラグビーキットが寄贈され、2018年4月にプレゼンターとしてラグビー元ニュージーランド代表キャプテン リッチー・マコウ氏が県庁を訪れた。



三菱地所株式会社からのラグビーボールの寄贈式



黒岩知事とリッチー・マコウ氏

〈青少年へのラグビーの取組 「TRY RUG BEE プロジェクト」〉

(株)NTTドコモ、スポーツビジネスのコンサルティング企業である4th and Goal LLCとの共同で実施したプロジェクトで、日本を代表するラグビー選手 山田章仁氏が2019年7月、市内の小学校を訪問し、タグラグビー用具の寄贈と特別授業を実施した。

〈東京ガス大森グラウンド 「ラグビー体験&観戦バスツアー」〉

東京ガス(株)神奈川支社の協力により、2015年度から、東京ガスラグビー部員による未体験者へのラグビー体験教室及び東京ガスラグビー部の所属するトップイーストリーグの試合の観戦を行った。



観戦バスツアーの様子



〈子ども招待事業〉

2019年9月21日、22日の試合（プール戦）観戦に神奈川県内のジュニアラグビー選手771人を招待した。このほか、10月12日に県内及び福島県のジュニアラグビー選手の試合観戦招待や交流会の実施を予定していたが、台風19号の影響で中止となった。



国際交流

内 容

日本の子どもたちと世界各国の子どもたちが言葉の壁を越えてラグビーの試合や文化交流をしたり、歌詞カードを見ながら出場国や地域のアンセムを歌ったりと、ラグビーワールドカップ2019開催をきっかけに、神奈川県内や横浜市では様々な国際交流の場が生まれた。

〈日豪少年少女ラグビー交流フェスティバル〉

2017年11月3日～4日、「リポビタンDチャレンジカップ2017 日本代表対オーストラリア代表」の開催にあわせ、ラグビーを通じて日本とオーストラリアの国際交流及びラグビーの普及と次世代の育成に貢献することを目的に「日豪少年少女ラグビー交流フェスティバル」を開催し、交流試合や文化交流などを実施した。
会 場：横浜カントリー&アスレティッククラブ、日産フィールド小机



日本代表対オーストラリア代表戦にあわせて、子どもたちの交流試合が行われた

〈日新豪少年少女ラグビー交流フェスティバル〉

2018年10月26日～29日、「キャノン ブレディスローカップ2018 ニュージーランド代表 対 オーストラリア代表」の開催にあわせ、ラグビーを通じて日本とニュージーランド、オーストラリアの国際交流及びラグビーの普及と次世代の育成に貢献することを目的に「日新豪少年少女ラグビー交流フェスティバル」を開催し、交流試合やラグビークリニックのほか、文化交流などを実施した。
会 場：横浜カントリー&アスレティッククラブ、横浜国際総合競技場



3か国の子どもの国際交流戦



横浜国際総合競技場の前でも記念写真

〈 こどもラグビーワールドフェスティバル2019
supported by 三菱地所グループ 〉

2019年4月17日～22日に日本を含む世界7カ国・地域の子どもたちがラグビーの試合などを通じた国際交流を行う、「こどもラグビーワールドフェスティバル2019 supported by 三菱地所グループ」を開催した。

開催期間中、日本を含む7カ国・地域の12歳以下の子どもたちが、横浜市内各所でラグビーの練習や文化交流などを行ったほか、横浜国際総合競技場においてラグビーの交流試合も実施した。



参加した7カ国・地域の子どもたちで記念撮影

〈 ニュージーランド代表の
ハンセンヘッドコーチ来日 〉

2019年9月12日、ニュージーランド代表・オールブラックスのヘッドコーチであるスティーブ・ハンセン氏が来日し、中華街の山下町公園にあるラグビー発祥の地の記念碑や中華街を訪れたのち、神奈川県知事を表敬訪問した。



黒岩知事を表敬訪問



ラグビーの交流試合の様子



文化交流の様子



横浜中華街にて

〈 学校給食 〉

ラグビーワールドカップ2019出場国の食文化を取り入れた給食の提供（2019年9、10月）と、献立の説明を加えた「ぱくぱくだよりラグビー号外」を作成配布した。2019年9月13日には、四季の森小学校にキャノンイーグルスから神奈川・横浜にゆかりのある山路泰生選手を含む4選手が来校し、児童と給食をとりながら、食の大切さを直接伝え、給食の後は児童と一緒にラグビー交流を行った。



市内小学校の児童全員に配布



山路泰生選手と子どもたち



9月はロシア（日本代表の初戦対戦国）のメニューを提供

〈 ソシエテ・ジェネラル ラグビー・スピリット・フェスティバル 〉

2019年10月23日～27日の日程でラグビーワールドカップ2019™ワールドワイドパートナーであるソシエテ・ジェネラル（仏メガバンク）が、「ソシエテ・ジェネラル ラグビー・スピリット・フェスティバル」を開催し、9カ国・地域の子どもたち約100名が横浜へ招待された。これは、ラグビー交流や準決勝観戦の機会を提供する取組で、これにあわせて、横浜市立仲尾台中学校の生徒との文化交流も行われた。

なお、海外から来日した子どもたちは、横浜市上郷・森の家に宿泊した。



招待された9カ国・地域の子どもたちと横浜市立仲尾台中学校の生徒が記念撮影



文化交流の様子

CHAPTER

4

神奈川・横浜の 魅力を世界へ

大会開催期間中、ファンゾーンは国内外からの多くの観戦客で賑わい、街は大会の装飾でラグビー一色に彩られ、特別な祝祭感に包まれた。県内の観光地にも外国人旅行者が訪れ、海外メディアも取材に来訪し、世界に神奈川・横浜の魅力が発信された。



ファンゾーン

概要

ファンゾーンは、大会組織委員会との「ラグビーワールドカップ2019開催基本契約」により開催都市に設置が義務付けられた公式イベントスペースのことで、大型スクリーンでのパブリックビューイングで、気軽に飲食しながら試合が楽しめるほか、ラグビー体験など様々なコンテンツを無料で楽しむことができるものである。

神奈川県・横浜市は、国内外から訪れる来場者にラグビーワールドカップ2019™の興奮と感動を共有していただくとともに、神奈川・横浜をPRする絶好の機会として、『ラグビーワールドカップ2019™ ファンゾーン in 神奈川・横浜』の開催に取り組んだ。

神奈川・横浜らしさを感じる海と芝生のロケーションの「臨港パーク（横浜市西区みなとみらい1）」を会場とし、9月20日の大会開幕から11月2日の決勝までのうち、15日間の開催を予定し、約15万人の来場者数を目標とした。

また、来場者の利便性向上のため、桜木町駅からシャトルバスを運行した。

コンセプト

神奈川・横浜は、開港以来、積極的に海外文化を受け入れ発展してきた歴史を持つ。日本・神奈川・横浜の文化を体感できるステージイベントや、美味しい飲食物の提供（ケータリング）などを実施し、ラグビーワールドカップの興奮と、ファンゾーンという新たなスポーツを楽しむ文化を外国人と日本人が共に体感する非日常的な空間を創出するため、コンセプトを「日本・神奈川・横浜と海外が出会う場所」とした。

スケジュール

- 2017年 7月 大会組織委員会
ファンゾーンガイドライン
第1版提示
- 2017年 10月 ファンゾーン運営計画書 Ver.1
(候補地選定など)
作成業務委託契約締結
- 2018年 4月 臨港パークへの設置 決定
(大会組織委員会 承認)
- 2018年 7月 ファンゾーン運営計画書 Ver.2
及びFinal (開催計画、実施概要)
作成業務委託契約締結
- 2018年 11月 臨港パークでテストイベント実施
- 2019年 5月 ファンゾーン運営委託事業者決定

実績

ファンゾーン開催日は国内外からの多くの来場者で賑わった。台風の影響で10月12日、13日の2日間が開催中止となったが、開催した13日間の総来場者数は、目標を超える15万3,700人となった。

さらに、1日の平均来場者数は約12,000人と、12開催都市16ファンゾーンで最多となった。

日本戦や決勝トーナメントの試合は大変人気で日本戦3試合と決勝開催日は入場制限を行った。

また、日本人と外国人が、ビールを片手に、共に記念撮影や、会話を楽しむ姿が見られ、ファンゾーンはラグビーを通して様々な国の人が出会い、交流する場となった。

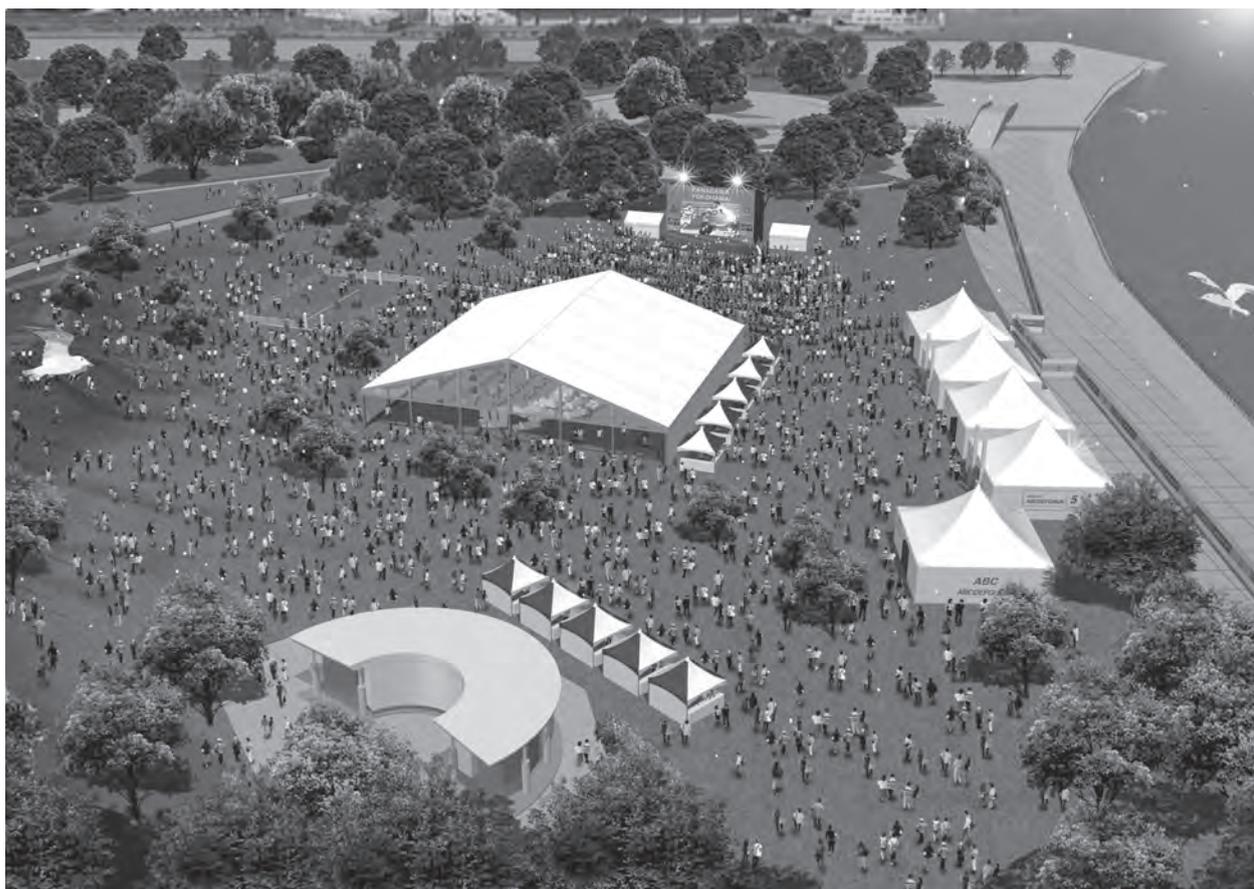
開催期間中のケータリングの総売上金額は1億3,391万円に上った。

ラグビーワールドカップ2019™ ファンゾーン in 神奈川・横浜

- コンセプト：「日本・神奈川・横浜と海外が出会う場所」
- 会場：臨港パーク（横浜市西区みなとみらい1）
- 開催日：9月20日～11月2日の土日、9月20日、11月1日の13日間
(台風の影響で中止の10月12日、13日を除く)
- コンテンツ：パブリックビューイング、ステージイベント、ケータリング、地元PRブース
ラグビーアクティビティ、コマーシャルパートナーブース

ファンゾーン開催日ごとの入場者数

No.	開催日	入場者数	主な試合	No.	開催日	入場者数	主な試合
1	9月20日(金)	8,800人	開幕 日本対ロシア	-	10月13日(日)		台風のため中止
2	9月21日(土)	16,800人	神奈川・横浜開催 ニュージーランド対南アフリカ	8	10月19日(土)	6,900人	準々決勝 イングランド対オーストラリア 準々決勝 ニュージーランド対アイルランド
3	9月22日(日)	13,500人	神奈川・横浜開催 アイルランド対スコットランド	9	10月20日(日)	16,700人	準々決勝 ウェールズ対フランス 準々決勝 日本対南アフリカ
4	9月28日(土)	14,400人	日本対アイルランド	10	10月26日(土)	13,700人	準決勝 神奈川・横浜開催 イングランド対ニュージーランド
5	9月29日(日)	6,800人	オーストラリア対ウェールズ	11	10月27日(日)	11,100人	準決勝 神奈川・横浜開催 ウェールズ対南アフリカ
6	10月5日(土)	16,000人	日本対サモア	12	11月1日(金)	4,800人	3位決定戦 ニュージーランド対ウェールズ
7	10月6日(日)	6,600人	ニュージーランド対ナミビア	13	11月2日(土)	17,600人	決勝 神奈川・横浜開催 イングランド対南アフリカ
-	10月12日(土)		台風のため中止		合計		153,700人



ファンゾーン全景 (計画図)

会場計画

神奈川・横浜を象徴するような海に面した開放的なロケーションである臨港パークにおいて、12開催都市で最大面積（4万㎡超）となるファンゾーンを開催した。

会場の中心には、12開催都市のファンゾーンで最大級となる380インチの大型スクリーンのほか、イベントステージや観客用大型テントを設置し、入退場ゲートや会場を囲むフェンスを含め、大会組織委員会のガイドラインに基づく統一デザインを施し、ラグビーワールドカップ2019の雰囲気を創出した。

そのほか、仮設トイレ、救護所、喫煙スペースなどの設備を需要想定に基づき設置。特に、外国人の通信環境確保のため、臨港パークに常設のWi-Fiに加え、新たに仮設のWi-Fi設備も設置した。

ファンゾーンが始まると、初日から想定以上のお客様が来場し、観戦エリアが手狭になったため、アクティビティエリアを移動させ、開催4日目（9月28日）から大型スクリーンを見られるエリアを拡大した（移動前と移動後は右ページの会場配置図参照）。

このように、臨機応変に対応したことで、より多くの方にパブリックビューイングやステージイベントを楽しんでいただくことができた。

会場運営

〈 警備 〉

ファンゾーンの安全確保のため、試合が行われる競技場と同等レベルの厳格な警備を実施した。

会場を高さ1.8mのフェンスで囲んだほか、会場内外に約60名の警備スタッフを効果的に配置し、入退場ゲートでは手荷物検査と金属探知器によるボディチェックを実施した。

また、神奈川県警察からもファンゾーンに警察官を派遣していただき、警備を含めた運営スタッフと連携して安全確保に協力していただいた。

〈 ボランティア 〉

公式ボランティアを、ファンゾーン内及び最寄り駅（横浜駅・桜木町駅・みなとみらい駅）からファンゾーンへの動線上に配置した。

ファンゾーンにおいては、会場内及び入退場ゲートにおける案内誘導、混雑時における動線確保の補助、フォトスポットなどでの写真撮影によるおもてなし、ラグビーアクティビティの待機列整理、アンセムの歌詞カードの配布などその活動は多岐にわたった。

横浜駅、桜木町駅及びみなとみらい駅には、案内デスクを設置し、ファンゾーンや競技場への行き方を案内するとともに、各駅からファンゾーンへの動線上では、各所にプラカードを持った案内誘導ボランティアを配置し、ファンゾーンや駅へ来場者を誘導した。



桜木町駅前案内

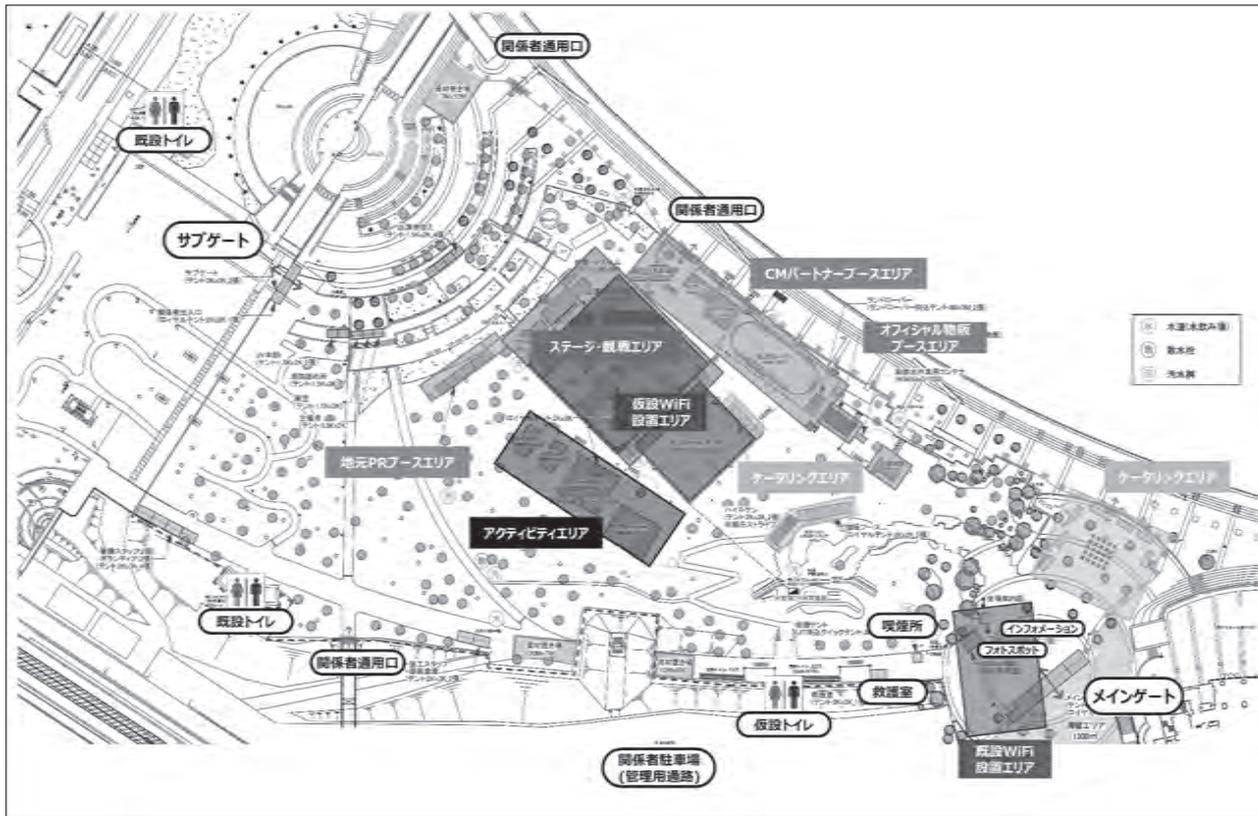


会場で待機列の整理



フォトスポットで記念撮影

開催初日（9月20日）から開催3日目（9月22日）までの会場配置図



開催日4日目（9月28日）から最終日（11月2日）までの会場配置図（アクティビティエリア移動後）





フォトフレームを使って記念写真を撮影



閉場時にはハイタッチでお見送り



円陣を組むボランティア



ボランティアと大会公式マスコット「レンジー」で記念撮影

コンテンツ

ファンゾーンのコンセプトである「日本・神奈川・横浜と海外が会う場所」に基づき、海外からの観光客をメインターゲットとし、様々なコンテンツを実施した。

各コンテンツの概要と実施日の状況は次の通り。

〈パブリックビューイング〉

パブリックビューイング用に380インチ（縦4.8m×横8.4m）の大型スクリーンを設置し、開催中は全国各地の大会試合映像を放映した。

ファンゾーン開催日に、各日1～3試合、計25試合を放送した。

試合の解説には、ラグビー元日本代表選手やジャパンラグビートップリーグの選手を招き、盛り上がりにご協力いただいた。



ビール片手に観戦エリアで試合を楽しむ



離れていてもよく見える380インチの大型スクリーン

〈ステージイベント〉

大型スクリーンに併設したステージで、様々なステージイベントを開催した。

その内容は、日本・神奈川・横浜の文化、出場国・地域の文化を体感し、それによってお互いの文化を理解し、交流できるプログラムを用意した。各国の言語を理解できなくても楽しめるステージを意識し、特に和太鼓、神輿、忍者ショー、ハカ、アイルランド音楽、大会公式マスコット「レンジー」と歌舞伎の連獅子共演などは反響が大きかった。

また、ステージイベントや会場内の案内、試合前の解説などを日本語と英語で行い、分かりやすかったと外国人来場者から好評を得た。



迫力の和太鼓パフォーマンス（多数回演奏）



神輿パフォーマンス。日本人も外国人も一緒に神輿を担いで練り歩く（11月2日）



外国人に人気の小田原の忍者ショー（9月28日、10月5日）



ラグビーでもおなじみ、ニュージーランドの伝統芸能「ハカ」（10月19日）



アイルランド音楽（9月22日、9月28日、10月26日）



レンジーと歌舞伎の共演（10月20日、11月2日）

ステージイベント・パブリックビューイングのタイムテーブル

	9月20日	9月21日	9月22日	9月28日	9月29日	10月5日	10月6日	10月12日	10月13日
11:30									1115-1145 TSUZUKI CHEERDAN
12:00									1200-1215 解説 NEC
12:30		1230-1300 NPO法人横浜 都筑太鼓		1230-1300 風流忍香	1230-1300 ナショナルダンス カンパニーウォールズ	1230-1300 泉源士芸能保存会	1230-1300 市立戸塚 高校吹奏楽部	1230-1300 内藤希花	1215-1355 ナミビア
13:00		1330-1345 解説 三菱重工	1320-1350 内藤希花	1330-1345 解説 日野自動車	1315-1345 日体大太鼓 パフォーマンス	1315-1345 風流忍香	1330-1345 解説 パナソニック	1330-1345 解説 三菱重工	1315-1345 ナミビア
13:30									1315-1345 ナミビア
14:00		1345-1534 オーストラリア 対 フィジー (札幌)	1400-1415 解説 TKM	1345-1536 アルゼンチン 対 トンガ (花園)	1400-1415 解説 サントリー	1400-1415 解説 サントリー	1345-1547 ニュージーランド 対 ナミビア (東京)	1345-1547 ニュージーランド 対 ナミビア (東京)	1345-1547 ニュージーランド 対 ナミビア (東京)
14:30			1415-1614 イタリヤ 対 ナミビア (花園)		1415-1617 ジョージア 対 ウルグアイ (熊谷)	1415-1610 オーストラリア 対 ウルグアイ (大分)		1345-1547 ニュージーランド 対 ナミビア (東京)	1345-1547 ニュージーランド 対 ナミビア (東京)
15:00									1345-1547 ニュージーランド 対 ナミビア (東京)
15:30		1535-1555 NPO法人横浜 都筑太鼓		1536-1545 風流忍香					1345-1547 ニュージーランド 対 ナミビア (東京)
16:00		1600-1615 解説 NEC	1615-1630 内藤希花	1545-1615 解説 伊藤剛臣 内藤希花	1617-1630 ナショナルダンス カンパニーウォールズ	1610-1640 風流忍香	1547-1615 市立戸塚 高校吹奏楽部	1530-1600 津軽三味線 舞臺	1530-1600 津軽三味線 舞臺
16:30			1630-1645 解説 パナソニック		1630-1645 解説 サントリー	1645-1700 解説 NEC		1620-1655 金澤市立 吹奏楽部	1620-1655 金澤市立 吹奏楽部
17:00		1615-1805 フランス 対 アルゼンチン (東京)		1615-1821 【日本代表戦】 日本 対 アイルランド (静岡)				1620-1655 金澤市立 吹奏楽部	1620-1655 金澤市立 吹奏楽部
17:30	1715-1730 観劇リ		1645-1851 【横浜開催】 アイルランド 対 スコットランド		1645-1845 オーストラリア 対 ウェールズ (東京)	1700-1914 イングランド 対 アルゼンチン (東京)	1645-1845 フランス 対 トンガ (熊本)	1700-1715 解説 三菱重工	1700-1715 解説 三菱重工
18:00								1715-1855 【横浜開催】 イングランド 対 フランス	1715-1855 【横浜開催】 イングランド 対 フランス
18:30				1621-1830 内藤希花					1715-1855 【横浜開催】 イングランド 対 フランス
19:00	1830-1915 オープニング セレモニー 横浜百姫隊 川合レオ/林敏之 鈴木彩香	1830-1845 解説 リコー	1851-1900 よさこいダンスチーム Funny	1830-1845 解説 クボタ			1845-1920 JAZZ SQUARE-Tea	1900-1915 内藤希花	1900-1915 内藤希花
19:30	1915-1945 解説 川合レオ/林敏之 鈴木彩香	1845-2035 【横浜開催】 ニュージーランド 対 南アフリカ	1900-1915 解説 キヤノン		1845-2039 南アフリカ 対 ナミビア (豊田)	1914-1930 解説 NTTコム 吉田善人		1930-1945 解説 パナソニック	1930-1945 解説 パナソニック
20:00									1930-1945 解説 パナソニック
20:30	1945-2144 【日本代表戦】 日本 対 ロシア (豊田)	2035-2120 JAZZ Carillon de Vent	1915-2116 イングランド 対 トンガ (札幌)		2040-2120 JAZZ Birds of a feather	1930-2135 【日本代表戦】 日本 対 サモア (豊田)		1945-2125 アイルランド 対 サモア (福岡)	1945-2125 【横浜開催】 【日本代表戦】 日本 対 スコットランド
21:00									1945-2125 【横浜開催】 【日本代表戦】 日本 対 スコットランド
21:30			2116-2150 上大岡7Brothers			2135-2150 JAZZ 国大			1945-2125 【横浜開催】 【日本代表戦】 日本 対 スコットランド
22:00									1945-2125 【横浜開催】 【日本代表戦】 日本 対 スコットランド

台風のため中止

※「対戦カード(会場)」が記載されているものは、大型スクリーンによるパブリックビューイング

	10月19日	10月20日	10月26日	10月27日	11月1日	11月2日
18:00						
18:30	1215-1245 大和南高校 ダンスドリル部	1230-1300 杉豊太鼓	1230-1300 日本舞踊協会 (東団日本舞踊)	1230-1300 神奈川県太鼓連合 (相模藩主太鼓)		1245-1315 和楽舞バンド
19:00	1300-1330 和楽舞バンド					
19:30		1340-1410 日本舞踊協会 (歌舞伎)	1330-1410 原音音楽隊	1330-1400 Dolphin stars		1330-1400 神奈川県太鼓連合 (海老名東村太鼓)
19:40	1400-1430 大宮根夢太鼓 どっこい鼓					1415-1445 和楽舞バンド
19:50	1430-1500 桐蔭学園 和太鼓部		1440-1510 日本舞踊協会 (東団日本舞踊)	1430-1500 鶴見邦楽連盟		
20:00	1500-1545 港北区神楽会 有志連合 + 翠輝子と獅子巻	1500-1530 日本舞踊協会 (歌舞伎)	1520-1550 都塚区郷土 芸能保存連合会	1530-1600 中央林間一輪車 クラブ フルスター		1500-1530 神奈川県太鼓連合 (鼓隊)
20:10	1545-1615 解説 三重重工	1545-1615 解説 キヤノン	1555-1625 内藤希花	1600-1625 都筑チア団	1605-1630 横浜百姫隊	1545-1615 日本舞踊協会 (歌舞伎)
20:30	1615-1810 【準々決勝】 イングランド 対 オーストラリア (大分)	1615-1815 【準々決勝】 ウェールズ 対 フランス (大分)	1630-1700 準決 解説 NEC	1630-1700 神奈川県太鼓連合 (栗野観光和本鼓)	1630-1700 神奈川県太鼓連合 (打鼓音)	1625-1700 みこしコラボレーション
20:40	1810-1840 nga hau e whe (八木)	1815-1840 白A	1700-1910 【横浜開催】 【準決勝】 イングランド 対 ニュージーランド	1725- 県知事ご挨拶	1705- スクラムユニゾン	1700-1730 かながな スペシャルイベント
20:50	1845-1915 解説 リコー	1845-1915 解説 クボタ	1910-1920 JAZZ indigo YOKOHAMA	1730-1800 準決 解説 日野/日テレゲスト	1720-1800 3位決 解説 神崎之/上野水香 村田匠/ 笠原コーポワード	1730-1800 決勝 解説 パナソニック 松本安太郎/今泉清
21:00	1915-2118 【準々決勝】 ニュージーランド 対 アイルランド (東京)	1915-2125 【準々決勝】 日本 対 南アフリカ (東京)		1800-1955 【横浜開催】 【準決勝】 ウェールズ 対 南アフリカ	1800-1952 【3位決定戦】 ニュージーランド 対 ウェールズ (東京)	1800-2015 【横浜開催】 【決勝】 イングランド 対 南アフリカ
21:30	2120-2150 JAZZ 上大岡7Brothers	2125-2150 JAZZ 市大		1955-2020 JAZZ ベース&ヴォーカル DUO Voice Me Bass T	1952-2020 JAZZ Banana pancake trail	2015-2100 クロージング セレモニー 消防音楽隊 他
22:00						
22:30						

〈 ケータリング 〉

「神奈川・横浜の老舗・名店」「神奈川・横浜の地産地消」「大会出場国の料理」の3テーマに該当する出店者を公募し、物販テントとキッチンカーの2パターンが出店した。

食品衛生法の関係により、調理行為がキッチンカーのみに限定されたこと、会場が広く、出店エリアを分散させる必要があること、出店が長時間にわたるなど課題も多かったが、13日間で計34店舗が出店した。

中でもフィッシュ&チップスを販売した店は連日大人気で長い行列ができ、スコットランドのフィッシュ&チップスチャンピオンの店は、特に人気だった。

また、ラグビーファンはビールを大量に消費することから、大型テント内及び物販エリアにハイネケンバーを設置したほか、他店舗でも生ビールや缶ビールを販売することで、期間中に売切れることはなかった。

各店舗とも回を重ねるごとに工夫を凝らし、これまでに出品した催事イベント中、最高の売り上げを記録した店もあった。

〔 売上総額：1億3,391万円
ビール消費量：14万6,431本（350ml缶換算） 〕



崎陽軒 物販テントでシウマイを販売



ありあけ 物販テントで「ラグビーハーバー」を販売



大人気だったフィッシュ&チップスの提供店



ちゃんこジャパン キッチンカーでちゃんこを提供



ラグビー観戦のお供にはハイネケンのビール



ビールを提供するハイネケンバーはいつも大賑わい

ケータリング出店事業者一覧

	出店名	販売品目
神奈川・横浜の老舗、名店	ありあけ	洋菓子「横濱ハーバー」、日本代表ユニフォームをデザインした特別商品など
	泉平	寿司（のり巻き、いなり）
	梅や	もも肉から揚げ、焼鳥、梅やソーセージ、骨付きもも
	小田原かまぼこ 丸う田代	小田原かまぼこ、さつまあげなど
	勝烈庵・馬車道十番館	かつれつ弁当
	ガトーよこはま	よこはまチーズケーキ、チーズプリン、ミニパウンドケーキ
	崎陽軒	シウマイ弁当、おつまみ、横濱サブレ～金ごま～
	牛鍋 荒井屋	牛すき弁当
	七福 上大岡店	スルメイカの丸焼き、三崎マグロのカルビ焼き
	富貴包子楼	しゅうまい、餃子、チャーハンなど
	ボンバドウル	手作りパン、惣菜など
	もとまちユニオン	惣菜、おつまみ、ペットボトル飲料、ビール（ハイネケン）
	横浜ガストロノミ協議会	地元の野菜や魚、昆布を使ってラグビーボール型に練り上げた「クネル料理」、焼き菓子盛り合わせ
	横浜中華街 発展会協同組合	横濱中華街弁当、中華菓子、袋入り菓子
ラグビーダイナー セブンオウス	駅弁、惣菜	
神奈川・横浜の地産、地消	イタリアンダイニング カリーナ	ナポリタン&ハマポークのローストセット、THE 横浜サバサンド、ハートのポップオーバーサンドウィッチなど
	神奈川のクレープ屋さん	クレープ各種
	高座豚手造りハム	ミックスグリル、フランクフルト、豚ステーキ
	地元鶏のプレミアムとり天	濱地どりのとり天、かながわ鶏のとり天、地鶏のとり天井、鶏カレー、湘南和牛の牛カツ、湘南和牛の牛丼など
	たまや	清川ポークを使った豚バラ串、タコス、豚しゃぶカップサラダ、地酒、ハイボールなど
	大どこんじょうホルモン	横浜農場小松菜カレー、ミーゴレン、ナシゴレン、BBQ チキン、鳥串し、春巻き、揚げバナナ、インドネシアラーメン
	ちゃんこジャパン	ちゃんこ
	ハワイアンフードトラック H&H	ポーク、シュリンプ、アイス
	ビストロトニー	ケバブ、揚げ物類、ラムステーキ、ピタバーガー
	横濱金沢ブリュワリー ラフシオンナナ	フランクフルト、ホットドッグ、卵焼き、弁当など
	横浜市中心卸売市場本場	フィッシュ&チップス、地魚フライ、アヒージョ、サバまん
	横濱ワイナリー（横浜 PR ブース）	ビール（ハイネケン）、ワイン各種、おつまみ
	横浜若蔵	豚丼、串焼き、から揚げ
	レストランなんどき牧場	メンチカツ、コロケ、エビフライ、アジフライ、から揚げなど
大会出場国の料理	コルポデラストレーガ	パニーニ、ボルケタ、チキン
	シーフード・フロム・スコットランド ザ・ベイ フィッシュ&チップス	フィッシュ&チップスなど
	フィッシュアンドチップスマリン	フィッシュ&チップス、シュリンプ&チップス、チキン&チップスなど
	ポテトステーション	フィッシュ&チップス、フィッシュサンド、フィッシュロール、ロングフライ、ジャンボターキー、アイス
ー	ハイネケンバー	ビール

〈 地元PRブース 〉

神奈川・横浜の魅力発信、シティプロモーションを目的に市内・県内から様々な団体がブース出店を行った。忍者体験、手裏剣投げ体験、折り紙体験、県内の蔵元の日本酒が試飲できるコーナーなど、日本文化の体験型、参加型のコーナーは外国人の人気を呼んだ。



観光案内・物産販売（かながわ屋）



地酒試飲（東京国税局）



手裏剣体験（小田原市）



東京2020大会のPRブース

〈 ラグビーアクティビティ 〉

2種類のエア遊具、ラグビーの一連の動きを体験できるアスリートチャレンジ、ラグビーボールと触れあえるラグビーパークを用意し、子どもから大人までラグビーの楽しさを体験いただいた。

アクティビティエリアは、入場者の増加に伴う観戦エリア拡大のために当初設置された場所から一部移動した。特に子どもたちに人気だったラグビーパークは当初の予定よりも広いエリアに移動したため、結果的に多くの体験希望者を受け入れることができ、大好評だった。

なお、アクティビティエリアの設置・運営にあたっては、神奈川県ラグビーフットボール協会にご協力いただいた。

また、パブリックビューイングの解説で招いたジャパンラグビートップリーグの選手にもアクティビティエリアを訪れていただき、来場者と交流していただいた。

◆ラグビーショットガンタッチ

スポーツ番組でおなじみのショットガンタッチがラグビーに！落ちてくるボールをキャッチしてダイビングトライ！



ラグビーショットガンタッチ ボールに向かってダイブ

◆アスリートチャレンジ

5つのプレーにチャレンジして、モニターに表示される計測結果で、事前にラグビーのトップ選手に計測してもらった記録に挑戦！



アスリートチャレンジ ボールを持って、ポールをかわしながら素早く走る



アスリートチャレンジ 最後はトライ！



アスリートチャレンジ 挑戦後は結果を確認

◆VS RUGBY

綱引きのラグビー版！巨大なボールを挟んで背中合わせに綱で繋がれた二人がラグビーボールを持って、お互いの目の前のHポールを目指してトライ！どっちがトライできる！？



VS RUGBY トライを目指して前へ

◆ラグビーパーク

自由に遊べる空間でラグビーボールなどを使って「投げる」、「蹴る」、「トライ」を体験。



ラグビーパーク ボールを投げたり、蹴ったり、ぶつかったり

〈 商業パートナーブース 〉

大会公式スポンサー各社がその魅力をアピールする出展エリアには多くの来場者が足を止めた。

ランドローバーの試乗体験コーナーでは、急傾斜を登って降りるスリルあふれる体験に長い行列ができた。全国のファンゾーンの中で、ランドローバー社の試乗体験ができたのは横浜のファンゾーンのみだった。



ランドローバー試乗体験は大人気だった



リボビタミンDのサンプルを配布 (大正製薬)



記念撮影とプリントサービスを実施 (キヤノン)



顔認証ゲームや骨幹測定を実施 (NEC)

広報活動等

大会前にはファンゾーンの認知度の低さが懸念され、広報誌や交通広告、ホームページ（横浜ラグビー情報）やSNS、町内会の掲示板や英語版のホームページなどを活用して情報発信に努めた。

ファンゾーン開催初日前日の9月19日には、報道各社を集めたメディアツアーで、ラグビー元日本代表の廣瀬俊朗氏らをゲストに招き、ファンゾーンの魅力についてプレゼンを行った。その様子はテレビやその他媒体で広く紹介された。



メディアツアーでファンゾーンの魅力をPR(9月19日)

開催後もロケーションの良さから連日、国内外から多数のメディアが取材に訪れ、神奈川・横浜が世界に大きく発信された。また、来場者により会場内の様子がSNSで好意的に発信されることも多く、情報が拡散して、多くの人に横浜のファンゾーンの存在を知っていただくことができた。

【主な報道】

- ・NHK「ニュースウォッチ9」「首都圏ネットワーク」
 - ・日本テレビ「バゲット」「news every.」「Going! Sports&News」
 - 「シューイチ」「ZIP!」「スッキリ」
 - ・フジテレビ「めざましテレビ」
 - ・TBS「サンデー・ジャポン」
- など。その他、新聞・雑誌等多数掲載

このほか、ファンゾーンについて、問合せが多数想定されることから、市のコールセンターとは別に、専用のコールセンターを設置した。対応言語は日本語・英語とした。

コールセンターの履行日及び履行時間

	開設期間	受付時間
開催前	9月17日～9月19日	10:00～18:00
開催期間中	9月20日～11月2日	ファンゾーン開催日 10:00～20:00
		ファンゾーン非開催日 10:00～18:00

大会を振り返って

15日間開催で約15万人の来場を目標としていたが、台風の影響で13日間の開催となったにもかかわらず、延べ15万3,700人が来場した。1日の平均来場者数は約12,000人で、12開催都市16ファンゾーンで最多となった。

日本では馴染みの薄かったファンゾーンの準備は未知数の部分もあったが、多くのお客様に来場していただき、会場内では日本人と外国人が記念撮影をしたり、一緒にビールを飲んだり、会話する姿も見受けられ、ラグビーを通して様々な国の人が交流する場を提供する当初の目的を果たすことができた。

屋外での開催には天候の心配から危惧した部分もあり、実際に台風の影響で2日間が開催中止となったものの、神奈川・横浜らしい場所で開催したことで、神奈川・横浜の魅力を広く世界に発信することができ、ファンゾーンは大成功であった。

ファンゾーン
スナップショット





シティドレッシング

概要

街全体で大会を盛り上げると同時に、ラグビーワールドカップ2019に染まった神奈川・横浜の街を世界中にPRするため、競技場周辺やラストマイル上、市庁舎・県庁舎周辺など観戦者をはじめ多くの人の目に触れる場所に、バナーフラッグの掲出などの都市装飾を行った。

また、街全体を華やかに彩る屋外広告物によって大会を盛り上げるため、屋外広告物の大きさや場所の規制について、「広告物活用地区制度」を活用し一部緩和。これにより歩行者用デッキを装飾するフラッグや大会のシンボルとなる大型モニュメントの掲出が可能となった。

〈新横浜・小机・北新横浜駅周辺〉

観戦者の方に駅を降りた瞬間からラグビーワールドカップ2019の華やかな雰囲気の中、会場まで向かっていただき、大会の特別な高揚感を感じていただくおもてなしと誘導を目的として、新横浜駅・小机駅・北新横浜駅からスタジアムへの動線上や競技場周辺を大型懸垂幕や壁面装飾、街灯バナーなどで装飾した。



新横浜駅構内の装飾

新横浜・小机・北新横浜駅周辺のシティドレッシング実施場所





新横浜駅ペDESTリアンデッキ階段装飾



小机駅構内の大型看板



新横浜駅ペDESTリアンデッキ上スイングバナー等装飾



小机駅の階段壁面装飾



新横浜駅交通広場のデジタルサイネージ



市営地下鉄新横浜駅改札の柱装飾



北新横浜駅周辺の地上電源機器装飾



競技場へ続く西ゲート橋のスイングバナー



デザインマンホール

〈横浜都心臨海部〉

横浜の街全体での賑わい創出とおもてなし、ファンゾーンへの誘導を目的に、みなとみらい21地区を大型懸垂幕や街灯バナーなどで装飾した。また、横浜の代表的なみなとみらいの街並みがSNSで世界中に拡

散されることによるシティプロモーションを視野に、大型モニュメント『Big Try』を桜木町駅前広場に設置した。

そのほか、横浜駅にある工事仮囲いへの大型装飾や関内・日本大通り周辺にも街灯バナーなどでの装飾を実施し、横浜を訪れる国内外の方に横浜の魅力を発信した。

横浜都心臨海部のシティドレッシング実施場所



◆横浜駅



FOOD&TIMES ISETAN YOKOHAMA



横浜駅中央西口駅前広場整備工事の仮囲い装飾

◆桜木町・みなとみらい



大型モニュメント「Big Try」



クロスゲート
大型懸垂幕



動く歩道階段装飾



動く歩道バナー
フラッグ装飾



クイーンモールのフォトスポット



コレットマールのフォトスポット



ランドマークプラザの懸垂幕
ラグビーボールの装飾は三菱地所(株)による



桜木町駅前のバナーフラッグ

◆ 関内、日本大通り



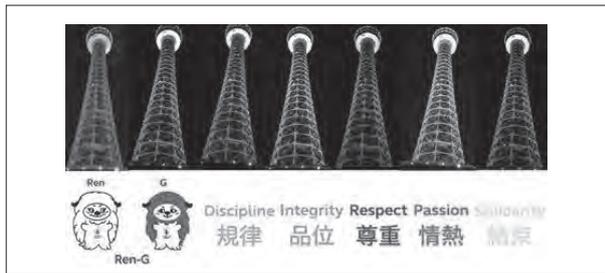
市庁舎前カウンタダウンボード



(上・下) 県庁舎の装飾や階段装飾



市庁舎の装飾



横浜マリンタワー特別ライトアップ



関内の街灯バナー



横浜マリンタワー
1階のキャノン
ウォールギャラ
リー



日本大通りの街灯バナー

大さん橋ホールの
フォトスポット



〈県内各所〉

神奈川県内各所で、街の賑わい創出を目的に様々な装飾を行った。

◆小田原



小田原駅前のキャノンウォールギャラリー



小田原城とバナー

◆大船



大船駅の大型パネル



オーストラリアのジャージを身にまとった小田原の北条早雲像



小田急線小田原駅

◆海老名



海老名駅のキャノンウォールギャラリー

試合開催日のイベント

概要

横浜国際総合競技場での試合開催日に、最寄り駅である新横浜駅前、小机駅前で試合観戦に来られた方々に楽しんでいただくため、おもてなしイベントを実施した。

内容

〈横浜ラグビーフェスタ2019〉

試合開始前に新横浜駅北口西広場で、国内外から訪れる観戦客をおもてなしするためのイベントを実施した。

◆開催日時と来場者数

開催日時		来場者数
9月21日	11:00～試合開始	約8,000人
9月22日	11:00～試合開始	約7,500人
10月26日	11:00～試合開始	約20,000人
10月27日	11:00～試合開始	約20,000人
11月2日	11:00～試合開始	約20,000人
5日間の合計		約75,500人

※10月12日、13日は台風のため中止

◆内容

- ・ステージイベント
横浜音祭りと連携したミニライブ、
出場国・地域のアンセムの歌唱
- ・体験ブース
日本文化体験（剣道、書道）
- ・ラグビー縁日
- ・横浜市PRブース
パンフ類配布、重ね押しポストカード作成体験
- ・その他
給水所、手荷物預かり、救護所などを設置



イベント全景



出場国・地域のアンセムを来場者みんなで合唱



ミニライブも行われた



外国人に人気だった剣道体験

〈こづくえマルシェ〉

試合開始前に小机駅周辺特設会場で国内外から訪れる観戦客や区民など、たくさんの人が集まることのできる場としてマルシェ（市場）を開催。地元野菜の物販、キッチンカーでの飲食の提供、フォトスポットなどでお客様をもてなした。

◆開催日時と来場者数

開催日時		来場者数
9月21日	10:00～15:00	約900人
9月22日	10:00～14:00	約800人
10月26日	10:00～14:00	約1,000人
10月27日	10:00～15:00	約1,200人
4日間の合計		約3,900人

※10月12日、13日は台風のため中止

◆内容

地元野菜物販エリア、キッチンカーエリア、フォトスポット



こづくえマルシェのキッチンカー



こづくえマルシェの物販店

〈大会期間中のパブリックビューイング実績〉

大会期間中、競技場以外で、大勢の人と一緒に試合観戦を楽しめる場所として、県内・市内の各地でパブリックビューイングを実施した。

日程	会場	対戦カード	参加者数
9月20日	ブランチ横浜南部市場	日本対ロシア	270人
	栄公会堂		142人
	海老名駅駅間芝生広場		1,200人
9月21日	ハルネ小田原うめまる広場	オーストラリア対フィジー	150人
9月22日	金沢区役所会議室	アイルランド対スコットランド	30人
9月28日	金沢区役所会議室	日本対アイルランド	50人
	藤沢市民会館小ホール		465人
9月29日	ハルネ小田原うめまる広場	オーストラリア対ウェールズ	180人
10月5日	港南地区センター	日本対サモア	90人
	小田急ホテルセンチュリー相模大野		1,000人
10月13日	金沢公会堂	日本対スコットランド	596人
	ラゾーナ川崎プラザ		※台風のため中止
10月19日	ハルネ小田原うめまる広場	オーストラリア対イングランド	180人
10月20日	レンブラントホテル厚木	日本対南アフリカ	400人
11月2日	港北公会堂	イングランド対南アフリカ	350人
	ラゾーナ川崎プラザ		2,100人

ホストシティパフォーマンス

概要

各会場の試合開始前の演出の一つとして行われたのがホストシティパフォーマンス。

試合開始110分前を目処に開催都市に与えられた時間は約20分間で、実施の要否、内容、実施回数は開催都市の判断に委ねられた。

神奈川県・横浜市でも国内外から訪れる観戦客へのおもてなしや、神奈川・横浜の魅力を世界へ発信する絶好の機会として、神奈川県・横浜市を発祥とするバトンとマーチングバンドのパフォーマンスを実施した。



バトンとマーチングバンドが合同パフォーマンスを実施

スケジュール

2018年2月 第1回開催都市ヒアリング調査
2018年6月 第2回開催都市ヒアリング調査
2019年2月 第3回開催都市ヒアリング調査
(神奈川県バトン協会及び神奈川県マーチングバンド連盟による合同演技での実施を回答)
2019年4月 実施決定(大会組織委員会承認)
2019年9月 リハーサル実施



演技するバトンチーム

実施

当日は、バトン協会から185名、マーチングバンド連盟から347名が参加して、笑顔溢れるダイナミックなパフォーマンスを披露し、観客から温かい拍手が送られた。

競技場内に出演者控室が用意できなかったことから横浜市立小机小学校、神奈川県立新羽高校に控室として体育館や教室をご提供いただいた。



演奏するマーチングバンド

演奏曲目：「We Will Rock You」、「Hands Across the Sea」、「World In Union」

出演団体：〈神奈川県バトン協会〉 鎌倉女学院中高バトン部、神奈川県立川和高等学校バトントワリング部、横浜市立横浜商業高等学校バトントワリング部、北鎌倉女子学園中学校高等学校バトン部、横浜市立金沢高等学校バトントワリング部、茅ヶ崎バトン、team BAT!、洋光台バトン、バトンチームチェリーズ

〈神奈川県マーチングバンド連盟〉 神奈川県立湘南台高校吹奏楽部、関東学院マーチングバンド、鎌倉女子大学中等・高等部マーチングバンド、横浜市立小机小学校マーチングバンド、横浜市立菊名小学校マーチングバンド、横浜市立太尾小学校マーチングバンド、神奈川県警察音楽隊

街の賑わいと観光振興

概要

神奈川県・横浜市では、それぞれラグビーワールドカップ2019の開催にあわせ、国内外から訪れる観戦客に神奈川・横浜の文化や魅力を知っていただくための様々な取組を行った。

横浜市の取組

〈海外における認知度向上の取組〉

海外における認知度向上に向けた戦略的シティプロモーションと、ターゲットに応じた誘客プロモーションを実施した。

◆海外テレビの活用

2019年9月21日～11月2日にわたり、ユーロニュース（世界157か国）での特集番組やCM放映を行い、約1,541万人が視聴した。また、英国地上波「ITV4」では10月2日～10月11日にわたり、試合放映内でのCM放映を実施し、約374万人が視聴した。



ユーロニュースの動画

◆航空機内や空港ターミナルなど

2019年10月1日～31日に航空機内ビジョンでのCM配信（ブリティッシュ・エアウェイズ、カンタス航空、ANA）したほか、羽田空港国際線ターミナル内広告掲出（9月3日～11月2日）や山手線車内ビジョン（10月14日～11月3日）、渋谷スクランブル交差点サイネージ（10月14日～11月3日）でのCM配信により、大会期間中の訪日客の動線上でのプロモーションを展開した。



羽田空港国際線ターミナル広告

◆訪日観戦客向けプロモーション

2018年11月～2019年11月にかけて、旅行口コミサイト「トリップアドバイザー®」への横浜特集ページの開設と、ターゲティング広告による市内宿泊促進プロモーションを行った。

また、英語ニュースサイトでの情報発信や体験型観光マップの配布とWEB配信（いずれも2018年9月～2019年11月）、英字新聞ラグビー特集（別刷り）への出稿（2019年9月20日、10月23日）により、市内回遊を促すプロモーションを実施した。

さらに、関東圏の開催都市（埼玉県、熊谷市、東京都、神奈川県、横浜市）が連携し、周遊ルートを提案する冊子やウェブサイトを作成し、英国現地やオンライン上でプロモーションを実施した。



案内デスクでの英字新聞の活用

◆海外メディアや旅行会社向けセールス

2018年5月～2019年11月までに13回にわたり英国等での現地セールスを行った。また、2018年から大会期間中にかけて、旅行会社・メディアの招聘、受入や海外メディア向けプレスツアーを実施したほか、大会期間中は、海外メディア向け観光情報等提供デスクの設置（横浜国際総合競技場内及び大会組織委員会併設）、観光プロモーション用素材映像の海外メディアへの提供を行った。



英国での現地セールスの様子

〈昼も夜も滞在を楽しめる魅力づくり〉

観戦を目的に訪れた旅行者が、昼も夜も滞在中を楽しめるよう、文化・観光施設における取組やイベントなどを実施した。

◆横浜美術館での取組

大会開幕にあわせ、企画展開催中の金曜・土曜に開館時間を20時まで延長した。また、2019年9月20日から休館日を除く毎日、21時までライトアップを実施。
【企画展日程】 2019年9月21日～2020年1月13日
【開館時間】 10時～18時（金曜・土曜は～20時まで）
【ライトアップ】 休館日を除く毎日、21時まで



横浜美術館のライトアップ

◆「三溪園和音まつり2019」の開催

国指定名勝庭園・三溪園では、9月20日～11月1日のうち17日間、開園時間を通常の17時までから19時まで延長し、和楽器などの演奏会を開催した。また、日没からは三溪園を代表する「旧燈明寺三重塔」や庭園のライトアップを行い、日本庭園を幻想的な灯りで彩った。

【日程】

2019年9月20日～11月1日のうち17日間

【ライトアップ】 日没後～19時

【夜間来園者数】 約1,600人



重要文化財建造物での和楽器などの演奏

◆横浜能楽堂での取組

大会取材に訪れた海外メディア向けツアーとして、2019年10月30日に能舞台見学と仕舞鑑賞を行い、日本の伝統芸能に触れていただく取組を実施した。



横浜能楽堂での海外メディア向けツアー
仕舞「羽衣」（観世流）梅若 紀彰

◆NIGHT SYNC YOKOHAMA

(創造的イルミネーション)

観戦に国内外から訪れた多くの方に横浜の夜を楽しんでいただくため、美しいイルミネーションと先端技術を活用した都市的スケールの光をシンクロさせる「NIGHT SYNC YOKOHAMA(ナイトシンクヨコハマ)」を実施した。

新港中央広場でのメディアアートや広場と周辺の施設が連携した光と音楽の演出を実施したほか、11月2日、10日に特設ステージで、横浜能楽堂との連携企画として仕舞を披露した。

【開催期間】 2019年11月1日*～12月27日
18時～21時10分

*台風の影響により10月23日より変更

【場所】 新港中央広場を中心とした新港地区



NIGHT SYNC YOKOHAMA



NIGHT SYNC YOKOHAMA×横浜能楽堂

◆文化芸術イベント

「コンパスヨコハマ2019」

ラグビーワールドカップ2019、横浜美術館の企画展の開催に合わせ、横浜美術館前で、夕暮れから夜の時間を中心に、文化芸術イベントを開催

【開催期間】 2019年9月20日～9月29日 ※台風の影響により9月23日は中止

【会場】 横浜美術館前 美術の広場(グランモール公園)
【来場者数】 約26,000人

〈民間事業者などの取組〉

大会期間中に、行政だけでなく民間事業者においても市内消費拡大に向けた様々な取組が行われた。

◆野毛長卓UTAGEプロジェクト

野毛の路地に並べた机で飲食を楽しむイベントが開催された。野毛ならではの日本料理であるくじら、うなぎ、フグなどを提供した。

【主催】 野毛UTAGEプロジェクト実行委員会

【開催日】 2019年9月22日、10月27日

【会場】 野毛仲通り、中央通り

【来場者数】 約2,400人



お酒を飲みながらの国際交流

◆横浜中華街「夜市」

横浜中華街では「夜市」が開催された。市場通りをメイン会場として、ダンスショーやライブパフォーマンスも用意して来場者をおもてなし。一部店舗では通常よりも営業時間を延長した。

【主催】 横浜中華街発展会協同組合

【開催日】 2019年9月21日、22日、10月26日、27日、11月2日 19時～23時

【会場】 横浜中華街、市場通り周辺

【来場者数】 約11,700人

◆吉田町『スランジバー！

(Slainte mhor!) ラグビー スコットランド

BarやPubが立ち並ぶ吉田町の一角にテーブルが設置され、スコットランド伝統のバグパイプやハイランドダンスを楽しみながらスコットランドのウィスキーやジンを楽しむイベントが開催された。

【主催】 吉田町名店街会

【開催日時】 2019年10月13日 15時～22時

【会場】 吉田町野良猫通り

【来場者数】 約1,000人

◆MOTOMACHI MEETS RUGBY

～元町ラグビー応援月間2019～

元町ショッピングストリートでは、ラグビーが身近に感じられる参加型のイベントや、ラグビーワールドカップ2019参加国・地域にちなんだ国際色豊かな様々なイベントを開催した。

【主催】 協同組合元町SS会

【開催期間】 2019年9月7日～10月31日

※元町ラグビー応援月間

【会場】 元町ショッピングストリート

【来場者数】 約10,000人※10月20日のみの人数

◆横浜橋、伊勢佐木町「御神輿イベント」

外国人も参加できる御神輿体験イベントが開催された。合わせてニュージーランド物産展も開かれた。

【主催】 横浜橋通商店街、協同組合伊勢佐木町商店街

【開催日】 2019年10月27日

【会場】 大通り公園、横浜橋商店街、伊勢佐木町商店街

【来場者数】 約8,000人

◆関内「ラグビー観戦イベント」

決勝のパブリックビューイングが開催された。試合時間前には、ラグビー講座やファミリー向けイベントも開催された。

【主催】 関内まちづくり振興会

【開催日】 2019年11月2日

【会場】 関内メディアビジネスセンター内

【来場者数】 約1,000人

◆石川町「石川町音楽祭 GET DOWN」

恒例の「石川町音楽祭 GET DOWN」において、ラグビーファンブースが特別展開され、子供向けラグビーゲームや、アメリカチーム応援のためのアメリカンフードやドリンクの販売、ソウルバンドやアーティストによる演奏などが行われた。

【主催】 石川町音楽祭実行委員会

【開催日】 2019年9月29日

【会場】 ひらがな商店街

【来場者数】 約1,000人

◆一商店街一國運動

市内18商店街で、ラグビーワールドカップ2019の機運を高めるため、大会の参加国又は地域から、商店街が独自に国を決めて応援する「一商店街一國運動」が行われた。一商店街一國運動では、国の特産品の販売、飲食メニューの提供、文化紹介イベントの開催等に取り組んだ。



応援国の特産品をPR (中山商店街協同組合)

◆新横浜ウェルカムモニュメント

ラグビーワールドカップ2019の観戦で新横浜を訪れた人の思い出になるようにと新横浜町内会が新横浜駅前東広場に「新横浜ウェルカムモニュメント」を設置し、9月15日夜にお披露目式が行われた。

モニュメントは、11月2日(決勝)まで展示された。



ウェルカムモニュメント

◆「岡部文明2019展」

～ラグビー精神で愛と平和の象徴を描く～ 開催

2019年9月3日～11月3日に横浜赤レンガ倉庫1号館で、ラグビーの練習中に頸椎脱臼骨折を負いながらも、サーカスで出会ったピエロを描き続けている岡部文明氏による「岡部文明2019展～ラグビー精神で愛と平和の象徴を描く～」が開催された。



画家 岡部文明氏

神奈川県の取組

〈個人向け、法人向けの継続したPR〉

◆神奈川県観光レップの設置 (英国・オーストラリア)

大会を契機に神奈川県魅力をPRするため、ロンドン及びシドニーにおいて、現地情報収集や観光プロモーションを実施するため、観光レップ(Representativeの略)を設置した。

【実施期間】2018年6月～

◆メディアでのPR

(1) メディアへの広告記事掲出

【掲出媒体】

・「Rugby World」、「Rugby World NZ」などのラグビー専門誌や英国旅行雑誌など様々な媒体に県内の観光情報を継続的に掲載

【掲載時期】2018年2月～2019年9月



(2) 京急・JALと連携したラッピング列車運行及びJAL機内誌「SKYWARD」への観光情報掲載

京浜急行電鉄株式会社及び日本航空株式会社と連携し、「行こう!秋の三浦半島」と題し、三浦半島の魅力を詰め込んだラッピング列車を運行するとともにJAL機内誌「SKYWARD」10月号で、三浦半島のPRを実施した。

・ラッピング列車の運行

【運行期間】2019年9月29日～11月3日

【運行路線】京急線全線(大師線は除く)

※都営浅草線・京成線・北総線へも乗り入れ



・JAL機内誌「SKYWARD」への観光情報掲載

【掲載時期】2019年10月(3ページ分)



◆旅行会社向けPR

ラグビーワールドカップ2019™大会公式旅行代理店(Official Travel Agent)の招請(横浜、鎌倉、箱根を周遊)

下記の2社を招請し、観戦券付旅行商品の造成を促した。

【招請者】英国OTA: England rugby travel社

豪州OTA: Gulliver sport travel社

【実施時期】2018年1月



〈 個人向けPR 〉

◆東京都内主要駅からの誘客

(神奈川観光ボランティアガイドの配置)

大会期間中、東京都内主要駅などに、神奈川県観光ボランティアガイドを配置し、外国人観戦客を対象に県内観光地の案内を行うことで、県内への誘客を行った。

【実施場所】 都内主要駅など

【実施期間】 2019年9月20日～11月2日

【延べ案内数】 3,347組



◆神奈川・横浜ファンゾーン等での

かながわ屋及び観光ブースの出展など

神奈川・横浜ファンゾーンにおいて、アンテナショップ「かながわ屋」を出展し、県産品の展示販売を行うとともに、観光ブースを出展し神奈川県内の観光地をPRした。また、横浜市及び（公財）横浜観光コンベンション・ビューローと連携し、東京のファンゾーン及びベニューメディアセンターにおいて観戦客や世界のメディアに対し、PRを行った。

【実施場所】 臨港パーク、東京スポーツスクエア、横浜国際総合競技場

【実施期間】 2019年9月20日～11月2日



◆鉄道事業者と連携した周遊企画を実施

小田急電鉄株式会社、京浜急行電鉄株式会社及び東急電鉄株式会社と連携し、神奈川県や東京都に来訪する観戦客をメインターゲットに、周遊を促進する謎解きスタンプラリーを実施した。

【実施場所】 横浜、小田原・箱根、三浦

【実施期間】 2019年9月19日～2020年1月19日



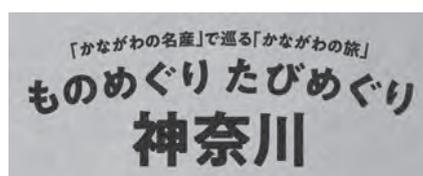
◆東京会場の起点駅での

周遊観光プロモーションイベントの実施

東京会場へ向かう起点駅となる新宿駅で、試合の開催日を含む期間、県の歴史や産業に関わる魅力ある観光資源や、「かながわの名産100選」を中心とした県産品を紹介し、神奈川県における周遊観光の魅力をPRするイベントを実施した。

【実施場所】 新宿駅西口広場イベントコーナー

【実施期間】 2019年10月5日～10月8日



◆関東開催自治体との連携した地方連携事業

【連携先】埼玉県、熊谷市、東京都、横浜市、関東運輸局

【事業内容】関東開催都市周辺の観光パンフレットの制作及び英国観光展への出展などを実施した。



◆チケットホルダー向けWEBページ等の制作

ラグビー強豪国である欧州・豪州をターゲットとした観光PR映像を制作するとともに、ラグビーワールドカップ2019™大会のチケットホルダーを対象とした特設ページを、神奈川県公式観光情報サイト- Tokyo Day Trip -Kanagawa Travel Info- 内に制作し、PRを実施した。

〈文化・観光施設における取組〉

◆神奈川伝統・映像アートウォーク2019

神奈川県庁本庁舎を丸ごと利用し、神奈川県にゆかりのある地域の伝統芸能から、メディアアートなどの現代芸術まで様々な文化を一度に体験できる屋内イベントを実施した。

【日時】2019年10月26日～10月27日

【会場】神奈川県庁本庁舎

【来場者数】約2,500人



寄木細工の展示

◆日本大通り流鏝馬騎射式

神奈川県庁本庁舎前の日本大通りにおいて初めて特設馬上を設置し、弓場練達の射手による勇壮な流鏝馬を披露した。

【日時】2019年10月27日

10時～11時30分／14時～15時30分

【会場】日本大通り（神奈川県庁本庁舎前）

【来場者数】約4,000人



日本大通りを駆け抜ける流鏝馬

◆浮世絵カフェ

ラグビーワールドカップ2019™に向けナイトタイムエコノミーを活性化させるため、ノンバーバル・エンターテインメントレストラン「浮世絵カフェ」を開設した。ファンゾーンのステージイベントにも出演した。

【日時】2019年8月8日～

【会場】神奈川県民ホール6F 英一番館内



「浮世絵カフェ」におけるショー

◆浮世絵アートウィーク2019

神奈川県庁本庁舎敷地内において、神奈川県ゆかりの浮世絵を歩道上に設置したスクリーンに投影したほか、日本大通り全体を提灯や行燈などで彩った。

【日時】2019年10月26日～11月3日

【会場】神奈川県庁本庁舎、日本大通り

【来場者数】約13,000人



浮世絵アートウィーク2019

「花と緑にあふれる環境先進都市」の取組

概要

新横浜駅から競技場までのエリアを、大会開幕にあわせて「花と緑にあふれる環境先進都市」横浜として花と緑で彩り、華やかさや賑わいを演出した。市環境創造局が中心となり、地域など多様な主体と連携し、国内外からの来街者へのおもてなしにつなげた。

〈花と緑による彩り〉

コンテナ花壇（参加20チームイメージ20基、花植え21基、ハンギング付き15基）、レンガ花壇（新設8基、既存8基）、フラワータワー（8基）、ハンギングバスケット（108基）など、様々な彩りの花や緑を、新横浜町内会など地域の協力も得ながら設置した。

また、立体的に装飾することで、華やかさや賑わいを演出した。

チームイメージの花壇については、大陸別に花の種類を変え、ラグビーワールドカップ2019専用の国旗を付け、さらに同じ花が横並びにならないよう配置にもこだわりながら、おもてなしを意識して設置した。

また、競技場入口や周辺など、試合の観戦に訪れた方が最後に目にする箇所まで花の装飾を施し、華やかな雰囲気を演出した。



競技場入口



西ゲート橋

(上から) コンテナ花壇、レンガ花壇、フラワータワー、ハンギングバスケット

〈 地域が主体の緑化 〉

横浜みどりアップ計画の「地域緑のまちづくり事業」*を活用し、新横浜町内会が主体となって、主にFマリノス通りなどを緑化した。壁面緑化の高い視認性を生かし、賑わい演出の起点とした。

また、コンテナ花壇を民有地に設置し、街全体が緑豊かな雰囲気となるよう演出した。

壁面緑化



民有地緑化

※地域緑のまちづくり事業

市民の皆様が主体となって、住宅地や商店街、オフィス街、工場地帯など様々な街で、地域にふさわしい緑を創出する計画をつくり、計画を実現していくための取組を、市との協働で進めていく事業。

〈 レインガーデン 〉

雨水を保水し、植物の生育を助ける「グリーンインフラ」の事例として、一部の花壇で、歩道や車道の雨水を花壇に引き込み、一時的に貯留し、時間をかけて浸透させる花壇（レインガーデン）を、3タイプ合計25箇所、競技場までの動線に設置した。



レインガーデン イメージ図

〈 下水再生水の活用 〉

花と緑への水やりに港北水再生センターの下水再生水を活用し、水循環の形成に寄与した。また、下水再生水を活用していることが分かるよう、散水用の車にマグネットシートを貼りPRした。



散水の様子



マグネットシート (20cm×70cm)

〈 花と緑の維持管理 〉

魅力ある空間を演出するため、エリア内の花壇や植栽帯の花や緑、街路樹などは、質の高い維持管理を行うとともに、大会終了後も継続して、長期的な視点をもって一体的に管理している。



レインガーデン取込口
(上) 歩道側 (下) 車道側

〈 暑さへの対応 〉

近年の猛暑の状況等をふまえ、競技場までの動線の、ケヤキなどの街路樹を適切に管理し、緑陰の形成を進めた。

また、新横浜駅前公園では、国土交通省の実証実験と連携し、緑陰とミストによる暑熱緩和アーチなどを設置した。

競技場では、パナソニック(株)と連携したミスト式冷却機を設置するほか、競技場入口の地面の遮熱性舗装により、照り返しによる暑さを軽減した。

※横浜市とパナソニック株式会社は、2019年6月14日に暑さ対策に関する連携協定を締結している。



(左上から時計回りに) 街路樹で木陰づくり、暑熱緩和アーチ、遮熱性舗装、ミスト式冷却機

〈 デザインマンホール 〉

競技場までの動線の、歩道上の下水道マンホール30か所を、大会公式マスコット「レンジー」デザインのマンホールに交換した。デザインの向きを1枚1枚競技場に向けて設置することで、競技場に足を運ぶまでの高揚感とおもてなしを演出した。

また、2019年8月29日には開催都市特別サポーターの吉田義人氏を招いて設置セレモニーを実施した。



デザインマンホール



イベント時の様子

〈 風力発電で大会実施 〉

2050年までの脱炭素化の実現を掲げる横浜市として、決勝で使用された電力の一部を、グリーン電力証書制度*の仕組みを活用し、横浜市風力発電所ハマウイングのクリーンな電力で賄った。



ハマウイング



グリーン電力証書

※グリーン電力証書制度

風力や太陽光などの自然エネルギーで作ったクリーンな電気が持つ「環境価値」を「証書」化して取引する仕組み。証書を使用することで、特定の期間・場所で使用する電力を、自然エネルギーによる電気を使用したとみなすことができる。

取組内容の発信

エリア内で展開した様々な取組は、一体的なパッケージとして、英訳付きの案内板を6か所設置し、国内外からの来街者に向けて発信した。



花壇内に設置した案内板

滞在環境の向上

概要

ラグビーワールドカップ2019の観戦客に快適な滞在環境を提供し、神奈川県・横浜での滞を楽しんでいただくため、公衆無線LAN (Wi-Fi) の整備や臨時シャトルバスの運行などに取り組んだ。

内容

〈 広告付案内サイン・公衆無線LAN (Wi-Fi) 整備 〉

ラグビーワールドカップ2019及び東京2020オリンピック・パラリンピックの開催に伴い、外国人観光客をはじめ国内外から訪れる多くの来街者が目的地までスムーズに移動できるよう、「広告付案内サイン・公衆無線LAN整備事業」を公民連携事業により実施した。

新横浜駅周辺や横浜都心臨海部の既存の案内サインを本事業の案内サインに更新することにより、デザインを統一し、来街者に分かりやすい案内サインとした。

特に、駅前広場、主要な交差点周辺、観光地点へ重点的に設置し、そのうちWi-Fiは、駅前広場や観光地点を中心に、歩行者の回遊性が向上するように案内サインに内蔵した。

〈 臨時シャトルバス運行 〉

横浜国際総合競技場のある新横浜エリアや、ファンゾーンを開催した臨海部エリアを起点とし、中華街と野毛を降車地とした都心臨海部への片道シャトルバスを運行。

【運行期間】 2019年9月20日～11月2日

【運行数】 合計100便

【乗車人数】 合計2,913人 (定員4,545人)



臨時シャトルバス



地図面



広告面

〈 英語観光マップ配布 〉

鎌倉市等の近隣8市と連携して作成した英語観光マップ「Day trip from Yokohama」を羽田空港国際線ターミナル等で配布した。

【作成部数】 2万部



英語の観光マップ

〈 景観の向上に向けて 〉

新横浜駅と競技場の間にある新横浜駅前公園では、港北土木事務所が、大会期間に合わせて植栽の管理を行い、景観の向上を図った。

また、国土交通省による鳥山川の除草作業を行った。



新横浜駅前公園の植栽管理

〈 新横浜駅周辺環境整備（緑化ポール） 〉

横浜市と新横浜町内会が連携し、新横浜駅から競技場までの歩行者動線をライトアップする環境にやさしい「緑化ポール」を整備した。これにより、観戦客の安全を確保し、秩序維持を図るとともに、公共空間の魅力を向上させた。



歩行者動線に設置した緑化ポール

〈 喫煙ルールの周知・啓発 〉

歩きタバコや路上喫煙、たばこの吸い殻などのポイ捨てを防止し、国内外から訪れる多くの来街者を気持ちよくお迎えするために、喫煙ルールの周知・啓発に取り組んだ。

試合開催日は、競技場の最寄り駅周辺に委託の啓発スタッフを配置し、日英表記のプラカードで喫煙ルールの周知を図った。

あわせて、歩きタバコや路上喫煙を発見した場合は、やめてもらうよう説明し、新横浜駅や競技場の喫煙所を利用するよう案内した。



喫煙マナー啓発のスタッフ

〈 放置自転車対策 〉

競技場周辺の放置自転車対策については、市道路局交通安全・自転車政策課が、試合開催前日及び当日に、放置禁止区域の自転車等の撤去作業を行った。

また、駐輪禁止啓発札の貼り付けや立て看板による周知等の事前対策もあわせて実施した。



放置自転車の撤去作業

CHAPTER

5

レガシー 神奈川・横浜の未来へ

大成功のうちに幕を下ろしたラグビー
ワールドカップ2019™。この感動と興奮
を一過性のものにしないために、本大会
を総括するとともに、本大会が神奈川・
横浜に残したものを確認し、そして未来
へ継承していく。



発祥の地から決勝の地、 そして未来へ

はじめに

ラグビーの試合が日本で初めて行われたのが、ここ横浜と言われている。この日本ラグビー発祥の地で、世界ラグビーの最高峰ラグビーワールドカップ2019の決勝が行われ、成功のうちに幕を下ろした。

この伝統を、そして大会の成果を、神奈川・横浜の未来にレガシーとして遺していかなくてはならない。

日本ラグビー発祥の地 神奈川・横浜

開港以来、横浜には多くの西洋文化が流入し、日本ラグビー発祥の地もここ横浜と言われている。

1866（慶応元）年1月、横浜外国人居留地で横浜に駐屯していたイギリス陸軍の士官や横浜在住のイギリス人が中心となって、横浜フットボールクラブ（Yokohama FootBall Club、現 横浜カントリー & アスレティック・クラブ（以下、YC&AC）が設立された。

1874（明治7）年4月にロンドンで発行された雑誌「ザ・グラフィック」に、「日本のフットボール」として前年（1873年）、横浜で行われた試合の様子が挿絵付きで掲載されていた。

記事には「イングランド対スコットランド・アイルランド連合軍の試合は4時にキックオフされた。試合は引き分けだったが、優劣よりも気合いの入った試合だった（後略）」とあり、挿絵に外国人同士によるラグビーマッチの様子が描かれている。背景には富士山らしき山と試合観戦をする多くの日本人（東洋人）の姿がある。



1874年の「ザ・グラフィック」に掲載された描画
アジア初の国際試合の様子が描かれている。

1A foot ball match at Yokohama, Japan, The Graphic,
1874, 4, 18より 横浜開港資料館蔵

この記事と絵によって、1871（明治4）年にロンドンでイングランドラグビー協会（RFU）が設立されたわずか2年後に、横浜で国際ラグビー試合が開催されていたことが証明された。これは記録に残るアジア初の国際ラグビー試合である。

2015年には英国トゥイッケナム・スタジアムに併設されている権威ある「ラグビー博物館」からも、「横浜フットボールクラブ」はアジア最古のラグビーフットボールクラブであり、世界でも最古のラグビーフットボールクラブの一つとして認定された。

これを受け、神奈川県ラグビーフットボール協会が中心となり、ラグビーワールドカップ2019が開催される直前の2019年9月5日に、『日本のラグビー発祥地 横浜』の碑が建立された。

現在では、トップリーグから大学ラグビー、高校ラグビー、女子ラグビーと幅広く、県内から強豪チームを輩出している。



中華街の関帝廟通りに面した山下町公園において除幕式が行われた（2019年9月5日）

ラグビーワールドカップ 2019の成功

日本、そしてアジア最古のラグビーフットボールクラブが設立されてから153年、世界の頂点を定めるラグビーワールドカップが日本、そしてアジアで初めて開催された。

今大会は、大会全体の観客動員数は170万4,443人に上り、チケット販売率は99.3%と過去最高の販売率を記録、テレビ視聴率は横浜国際総合競技場で行

われた日本対スコットランド（日本テレビ）の瞬間最高視聴率が53.7%を記録、ファンゾーンも全会場の総入場者数が約113万7,000人と大会新記録となるなど、数々の記録を打ち立てた。

試合においても、日本代表の初の決勝トーナメント進出をはじめ、数々の名勝負やドラマが世界中を大いに熱狂させた。

また、試合だけではなく、ラグビーの持つ精神も多くの人々に感動を与えた。決勝トーナメント進出をかけた、10月13日の日本対スコットランド戦では、敗れたスコットランド代表選手が、花道を作り、日本代表選手を拍手で祝福し、続いて日本も相手の健闘をたたえた。

この、試合が終われば敵、味方がなくなる「ノーサイド」の精神をはじめ、競技の持つ精神性はラグビーに関心のなかった人々にも大いに感動を与えた。



敗れたスコットランドが花道を作り、日本代表を称える

一方で、試合以外でも、日本のおもてなしや交流も世界中からの注目を浴びた。

海外チームを迎える各開催都市や公認チームキャンプ地に指定された自治体では、歓迎セレモニーや交流が行われた。

各地の試合会場においても、海外から来た選手やファンを歓迎する雰囲気にもまれ、日本のファンが外国チームのレプリカジャージを着て応援し、対戦国・地域のアンセムと一緒に歌った。

選手たちが、おもてなしへの感謝の意を表し、試合後に「お辞儀」を行う姿は世界中のメディアから注目を集めた。

国際統括団体ワールドラグビー会長のビル・ボーモント氏から「最も偉大なワールドカップとして記憶に残る。日本は開催国として最高だった」と評された。今大会は、観客動員の記録や数々の試合だけではなく、競技場内外で生まれたドラマが世界中に発信され、多くの感動と価値を遺し、成功のうちに幕を下ろした。



選手たちが感謝の意を表し、観戦席に向かって「お辞儀」

決勝の地、そして未来へ

神奈川・横浜は、決勝会場であり、横浜市長が開催都市19自治体の首長で構成される「ラグビーワールドカップ2019開催自治体協議会」の会長を務めるなど、大会成功の重責を果たした。

試合会場である横浜国際総合競技場においては、決勝には同競技場で過去最多の70,103人が観戦に訪れ、神奈川・横浜ファンゾーンの入場者数は、13日で延べ15万3,700人にのぼった。神奈川・横浜の約1,500人のボランティアのおもてなしも高く評価され、横浜の街は大いに賑わい、神奈川・横浜の魅力が世界に大きく発信された。

神奈川県・横浜市では、大会開催が決定した2015年から、行政だけでなく、関係団体や民間事業者と連携して、大会の安全・円滑な運営とともに、神奈川・横浜から大会を大きく盛り上げるために、様々な取組を行い、その結果がこの大会の成功につながった。

大会組織委員会からは、「神奈川県・横浜市の大会運営は、世界トップレベル」と評価された。

この大会のノウハウと、オール神奈川・横浜の結束を後世に遺していかなくてはならない。

また、これまで県・市そして県・市ラグビーフットボール協会は、スクラムを組みラグビーの普及に努めてきた。

このラグビーの盛り上がりを一過性のものとせず、ラグビー競技の普及、そしてスポーツの振興につなげていかなくてはならない。

オール神奈川・横浜の 開催能力とおもてなしを後世につなげる

はじめに

神奈川県・横浜市は、民間事業者をはじめ関係機関と連携し、オール神奈川・横浜で開催準備・機運醸成に取り組み、大会成功に貢献した。

ここでは、神奈川・横浜がワンチームとして遺した大会運営や機運醸成などの実績を紹介し、これをレガシーとして後世につなげていく。

『World Leading』と 評された開催都市運営

本大会の大会運営は、2002FIFAワールドカップにおける運営を土台に、開催都市決定以降、検討を重ねて改良を積み重ねてきた。

テロ対策などをはじめ昨今の社会情勢を踏まえた安全対策や、スマートフォンやウェアラブルカメラなどのICT機器の活用、そのほか様々な改良を加え、情報受伝達などの訓練も行い、大会に臨んだ。

試合開催日は、臨機応変な対応、内外とのスムーズな情報受伝達を行えた結果、雑踏事故や交通事故、テロ事案もなく、無事に大会運営を終えることができた。この運営体制には、ノウハウの継承を目的に、市オリンピック・パラリンピック推進課、市スポーツ振興課からも多数の職員が応援として従事しており、この成功を東京2020大会の開催につなげていく。



開催都市運営本部には翌年の東京2020大会の担当職員も数多く従事

また、2019年10月、大型で非常に強い台風19号が日本列島を直撃、12日のイングランド対フランスの試合は中止、翌日の日本代表の初の決勝トーナメント進出を賭けた、日本中が注目する日本対スコットランドの試合も開催が危ぶまれていた。

競技場や開催都市の職員は試合前日から競技場及び大会運営本部に詰め、当日早朝から競技場内の施設・設備の復旧や清掃、周辺状況や交通機関等の状況などの調査を行い、試合開催に漕ぎつけた。

大会組織委員会からは、こういった開催都市としての大会運営は“World Leading”であると評価された。

こうしたノウハウは、県・市として蓄積し、今後の大規模スポーツイベントに継承していく。

ワンチームの 神奈川・横浜

大会に向けた開催準備・機運醸成は、多くの県内・市内経済団体や交通事業者、医療機関の協力の下、オール神奈川・横浜で行われた。

官民連携組織である、「横浜開催推進委員会」や「ラグビー・オリパラ神奈川応援団」を中心に、盛り上げに向けた協力や、交通輸送・医療救護対策の検討などを進めてきた。両組織は東京2020大会に向けた組織でもあることから、今大会の実績を活かし、引き続き活動が進められていく。

また、神奈川県議会、横浜市会では、「ラグビーワールドカップ2019を成功させる神奈川県議会議員の会」及び「ラグビーワールドカップ2019を成功させる横浜市会議員の会」を設立し、議員、行政一丸となり、大会の成功に取り組んできた。

さらに、県内の民間企業が集まり、ラグビー競技の支援とこれを通じた経済の活性化を目的に、「神奈川ノーサイドプレミアクラブ」が設立されたほか、大会公式スポンサーをはじめ、様々な民間企業に、機運醸成などへ協力をいただいた。

開催都市決定以降、大会の主催者である大会組織委員会とは、役割分担の下、スクラムを組み、大会準備を進めてきた。

2018年4月にラグビーワールドカップ2019組織委員会神奈川・横浜地域支部が設立されてからは、日



「ラグビーワールドカップ2019・東京2020オリンピック・パラリンピック横浜開催推進委員会 ラグビー・オリパラ神奈川応援団 合同総会」(2019年7月11日)

常に情報共有、業務連携を行い準備を進め、試合開催日には、相互に連絡員を派遣し、大会運営における連携も非常にスムーズに進められた。

このように大会の成功には、様々な関係機関の立場を越えた協力があり、まさに「ワンチーム」での成果であった。

ボランティアのおもてなし

神奈川・横浜会場では、約1,500人のボランティアが大会の顔として、競技場周辺及びファンゾーンなどにおける案内誘導やおもてなしで活躍した。

ボランティア参加者の約8割が日常会話ができる英語力があつたことから、海外から訪れる多くの観戦者への案内誘導も非常にスムーズに行うことができた。

また、神奈川・横浜会場のボランティアのホスピタリティは高く評価され、試合終了後に会場周辺やファンゾーンで行われたお見送りのハイタッチは、国内外からの観戦客に喜ばれた。

本大会を通じて、横浜市スポーツボランティアセンターの登録者数の増加だけでなく、何よりもボランティア参加者にやりがいを感じていただけたことが神奈川・横浜のボランティア文化の醸成につながった。



新横浜駅の案内デスクにて、観戦客をご案内



試合終了後にお見送りのハイタッチ

世界唯一の競技場へ

神奈川県・横浜市はこれまでも様々な国際大会を運営してきた実績を持つ。

本大会においてもその能力を発揮し、運営だけでなく、選手が最高の環境下で最高のプレーができるように、横浜国際総合競技場の整備を行った。

ボールが見やすく、4Kや8Kのテレビ中継にも配慮した照明のLED化、ラグビーなどの激しいスポーツの短期間での連戦にも耐えられるハイブリッド芝への張り替えなどを実施し、競技場としてのポテンシャルを向上させた。

また、トイレやスタンド観客席の更新により、観客へのホスピタリティも向上させた。

2020年には同競技場で、東京2020大会の男子サッカー競技の決勝が行われることが決定しており、2002FIFA ワールドカップ決勝とあわせ、世界3大スポーツイベントの決勝が行われる世界唯一の競技場となる。この大会開催実績とあわせ、同競技場のプレゼンスを大きく飛躍させるため、次の大会への準備が既に進められている。



開催期間中、試合会場は競技場内外に大会の装飾が施された

ファンゾーン、 新たな観戦スタイル

神奈川・横浜のファンゾーンは、12開催都市最大面積を誇り、13日間の開催期間中に延べ15万3,700人が来場(うち4日間は来場者多数のため入場規制が行われた)、ケータリングの総売上が1億3,391万円を記録するなど、大盛況のうちに幕を閉じた。

ファンゾーンは入場無料で、大型スクリーンでのパブリックビューイングだけでなく、ステージイベントや飲食、ラグビー体験のアクティビティなどを楽しめる空間として、海外ラグビーファンに定着している。

また、同様に欧米では既に定着している、試合前後に特別な料理やイベントを用意するなどしておもてなしする観戦スタイル「スポーツホスピタリティ」も今大会、本格的に導入され、高額なパッケージ商品が短期間で完売するなど大変好評であった。

ファンゾーンやスポーツホスピタリティという、これまで日本には馴染みの薄かった新たな観戦スタイルの成功は、スポーツが持つ新たな可能性として翌年の東京2020大会へと継承されていくだろう。



大盛況で幕を閉じた神奈川・横浜ファンゾーン



公式ホスピタリティラウンジ(外観)

神奈川・横浜の 魅力を世界へ

開催期間中、横浜都心臨海部や競技場周辺には街灯バナーや横断幕などのシティドレッシングを施し、街はラグビー一色となった。さらに新横浜エリアにおいては、花と緑で賑わいを演出するなど、街には祝祭感が溢れた。

また、横浜都心臨海部では「NIGHT SYNC YOKOHAMA (創造的イルミネーション)」などの開催や、大会にあわせた三溪園や横浜能楽堂での和文化を体験できるイベント、臨時シャトルバスの運行など、神奈川・横浜の魅力を感じていただける取組を行った。

海外からの観光客に快適な滞在環境を提供するため、新横浜駅周辺や横浜都心臨海部の案内サインを更新し、公衆無線LAN (Wi-Fi) の整備などを行った。

また大会期間中は、市内主要ホテルには多くの外国人が宿泊した。対前年比の稼働率は台風の影響を受けたものの、10月については宿泊者のなかで外国人が占める割合が約20%と過去最高水準に達した。宿泊者の国籍は英国、ニュージーランド、アイルランド、オーストラリアなどが多く、ラグビー観戦のために訪れたと考えられる。

横浜駅前にあるグローバルブランドである横浜ベイ



ランドマークプラザの中にも懸垂幕を設置。三菱地所(株)によるラグビーボール装飾も施され、官民一体で大会を盛り上げた

シェラトン ホテル&タワーズによると、宿泊予約や問い合わせは大会1年前から入り始め、大会期間中も試合結果にあわせて予約や問い合わせが入り続けた。前年に比べても宿泊客数が大きく伸びたという。

また、神奈川・横浜での試合開催日はホテルに戻ってからも各料飲施設でビールを注文するお客様が多く、これまでの国際的なスポーツ大会では見られなかったことだった。

また、大会にあわせ、神奈川・横浜では、認知度向上に向けた戦略的な観光プロモーションを行った。海外テレビネットワークの活用、航空機内や空港ターミナルでのプロモーション、ツアーを企画する旅行会社、法人向け、個人旅行者向けとターゲットに応じた誘客活動を行った。

開催期間中は神奈川・横浜に多くのメディアが訪れ、横浜能楽堂などの観光地を訪れるメディアツアーも実施した。

ラグビー強豪国を中心に「決勝の地 横浜」として国内外に広くメディアに取り上げられたことと、大会期間中に外国人観戦客を対象に行ったアンケート調査では、再来訪意向や他人への推奨意向も高いことから「観光地としての横浜」の魅力をさらに発信し続けることで、大会後のさらなる誘客につなげていく。



競技場周辺にも装飾を施した

神奈川・横浜のラグビーの 未来のために

ラグビーの普及の ために

日本初開催となった本大会は、日本にラグビーを広げる大きな機会であるとともに、神奈川・横浜においてラグビーという競技を大きく飛躍させる大きなチャンスであった。

神奈川・横浜はこの機会を生かして、日本ラグビー発祥の地として、またラグビーワールドカップ2019決勝の地として、県・市ラグビーフットボール協会（以下、県・市協会）、神奈川県、横浜市がそれぞれの強みを生かし、連携して競技の普及に取り組んできた。

普及の取組としては、県・市協会と行政が連携し、廣瀬俊朗氏などラグビー元日本代表選手等が小学校の授業でタグラグビーなどを教える小学校訪問事業、ラグビー元日本代表選手で横浜にゆかりのある吉田義人氏による親子ラグビー教室などを行い、競技普及に取り組んだ。



東海大学「丹沢祭」ではラグビー部の学生がラグビーを教える

この競技普及の取組の推進にあたっては、県内唯一のジャパンラグビートップリーグに所属する三菱重工相模原ダイナボアーズ、横浜市戸塚区で活動する女子ラグビーチームYOKOHAMA TKM、東海大学、慶應義塾大学、関東学院大学などの県内の大学、東京ガス(株)をはじめ民間企業など様々な団体にご協力いただいた。

ラグビー教室だけではなく、三菱地所(株)からはラグビーボールを横浜市内の市立小学校全校に各3個合計1,100個、(株)NTTドコモと4th and Goal LLCと共同で横浜市内の市立小学校18校へタグラグビー用具一式、AIG損害保険(株)からタグラグビーキットをそれぞれ寄贈いただくなど、普及に向けた環境も整った。

また、さらなる普及に向けて、県・市協会と行政が連

携し、小学校教諭向けタグラグビー指導者講習会を実施するなど、ラグビーを指導できる人材の育成も進めた。

さらに、ミニラグビーの普及に向けて、県協会主催の「神奈川県ミニラグビーファイナルカップ」の開催、NPO法人ヒーローズ主催のミニラグビーの全国大会「ヒーローズカップ」の開催などについても、行政も支援し取り組んできた。

ラグビーの精神、 競技を通じた交流

本大会においては、ラグビー競技そのものだけでなく、「ノーサイド」や「One for All, All for One」、5つのコアバリュー（品位、尊重、規律、情熱、結束）などの言葉に代表される、競技の持つ精神性にも大きく注目が集まった。

県協会は、「やさしさにトライ」をスローガンに、いじめの防止、震災復興支援など様々な社会貢献活動や、トップリーグの試合会場や県内ビーチでの美化活動などにも取り組んでいる。

また、本大会開催を契機として、ラグビーを通じた国際交流も行った。

公認チームキャンプ地である海老名市ではロシア代表、小田原市ではオーストラリア代表と市民との交流が行われ、横浜市でもアイルランド代表と、練習場所としてグラウンドを提供した関東学院大学ラグビー部の学生などとの交流が行われた。

また、競技を通じた国際交流やラグビーの普及、将来世代の育成を目的として、日本を含む7カ国・地域の子どもたちが参加した「こどもラグビーワールドフェスティバル2019 supported by 三菱地所グループ」の開催をはじめ様々な国際交流イベントを、様々な団体にご協力いただき、実現してきた。



海老名市でのロシア代表との地域交流イベント

ラグビーの 明日を担う若者たち

ラグビーワールドカップ2019の日本開催は、はじめてラグビーを見た子どもたちから、既にラグビーに親しんできた児童や生徒、将来のラグビー日本代表を目指す学生にまで、多くの感動と夢を与えた。

この夢は、大きなレガシーとして神奈川・横浜のラグビーの未来を切り開いていく。

神奈川・横浜のラグビーの明日を担う子どもたち、若者たち、そして指導者たちに話を聞いた。

〈 小学校 〜はじめてのタグラグビー〜 〉

神奈川県・横浜市ではラグビーワールドカップ2019の日本開催を契機に、ラグビー競技のさらなる振興と、大会前後の機運醸成に向けた取組として、小学校訪問事業を2016年から始めている。

2019年11月中旬、ラグビー元日本代表選手で2015年大会でチームキャプテンを務めた経験を持つ廣瀬俊朗氏が横浜市立中和田小学校を訪問した。体育館で行われた講演ではスライドを使用してラグビーワールドカップ2019での日本代表の戦績を振り返り、身体の大きさやできることが違っていても、活躍できるポジションがあるラグビーの魅力伝えた。

続いてのタグラグビーの実技指導は、神奈川県ラグビーフットボール協会のメンバーに廣瀬氏も加わる形で行われた。

ルールとボールやタグの扱い方の説明後に、実演しながら指導をしていく。初めてラグビーを体験する児童たちも、テレビなどでラグビーワールドカップ2019を観戦したこともあって、積極的にタグを取り合い、ルールを身体で覚えていった。

最後は、6～8名でチームをつくり、大人のチームと対戦。腰につけたタグを相手に取られると、チームメイトにボールを回し、トライが決まると、全員でハイタッチして喜び合った。チーム全員の力で取った1点の重みを感じ取ったようだ。



ラグビー元日本代表キャプテン
廣瀬俊朗さん

数年前にも小学校を訪問しましたが、当時と比較すると、ラグビーについての関心度が上がったな、と実感しました。ラグビーは多様なメンバーが集まってチームを構成しています。子どもたちにはラグビーを通して周りの友だちの個性を認め、相手を思いやる気持ちを育んでもらいたいと考えています。2020年の東京2020オリンピック・パラピックでは7人制ラグビーや車いすラグビーも競技種目に入っていますから応援して欲しいと思います。



中和田小学校3年4組
片野愛大さん

ラグビーは観たことがなかったけれど、今日、タグラグビーを体験し、またやってみたいなと思いました。日本チームには4年後は優勝して欲しいです。



中和田小学校3年4組
猶原美羽さん

タグラグビーは思っていたより走らないといけなかったけれど、みんなで協力してトライを決めることができ、楽しかったです。



横浜市立中和田小学校で行われた訪問授業



〈 ラグビースクール ～ラグビーの楽しさを知る～ 〉

小学校や中学校では、体育の授業でタグラグビーやラグビーを取り入れている学校が限られている一方で、ラグビースクールでは幼稚園児から小・中学生までを対象に、ラグビーを教えている。県・市で活動するラグビースクールのひとつが、1970年に誕生した全国最大規模の横浜ラグビースクールだ。

生徒の在籍数は約600人で、毎週土・日の朝には練習拠点である保土ヶ谷公園ラグビー場に大勢の子どもたちが保護者と一緒やって来る。

横浜ラグビースクールではラグビーを通じてスポーツの楽しさを教えるだけでなく、相手を思いやる気持ちやコミュニケーション力を持った人間を育てることを目的に活動をしている。

週1、2回の練習では、ラグビーに必要な体の使い方やボールを使った連携プレーなどを学年ごとに分かれて学ぶ。指導は、経験者だけでなく、一緒に携わりたい保護者がコーチ資格を取得して行い、年少のクラスほどコーチの数を増やし、飽きずに楽しく学ぶ環境作りと、安全に細心の注意を払う。

ラグビーの様々な動きから体を動かす楽しさを体感し、小学生や中学生になると競技としてのラグビーの面白さを知って、ますますラグビーが好きになっていく子どもたち。プレーすることだけでなく試合観戦にも興味を持つ彼らが、明日のラグビーを担っていく。



横浜ラグビースクールの幼稚園児



横浜ラグビースクール校長
井上史彦さん

日本代表のジャージを着てくる子どもが増えました。2015年のイングランド大会直後には見られなかった現象で、日本代表に憧れる子どもが増えている何よりの証拠ではないでしょうか。ラグビーを身近に感じてもらえるのは、本当にうれしいことです。小さな子はかけっこから始め、やがて周りの小学生を見て、ボールを持って走ってみたいくなる。こうしてラグビーが好きな園児や生徒が増えることで、神奈川や横浜にラグビーが広がっていくことを期待しています。



小学6年生
渡邊彩花さん

イングランド大会で日本代表の活躍を見て、やりたいと思って小学3年生から始めました。練習を重ねて、レベルの高い仲間に出いついたときに喜びを感じます。ずっとラグビーを続けてもっとうまく強くなりたいので、高校ではラグビー部のある学校に進学します。



小学6年生
坪井 悠さん

叔父に憧れて小学1年生から始めました。サインプレーや早いパス回しでトライをとるのが最高です。ワールドカップは3試合を観ましたが、スコットランド戦でボールをつなぎきった稲垣選手のトライに感動しました。

〈 高校ラグビー部 ～ラグビーから学ぶ生きる力～ 〉

神奈川・横浜には高校ラグビーの強豪校として全国的に知られる高校がいくつもある。そのなかの一角が、2020年の全国高校ラグビー大会で優勝を飾った桐蔭学園高校のラグビー部だ。部員は約100名、放課後に設備の整ったグラウンドで練習をする。

今回のラグビーワールドカップ2019にはOBである松島幸太郎選手が出場した。偉大な先輩を目標に、先輩に追いつこうと、部員たちの練習には熱が入る。

桐蔭学園高校ではラグビーワールドカップ2019開催を機に、ラグビー普及のためにグラウンドを開放して近隣の小学生とその保護者を招いて交流会を開いた。

「今後のラグビー普及には、グラウンドなどのハード面の整備以上に、安全な指導ができるコーチの育成といったソフト面の充実も必要だと考えています。そのために行えることはしていきたい」と桐蔭学園ラグビー部の藤原監督。

ラグビーワールドカップ2019の成功でラグビー人気はあがっている。しかし普及には地道な活動が必要だと考える藤原監督は、グラウンド開放などを今後も続け、ラグビーの楽しさや面白さを伝えていきたいと言う。



桐蔭学園高校ラグビー部



桐蔭学園高校
ラグビー部監督
藤原秀之さん

高等学校のクラブ活動である以上、教育の一環として勝つことだけが目標ではなく、ラグビーを通して生徒自身が何かを感じ取ることが大切だと考えています。ラグビーのスポーツとしての技術やスキルを学ぶだけでなく、コミュニケーション能力や自分の力で生きて行くことができる、ライフスキルを身につけることも大きな目標です。

そして、高校ラグビー神奈川県大会で毎年のように優勝を競い、全国大会では優勝2回、準優勝1回の成績を残しているのが慶應義塾高校蹴球部だ。

慶應義塾は1901年、横浜の外国人クラブ(YC&AC)と試合を行い、5対35で敗れたという日本人として初のラグビー試合の記録が遺されている。

慶應義塾高校の蹴球部には、大学になったルーツ校らしい塾蹴球部憲章がある。「日本ラグビーの始祖たる矜持と責任において、独立自尊たる紳士を育む」。

塾蹴球部憲章の精神は日々の活動にも現れている。同じく古くからラグビーに取り組んでいる早稲田大学高等学院や同志社高校などと定期戦を設け、さらには海外から学校を招待して試合を組むことも少なくない。ホスト校として試合後にはかならずアフターマッチファンクション(交流会)を設け、選手間、学校間の交流も大切にしている。

日本ラグビーのルーツ校である慶應義塾には、世界ラグビー関係者も敬意を払う。2015年のラグビーワールドカップ イングランド大会の開催前、次の大会が行われる日本の横浜市に所在する慶應義塾のグラウンド(横浜市港北区)で、優勝トロフィー「ウェブ・エリス・カップ」が公開された。

今回のラグビーワールドカップ2019では、ボールパーソンとして10人の生徒が神奈川・横浜会場での試合に参加した。

地元開催ならではの感動は大きなレガシーを彼らに遺していく。



慶應義塾高校蹴球部



慶應義塾高校3年生
木村亮介さん

決勝戦を含む3試合でボールパーソンという重責を担いましたが、世界最高峰の試合を目の当たりにして圧倒されました。日本対スコットランド戦では観客の熱狂ぶりに驚かされ、ラグビー人気の盛り上がりを実感しました。

〈 大学ラグビー部 ～地域とともに～ 〉

ラグビーワールドカップ2019の成功はラグビーを知らなかった人たちにまでラグビー広めたことだけでなく、若きラグーマンたちの意欲にも火をつけた。

大学のラグビーフットボール部で活躍する学生たちにトップリーグに入る大きな目標ができた。

マネージャーを含めて部員は約180人と、国内の大学では最大規模を誇る東海大学ラグビーフットボール部の学生たちも目標は関東大学リーグ戦での優勝であり、トップリーグ入りだ。毎日の練習を通してそれぞれが自らの役割を自覚し、チームとして一体となる力がラグビーフットボール部の強さを支えている。

しかし、東海大学ラグビーフットボール部の目標はそれだけではない。毎年7月に湘南校舎内のラグビー場で開かれるラグビーフットボール部のイベント「丹沢祭」の中で、数年前から始めた近隣の小学生へのラグビーの指導は、ラグビーフットボール部の強化のみならず、地域の活性化にも役立っている。丹沢祭は、神奈川県や企業との連携も加わり、今では近隣のラグビースクールの子どもたち、未経験の小学生、幼稚園児ら2,000人が参加するラグビーの一大イベントになった。

さらに、秦野市の小学校や幼稚園に部員を定期的に派遣して、ラグビーに接する機会を設けている。最近では東海大学の活動でラグビーと出会った小学生たちが、ラグビーフットボール部入部を目指して入学してくる例も増えている。

多くのラグビー日本代表選手を輩出し、大学ラグビー界の強豪であり続ける東海大学ラグビーフットボール部は、ラグビー普及にもその力を発揮している。



東海大学ラグビーフットボール部



東海大学
ラグビーフットボール部監督
木村季由さん

この10年間は、学生たちを関東大学リーグ1部で優勝するまでに育てると同時に、地域にラグビーの種を蒔いて地道に育ててきた年月でもあります。地域との関わりのなかでチームも成長してきました。今回のラグビーワールドカップに本学の3人のOBが日本代表に選ばれたことは大きな喜びです。日本代表は学生たちの憧れの存在です。彼らがベストパフォーマンスを発揮し、チームに貢献した姿に心から敬意を表したいと思います。



東海大学4年生
主将
眞野泰地さん

兄の影響でラグビーを始めたのは小学1年生の時に、東海大仰星中学、高校とプレーを続けてきました。ラグビーの魅力は、頭を使いながら体を動かすことにあります。ラグビーワールドカップで日本代表が活躍した姿を見て、大学ラグビーにも弾みがつきます。



東海大学4年生
副主将
中野 幹さん

高校では野球をやっていたのですが、同級生の眞野くんに誘われて、ラグビーに転向しました。今回のラグビーワールドカップを見て、さらなる上のラグビーを目指すうえでは、何が必要かを見つけれられたと思っています。

関東学院大学ラグビー部にとっても今回のラグビーワールドカップ2019は特別な大会となった。

横浜市に協力して、天然芝のラグビー専用グラウンドをアイルランド代表とスコットランド代表の公認チームキャンプ地トレーニング施設として提供したのだ。チームが練習中は大学ラグビー部はグラウンドが使えない不便さはあったが、世界レベルのグラウンドと認められたことは部員たちにとって誇りになった。

1991年から天然芝のグラウンドを開放して、小学生を対象にラグビーを教えるなど、早くからラグビーの普及に取り組んできた。

現在もラグビー部のスタッフや部員が指導を行う毎週土曜の活動には、金沢区内を始め横浜市内から約70人の小学生が集まる。7月と12月には神奈川県チームを中心としたタグラグビーの大会「関東学院カップ」を開催している。

また2002年に横浜市がタグラグビーを体育授業の選択科目に導入した際には、部員たちがボランティアとして教師や児童への指導を行った。

女子ラグビーの普及にも熱心で、2015年には関東学院六浦中学校・高等学校に神奈川県内初の女子ラグビー部が創設された。県・市にはまだ女子ラグビー部のある高校が少なく、ラグビーを続けたい女子生徒の県外の高校への流出を食い止めている。

関東学院大学ラグビー部は、優秀な選手を関東全域に輩出する一方、これからも神奈川県・横浜市の小中学校へのラグビー普及を牽引する役割を担っていく。



関東学院大学ラグビー部監督
板井良太さん

この大学のラグビー部はOBや横浜市の皆さんに応援していただいて強くなってきました。今回のラグビーワールドカップでは、OBの稲垣啓太が出場しましたが、学生たちは先輩の勇姿をみて、次は自分も出たいという気持ちを強くしたと思います。地元開催で夢が広がりました。



関東学院大学4年生
川崎龍清さん

高校でラグビーを始めました。板井監督に勧められて入部しましたが、今の環境が自分に合っていて楽しく練習しています。卒業後はトップリーグでプレーします。



関東学院大学4年生
鈴木伊織さん

キャプテンとして15人が一体となってボールをつないでいけるよう、常にチームのまとまりを考えています。ラグビーワールドカップで公認キャンプ地に選ばれるほど質のいいグラウンドで練習できることを誇りに思っています。



関東学院大学ラグビー部



関東学院大学の天然芝のグラウンド

ラグビーワールドカップ2019 神奈川・横浜開催を終えて

■ ラグビーワールドカップ2019開催都市特別サポーター（神奈川県・横浜市）



林 敏之氏

ラグビーワールドカップは本当に素晴らしい大会でした。競技場、ファンゾーン、パブリックビューイングに大勢の人が来て、ラグビーを楽しんでくれました。ラグビー関係者として嬉しかったし、サポーターとして大会の盛り上げに関われたことは光栄でした。

2年前までラグビーワールドカップの認知度は低くて心配しましたが、終わってみればアジアを代表して日本で開催された本大会は大成功でした。運営に携わった方々の努力に敬意を表したいと思います。

ワールドカップは大成功に終わりましたが、今後の日本ラグビーの課題は、トップリーグの再構築と、教育を柱とした将来世代へのラグビー普及育成だと思っています。

ラグビーの面白さや楽しさ、そして文化を発信して、今回ラグビーファンになった人たちの心をしっかり掴まなければいけません。

元々教育のために生まれたラグビー、私はヒーローズカップを主催してラグビー普及育成に取り組んできましたが、本大会の日本開催によって、子どもたちのラグビー熱は一気に上がりました。昨年と今年、ヒーローズカップの決勝大会を横浜で行うことができましたが、これからも県・市と協力して多くの子どもたちにラグビーの素晴らしさを伝えていけたらと思います。

〈プロフィール〉同志社大学在学中から日本代表に選出され活躍。NPO法人ヒーローズを設立し理事長に就任。ヒーローズカップを主宰



吉田義人氏

今大会終了後の会見で、ワールドラグビーのビル・ボームント会長は「今回大会は最も偉大なワールドカップとして記憶に残る。日本は開催国として最高だった」と述べましたが、本当に素晴らしい大会でした。

特に記憶に残るのは10月13日の日本対スコットランド戦への対応です。台風通過後、試合開催が危ぶまれる中で会場復旧に向けるスタッフや関係者の熱意には頭が下がりました。競技場の遊水地としての重要な役割、緊急事態を想定して準備をしていた運営体制が世界中に伝えられ、高く評価されました。日本のラグビー関係者としても誇りに思いました。

神奈川県・横浜市と協力して、ラグビーボー

ルに触れたことのない親子を対象に、親子ラグビー教室を開催していますが、こうした活動がラグビーに興味を持つ人を増やし、大会を盛り上げる一助になったと自負しています。

ワールドカップを開催したからラグビー人気が続くわけではなく、これからの一つ一つの活動が大切です。親子ラグビー教室をはじめ、これからも県と市と協力しながらラグビー普及に努めていきたいと思っています。

〈プロフィール〉19歳で日本代表に選出されW杯2度出場。日本人で唯一世界選抜に3度選出。現在は一般社団法人日本スポーツ教育アカデミー理事長。7人制ラグビー専門チーム「サムライセブン」の代表兼監督も務める。



鈴木彩香氏

本大会を成功に導いた要因の一つは、運営スタッフの皆さんの熱意だったと思います。大会前からいろいろなイベントに出席しましたが、大会が近づくにつれて、一般の方々の期待が膨れ上がっていくのを感じて、運営スタッフの皆さんとともに絶対に成功させようと自身の気持ちも盛り上がりました。

これまで女子ラグビーは好奇の目で見られがちでしたが、今は中学・高校の女子ラグビー選手を応援して下さる方も増えました。一流の試合を間近で見て良い刺激を受けた彼女たちは素晴らしい選手になると思います。

ラグビー人気の継続のためには、小さな頃

からラグビーに親しめる環境作りや、ラグビーを楽しむイベントを定期的で開催するなど、ラグビーが年齢を超えて気軽に楽しめるスポーツとして定着することが必要です。試合を観戦して感動する、夢のような時間を過ごすことができれば、ラグビーは特別なものではなくなると思います。そのために女子ラグビー選手として私にできることはこれからも協力していきたいと思っています。

〈プロフィール〉神奈川県横浜市出身、関東学院在学中にアジア女子ラグビー大会の代表に選出。女子ラグビーの若きリーダー的存在

■ 神奈川県ラグビーフットボール協会会長



丹治 明氏

神奈川県のラグビー競技の普及は、神奈川県ラグビーフットボール協会が中心となり取り組んできた。

ラグビーワールドカップ2019の開催を終えて、この大きな盛り上がりを一過性のものにならないために、これからラグビーをどのようにしていったらよいのか。神奈川県ラグビーフットボール協会会長丹治明氏に話を聞いた。

〈 日本代表の活躍 〉

ラグビーワールドカップ2019はこれまでのラグビーファンだけでなく、はじめてラグビーを見るという方々の間でも大いにも盛り上がり、大成功のうちに終了したことは、ラグビー界の今後にとって大きな喜びです。

強化練習のなかでスクラムを強くしてきた結果として、今大会ではほとんどボールをとられませんでした。強くなったのはスクラムだけではありません。現代ラグビーはボールを動かすスポーツになっています。今回の大会で再三素晴らしいワンハンド・パスをつなげた日本代表の世界レベルのプレーは、体格の勝る相手を見事に翻弄していました。

〈 ラグビーの見え方の変化 〉

競技場でも素晴らしいプレーを見た観客は自然に声が出ていたので、ラグビーの醍醐味が伝わったと感じています。ではこれでラグビーは人気スポーツになれるのでしょうか。

ラグビーは体と体がぶつかり合い、ケガをする可能性が高いスポーツだと思われてきました。しかし、今回のラグビーワールドカップのおかげで少しだけラグビーの見え方が変わってきているように思います。

体がぶつかりあう激しいスポーツですが、そのなかにフェアプレー精神やノーサイド、選手同士がお互いを信じあってプレーする独特の精神があります。その姿に、子どもたちだけでなく大人の方も感動されたし、なにより選手の顔が見えてきたことで、競技への関心が一層高まったと思います。

〈 これまでの取組と今後 〉

ラグビーワールドカップ2019の盛り上がりをきっかけに、日本の、そして神奈川県内のラグビーはもう一歩違う段階になっていけると期待しています。

これまでもラグビーの裾野を広げるために、神奈川県ラグビーフットボール協会では『はじめてのラグビー・一斉体験会』を各所で開催してきました。小学校派遣授業やそのほかにも、様々な取組を行い、子どもたちにラグビーボールを追いかける魅力を伝えてきました。

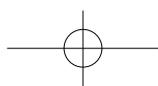
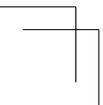
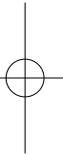
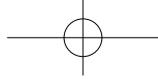
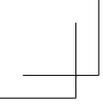
また、県内にはラグビースクールがたくさんあり、小学校や中学校でラグビーを体験する機会が無いけれど、ラグビーが大好きというたくさんの子供たちが通っています。安全に配慮しながらラグビーの楽しさを教えているスクールでは、様々な大会で試合を行い、技術を磨き合っています。

ラグビーの普及には競技者が増えるだけでなく、応援する人が増えることも必要です。今のジャパンラグビートップリーグにはトップクラスの外国人選手が加わっているので、国内の試合でも世界の一流選手のプレーを見ることが出来ます。神奈川県内の競技場で行われる試合にぜひ足を運んでいただきたいと思っています。

体が小さくても足が速い、気持ちが強いといった、自分の特徴を見つけて表現するのがラグビーというスポーツの面白さです。

体格も得意なことも違う選手たちが、それぞれの特徴を理解し、リスペクトしながら、ゲームを組み立てていく姿をラグビーワールドカップ2019で見て、感動した人は多いと思います。

この感動を継続していくためにも、子どもたちがラグビーに触れる場所や機会を提供し、同時に素晴らしい試合が見られる機会を増やし、それを広く伝えていくことが重要だと思っています。



ラグビー ワールドカップ 2019™

神奈川県・横浜市開催記録集

Rugby World Cup 2019™
Memories of the games held in
HOST CITY KANAGAWA・YOKOHAMA

発行 令和2年3月

発行者 横浜市市民局スポーツ統括室
ラグビーワールドカップ2019推進部ラグビーワールドカップ2019推進課
〒231-0017 横浜市中区港町1-1
TEL.045-671-4566 FAX.045-664-0669
E-mail:sh-sports@city.yokohama.jp
ウェブサイト <https://www.city.yokohama.lg.jp/kanko-bunka/sports/shinko/>

神奈川県スポーツ局スポーツ課
〒231-8588 横浜市中区日本大通1
TEL.045-210-0797 FAX.045-662-5557
ウェブサイト <http://www.pref.kanagawa.jp/docs/tz5/index.html>

制作・印刷 株式会社 神奈川新聞社

